2023 年度

履修案内・授業内容(シラバス)

2 年生

杏林大学医学部

目次

項目	ページ
学生諸君へ	3
履修案内・授業内容（シラバス）の配布にあたって	3
教育理念	4
教育目標	6
杏林大学医学部学生の到達目標	6
カリキュラムの概要	7
６年間のカリキュラムの概要（カリキュラム・マップ）	１０
学年別科目等一覧	１０
成績評価	１１
授業時間、使用講義室	１３
年間スケジュール	１４
時間割表	１６
英語・医学英語Ⅱ	２２
ドイツ語Ⅱ（自由選択科目）	３２
フランス語Ⅱ（自由選択科目）	３４
中国語Ⅱ（自由選択科目）	３６
実践英語Ⅱ（自由選択科目）	３８
行動科学Ⅱ	４０
早期体験学習Ⅱ	４３
人文・生命科学特論	４６
保健・医療の現状と未来Ⅱ	４８
肉眼解剖学Ⅱ	５０
組織解剖学	５８
統合生理学	６５
病態生理学	７０
基礎感染症学	７５
細胞生物学	８０
熱帯病・寄生虫学	８４

学生諸君へ

医学部長　平形　明人

皆さんは、良き医師あるいは医学者を目指して医学部に入学しました。そのために必要な学習および生活指針が書かれているのが、履修案内・授業内容（シラバス）と学生案内です。この指針に沿った授業内容は、プロフェッショナルな医師になるために必要な学習ですから、努力を惜しまずに励んでください。

医学の進歩は早く、その情報量は膨大です。良い医師になるためには、生涯にわたって学習する必要があります。知識を得るだけではなく、それを医療に応用するための教養を高めることが求められています。そのために、自ら学ばんとする習慣、医師としての態度や価値観を養成するのが医学部教育の基本です。

講義や実習に必ず出席し、先生方から、それぞれの分野での豊かな経験に裏打ちされた生きた指導を受けることが大切です。そして、そこで提示される膨大な情報を咀嚼するためには、自ら学ぶ姿勢をもって勉学に臨むことが不可欠です。

諸君は、医師として社会に貢献したい、という強い意志を持って、本学で学ぶ決意をされたことと思います。その初心を忘れることなく、勉学に邁進してください。

履修案内・授業内容（シラバス）の配布にあたって

教務部長　柴原　純二

医師には、広い医学知識や高度な医療技術はもとより、豊かな人間性、高い倫理性が求められます。そして社会のこの要請は日々高まってきています。学生諸君はこの社会の要請に応えるべく、真摯な姿勢で医学の勉学に励むとともに、社会の規律を率先して守り、また、人間性を高める努力を怠ってはいけません。

医学部６年間の教科内容は医学ならびに医学周辺の自然科学領域ばかりではなく、人文科学や社会科学に至るまで、多岐にわたっています。学習量は膨大ですが、科目毎に、そして学年毎に着実に修得していけば、最終的に目標が達成されるよう、カリキュラムは構成されています。

この「履修案内・授業内容（シラバス）」では、６年間のカリキュラムの概要から各学年各科目の詳細な学習内容まで、整理して提示されています。ここには年間の時間割の他、教科毎の教育方針、到達目標、授業や実習の内容や日程、成績の判定評価法、教科書・参考書などが記載されています。この「履修案内・授業内容（シラバス）」を学習のよき道しるべとして、各自の工夫で使いこなして下さい。

「履修案内・授業内容（シラバス）」の基本的な利用例は、

１）各教科の「教育の基本方針」、「到達目標」をよく読み、その授業を通して到達すべき目標を明確にする。

２）各授業や実習の前には「講義テーマ」および「講義内容」に目を通し、履修すべき内容をあらかじめ把握しておく。

３）授業終了後、その内容を今一度整理し、疑問点があれば早い時期に解決しておく。

膨大な内容を含む医学の学習を効率的に進めるためには、このような日々の予習、受講、復習の積み重ねが不可欠であるということを充分認識して下さい。また「履修案内・授業内容（シラバス）」には教科書・参考書等も記載されています。授業や実習に関連した事項のみならず、その周辺の領域についても意欲的に学ぶ姿勢を持つことが望まれます。試験に際して、この「履修案内・授業内容（シラバス）」を、試験範囲についての系統的整理・学習の指針として利用するのも一方でしょう。

「履修案内・授業内容（シラバス）」を座右に置き、日々、これを活用し、学生諸君全員が無事、所期の目的を達成されることを願ってやみません。

教育理念

医学部の理念・目的は、「豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成する」ことにある。

この理念の意味するところは、真理への謙虚な探究心の育成、善なる社会人の養成、そして美しい専門的技量の研磨ということである。

【学位授与の方針(ディプロマポリシー)】

医学部医学科ではその理念に基づき、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定める。必要な単位取得等の卒業要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められる学生に学士（医学）を授与する。

（1）医師の社会的責任

医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性に基づき、医師として責任のある行動ができる。

（2）医学知識と技能

基本的な医学知識及び技能を修得するとともに、医学・医療の進歩に目を向け、生涯にわたって自己の知識・技能を改善・発展させる意欲と素養を有する。

（3）問題解決能力・リサーチマインド

医学・医療上の課題の特定と問題の解決に必要な能力と資源の活用法を身につけ、科学的な思考・分析に基づいた的確な判断を行うことができる。

（4）コミュニケーション能力

多様化・国際化の進む社会において、医療チームの一員として患者・家族との良好な信頼関係を構築するとともに、国内外の医学・医療関係者との交流を図るためのコミュニケーション能力ならびに外国語運用能力を有する。

（5）医学・医療と地域・社会との関わり

公衆衛生の基本的な知識及び手法を修得し、健康・福祉の増進に関して、地域・社会の要請に応えることができる。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)】

医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、医学準備教育、行動科学、基礎医学、臨床医学、社会医学、外国語の６つの領域からなる授業科目を体系的、順次的に編成し、多様な教育方法を適切に組み合わせた授業を実施する。科目間の関連や科目内容の順次性を示したカリキュラムマップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく提示する。

教育内容、教育方法、成果の測定については以下のように定める。

（1）教育内容

（1-1）医師の社会的責任を修得するために

・医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性を涵養するために、「生命倫理と医療安全」、「人文生命科学特論」、「早期体験学習」などとともに、医のプロフェッショナリズム、医師のキャリア形成、心理学などの内容を取り入れた「行動科学」を配置する。

（1-2）医学知識と技能を修得するために

・医学専門教育への円滑な導入を図るために、医学準備教育科目として「入門化学」「生体化学」「入門生物学」「生物学」「入門物理学」「医学物理学」「医学統計学」「情報科学」を体系的、順次的に配置する。

・基礎医学の知識と技能を修得するために、「肉眼解剖学」「組織解剖学」「細胞生物学」「分子生物学」「代謝生化学」「病態生理学」「統合生理学」「病理学」「薬理学」「感染症・免疫学」「熱帯病・寄生虫学」の講義及び実習を体系的、順次的に配置する。

・臨床医学の知識と技能を修得するために、臨床医学各科の講義および臨床実習を体系的、順次的に配置する。

・生涯にわたって自己の医学知識・技能を改善・発展させる意欲と素養を涵養するために、医のプロフェッショナリズム、医師のキャリア形成、情報科学などの内容を取り入れるとともに、臨床実習を含むすべての科目において生涯学習への動機づけと能力の修得を図る内容を取り入れる。

（1-3）問題解決能力・リサーチマインドの涵養のために

・医学・医療上の課題の特定と問題の解決に必要な能力、さらにリサーチマインドを涵養するために、「プレチュートリアル」、「チュートリアル」を配置するとともに、基礎医学、臨床医学、社会医学各科目の講義及び実習において、基本的な研究手法に関する内容を取り入れる。また、その際に必要となる資源の活用法を修得するために、「情報科学」を配置する。

（1-4）コミュニケーション能力の涵養のために

・患者・家族との良好な信頼関係の構築とともに、医療チームの様々な職種のメンバーとの円滑な意思疎通、医学・医療関係者との交流に必要となるコミュニケーション能力を涵養するために、「早期体験学習」、心理学やカウンセリングなどの内容を取り入れた「行動科学」を配置する。

・多様化・国際化の進む社会において患者・家族との良好な信頼関係を構築するとともに、国内外の医学・医療関係者との交流を図るために必須となる「英語・医学英語」「実践英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」などの外国語科目を体系的、順次的に配置する。

（1-5）医学・医療と地域・社会との関わりを理解するために

・医学・医療と地域・社会との関わりを理解するとともに、公衆衛生の基本的な知識及び手法を修得するために、「早期体験学習」のほか、「衛生学」、「公衆衛生学」、「法医学」などの社会医学科目を体系的、順次的に配置する。

（2）教育方法

（2-1）医師に求められる知識、技能、態度の修得のために

上記教育内容の修得を確実なものとするために、医学準備教育、行動科学、基礎医学、臨床医学、社会医学、外国語いずれの領域においても、その教育内容に応じて、講義、演習、実習、地域の医療・福祉現場における体験学習、少人数グループワークによる能動的学習（アクティブラーニング）などの多様な教育方法を効率的に組み合わせて実施する。

（2-2）臨床応用能力の修得のために

臨床医学については、実際の臨床の場での応用力を涵養する目的で、見学型の臨床実習に加えて、診療参加型の実習を重点的に配置する。

（3）成果の測定

（3-1）知識に関連する学修成果の達成は、いずれの領域においても筆記試験（小試験、確認テスト、定期試験、総合試験）、共用試験 CBT、口頭試問のほか、レポート、ポートフォリオ、プレゼンテーションの観察記録などにより評価する。

（3-2）技能に関連する学修成果の達成は、医学準備教育、行動科学、基礎医学、社会医学、外国語の各領域では筆記試験（小試験、月例テスト、定期試験、総合試験）、口頭試問のほか、レポート、ポートフォリオ、実習やプレゼンテーションの観察記録などにより評価する。臨床技能については臨床実習前（共用試験）OSCE、臨床実習後 OSCE のほか、臨床実習中の観察記録などにより評価する。

（3-3）態度に関連する学修成果の達成は、医学準備教育、行動科学、基礎医学、社会医学、外国語の各領域においては講義や実習中の観察記録などにより評価する。臨床医学においては、臨床実習前（共用試験）OSCE、臨床実習後 OSCE のほか、臨床実習中の観察記録などにより評価する。

（3-4）いずれの評価についても、その詳細は「履修案内・授業内容（シラバス）」に記載する。

（3-5）各学年終了時には、各科目について、国際的な成績評価指標である GPA（Grade Point Average）で評価する。

（3-6）大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。

教育目標

教育理念・目的実現のため、医学部は「医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性に基づき、医師として責任ある行動ができること、医師としての基本的な医学的知識及び技能修得していること、的確かつ冷静な問題抽出・解決能力を備えていること、患者・家族との信頼関係の構築とともに、医療チームの一員としての役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につけていること、公衆衛生や医療制度など社会と医師との関わりを理解していること」を教育目標と定める。医学部学生は卒業までにこの目標に到達することが求められる。

杏林大学医学部学生の到達目標

教育理念と学位授与の方針に基づき、杏林大学医学部の学生は、卒業までに以下の能力・態度を身につけることを目標とする。

（1）医師の社会的責任

① 医師・医学研究者としてふさわしい価値観を身につける。
② 医師・医学研究者に求められる倫理と法的責任を認識する。
③ 安全な医療を行う姿勢を身につけ、そのために必要な知識、技能を修得する。
④ 同僚や他の職種の人たちと協調する態度を身につける。

（2）医学知識と技能

① 人体の正常の構造と機能を理解する。
② 主要疾患の病態生理と自然歴を理解する。
③ 薬物治療の原則と、個々の薬物の作用を理解する。
④ 主要疾患の治療法を理解する。
⑤ 心理的、社会的側面を含む適切な病歴聴取が行える。
⑥ 基本的な身体診察が行える。
⑦ 基本的な心肺蘇生術（basic life support）が行える。
⑧ 病歴と身体診察の所見から問題点を抽出し、根拠（evidence）に基づく解決法を示すことができる。
⑨ 患者の問題解決のための人的資源、診断手段、治療手段、医療・保健施設、社会制度について理解する。
⑩ カンファランス、回診において適切な症例呈示が行える。
⑪ 適切な医療記録を作成するための基本的原理を理解する。

（3）問題解決能力とリサーチマインド

① 適切な情報源にアクセスして必要な情報を収集することができる。
② 様々な情報源から得られた情報に基づき、科学的思考によって問題解決を図る能力を身につける。
③ 批判的思考と研究的な態度を身につける。
④ 基本的な医学研究のプロセス（課題・仮説の設定、研究方法の設定、調査・実験の実施、結果の考察、論文の作成）を理解する。
⑤ 自律的で、適切な自己評価に基づいて生涯学び続ける態度と能力を身につける。

（4）コミュニケーション能力

① 患者、家族、同僚、他職種の人たちと良好な人間関係を築くための基本的なコミュニケーション能力を身につける。
② 患者、家族の文化的、宗教的、個人的背景に配慮して行動できる。
③ 診療・研究に必要な英語運用能力を身につける。

（5）医学・医療と地域・社会との関わり

① 健康状態に影響するライフスタイル、遺伝、人口統計、環境、社会、経済、心理、文化の各因子について理解する。
② わが国の医療・保健制度および医療経済について理解する。
③ 個人あるいは地域・職域において健康を維持し疾病を予防する方策を示すことができる。
④ 健康問題や疾病の予防について地球規模の視野に立って理解する。

カリキュラムの概要

杏林大学医学部のカリキュラムは、カリキュラムポリシーにのっとり、豊かな人間性の涵養および医師に求められる専門的知識と技能の修得、さらには医学の発展に対応しうる総合的判断能力の育成を目的として、諸科目を有機的に配置している。汎用的能力を育むため、各科目において学修者の能動的参加を取り入れた授業・実習法（アクティブ・ラーニング）を積極的に採用している。

以下に、学年毎の概要および学習指針を示す。

第１学年（Ｍ１）

高校時代に学習した物理、生物、化学などの基礎科学の知識を発展させ、医学物理学、生物学、生体化学、医学統計学など、医学にかかわる科学の基礎知識を学習する。

同時に、医師に求められる基本的姿勢および知識を学ぶ。とくに「行動科学Ⅰ」、「生命倫理と医療安全」などの講義や、病院体験学習、地域体験学習、患者体験学習の３つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅰ」を通して、社会が医師に求める姿勢・態度、そして患者から期待される医師像や医療のあり方を学習し、医学生として相応しい価値観や態度を身につける。

病院体験学習（early clinical exposure）は、配属される診療科で医療の実際を体感することを通して、医師の役割を理解し、医学生としての自覚を新たにする。地域体験学習では、地域の福祉施設などでの体験に加え、講義やグループ学習、学内報告会を通して、課題解決の方法について学ぶ。患者体験学習では、OSCE（客観的臨床能力試験）での患者体験により、患者の立場や感情について体験的に学ぶと同時に、将来求められる医学生としての能力を理解する。

チュートリアル教育は、「与えられた課題からその背後に存在する問題、追求すべき問題点を見出し、必要な情報・資料を検索しつつ、解決に至る道筋を自ら見出す能力を育成する」ことを目的とした教育である。将来、医療の現場で様々な問題に遭遇した際、日々進歩する膨大な医学知識の中から適切な情報を抽出し、これを解決してゆくための方策を学ぶ。

基礎医学については、分子生物学、代謝生化学、肉眼解剖学の講義が始まる。人体の構造の理解を目指す解剖学や生命現象の根源にせまる分子生物学・代謝生化学を学習することは、医学の基本的知識習得の第一歩を踏み出すことになる。

英語によるコミュニケーション能力は、医師はもとより、国際化の進んだ現代の社会人には、将来の活躍する世界を広げるために不可欠である。その重要性に鑑み、学生を能力別に３０人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。

全学部共通の教養科目の「保健・医療の現状と未来Ⅰ」は医学部では必修であるが、これ以外に他学部が実施する社会学科目「社会と大学Ⅰ～Ⅲ」が自由選択科目として設置され、履修可能となっている。良き医師になるためには、これらの人文系の学問について学び、人間としての幅を広げることもきわめて重要である。総合大学の医学部に学ぶメリットを生かし、ぜひこれら他学部の教養科目についても積極的に履修してほしい。

第２学年（Ｍ２）

将来医師となるための土台となる基礎医学を学ぶ上で重要な学年である。解剖学（肉眼解剖学及び組織解剖学）、統合生理学、病態生理学、細胞生物学、基礎感染症学、熱帯病・寄生虫学などの基礎医学科目を学び、同時に実習が行われる。これらの科目は人体の構造と機能や異常の発生を理解する上できわめて重要なものである。多くの学生から、「臨床医学に進んで、はじめて基礎科目の重要性を認識した」との声を聞くが、学年が進んでからこれらの科目を一から学びなおすことにはかなりの困難を伴う。生涯学習の土台となる重要な学年であることを自覚し、基礎医学科目の徹底した修得を目指してほしい。

「行動科学Ⅱ」、「早期体験学習Ⅱ」、「人文・生命科学特論」などの講義や体験学習を通して、ヒトの多様なあり方を理解し、医師に求められる人間性や倫理性を身につける。「行動科学Ⅱ」では、医療安全、カウンセリング、生命・医療倫理、コミュニケーション、多様性などについて学習する。身体診察入門、地域体験学習、病院体験学習の３つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅱ」では、身体診察に必要となる基本的な技能の習得、地域の福祉施設や病院での体験学習を通して、医学生としての自覚を高める。

また、「保健・医療の現状と未来Ⅱ」では、臨床医学の最先端の話題に触れ、臨床医学への関心を高めるとともに、基礎医学の学習との関連を学ぶ。

なお第１学年に引き続き、英語に関しては、学生を能力別に３０人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。

第３学年（Ｍ３）

前年に引き続き、薬理学、病理学Ａ・Ｂなどの基礎医学科目が配置されている。これらの科目はすでに学んだ人体の構造と機能の上にさらに「病態」の要素が加わったものであり、その知識や考え方は、医師として患者の病態機序や薬剤の作用機序などを考えるための基礎となる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学Ａ・Ｂ、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学・脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。

科目数の多い学年であるが、やみくもに知識を詰め込むのではなく、それまでに学んだ基礎生命科学や基礎医学の知識を臨床医学の知識と関連づけ、「なぜそうなるのか」ということを良く理解することが、臨床の現場で応用可能なしっかりした知識体系を修得する上で重要である。

身体診察入門、地域・病院体験学習の２つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅲ」では、Ｍ４から開始される臨床実習につながる技能、態度を身につける。

その他、必修科目として医学英語が行われる。医学英語では、少人数のグループで英文医学論文の講読の演習を行うスモールグループ学習が行われる。

第４学年（Ｍ４）

第３学年後半から始まった臨床医学の講義が引き続き行われる。

和漢医学概論、法医学、高齢医学、リウマチ膠原病学、小児外科学、救急医学、脳神経外科学・脳卒中医学、整形外科・リハビリテーション医学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学・放射線腫瘍学、麻酔科学、腫瘍学、感染症学、生活習慣病学などが含まれる。臨床医学に関する系統的な知識の修得は、臨床実習に際して不可欠であり、実地臨床への第１歩という認識のもとに学習して欲しい。

また、臨床実習に備え、診断能力と基本的な臨床技能を身につけるための臨床診断学講義および実習が行われる。実習は小グループで、各テーマをローテートして行われる。

その他、臨床医学的な内容を課題としたチュートリアル教育、必修科目としての医学英語が行われる。医学英語では、第３学年に引き続いて少人数のグループで英文医学論文の講読演習が行われ、さらに高度な英語能力の修得を目指す。

後期には臨床実習(Bed Side Learning, BSL)が開始されることになる。臨床実習に先だって、これまでに学んだ基礎、臨床、社会医学の知識と基本的な臨床技能に関して、全国共通で行われる共用試験（コンピュータ試験 CBT と基本的臨床技能試験 OSCE）による評価を受ける。共用試験に合格することは臨床実習履修の要件である。臨床実習を許可されたものには、白衣式において白衣と Student Doctor の認定証が授与される。BSL は、これまでに修得した医学知識を、実地臨床に応用する能力の育成が目的であり、ほぼ１年間にわたって小グループで各科を順次ローテートして行われる。医学生が、実際の患者に対応する最初の経験であり、臨床医としての姿勢の基本がこの時点で形成されるといっても過言ではない。生涯の理想の医師像を目指す第一歩に相応しい態度で臨んでいただきたい。

BSL においては、医師を志す者として、身だしなみや言葉遣いはもとより、時間厳守、守秘義務などにも十分注意するとともに、病院内は公共の場であることを認識し、私物の持ち込みは最低限にするべきである。また、ひとたび院内感染が発生すると患者のみならず病院機能に甚大な影響を与えることから、感染防御の徹底は臨床実習において不可欠な姿勢であり、必要に応じシミュレーション教育を行うことでその習得を目指す。

なお第１～４学年で学んだ医学英語から進んで、さらに高度な英語力を身につけたいと希望する学生や、第６学年で海外でのクリニカルクラークシップ実習を希望する学生等を対象にした「英語・医学英語Ⅴ」を選択科目として設定している。

第５学年（Ｍ５）

M4 後期に引き続き、臨床実習が主体となる。当学年では、ローテート型の BSL の後に、学生の診療参加型実習をさらに発展させたクリニカルクラークシップが取り入れられている。クリニカルクラークシップにおいては、自らが担当する患者の担当医になったつもりで病歴を聴取し、課題を解決するための検討を積極的に行う。これまでに修得した医学知識を応用する場であるが、積極的に臨床実習の課題や疑問を解決していかないと、学生間で知識量などに大きく差が開くのもこの時期である。系統だった知識が足りないと感じたら、M4 までに学習した科目を復習し、各科目をローテートしているときに各科の先生に自ら質問し、知識を確実なものにするように心がけて、医師として生涯学習を行うための良い習慣を身につけていただきたい。

なお、M4 と同様であるが、臨床実習においては身だしなみ、言葉遣い、携帯品、時間厳守、守秘義務にも十分注意する。また、感染防御策の習得も肝要であり、そのために必要なシミュレーション教育を行う。

第６学年（Ｍ６）

最終学年は、卒業に向けて全科目の総仕上げと、卒後臨床研修への円滑な導入のための準備に当てられる。医学部で学習する知識量は莫大であり、直前数ヶ月の学習で、卒業試験や医師国家試験に合格することは困難である。一日一日の積み重ねで知識を整理するように心がけてほしい。

先ず６学年の医学知識の総まとめとなる「臨床総合演習Ⅰ」が行われる。総合試験Ⅰ期の後、クリニカルクラークシップが M5 に引き続き行われる。学内もしくは学外（海外を含む）の医療機関で各 4 週間の実習に臨む。
その後さらに、「臨床総合演習Ⅰ」と並んで、公衆衛生学の講義が行われる。既習の医学知識の社会集団への応用と医学知識の整理であり、重要な講義である。なお、「臨床総合演習Ⅱ（復習）」は、総合試験Ⅰ期の成績下位３０名程度を対象に、約３０コマの演習・講義が行われる。

良き医師への最終段階として、６年間に学んだ医学知識・技能・態度の最終確認に日夜専心して欲しい。

学習すべき項目の全てが講義や実習で網羅されるわけではなく、大学での学習では自学自習が基本となる。それぞれの科目で教科書が指定されており、講義予定表には各講義に関連する教科書のページも記載されている。また、教科書以外にも参考書や WEB 上の教育リソース等が網羅的に示されている。これらを活用して予習・復習に取組んでいただきたい。

※各科目に関する質問事項は、各教室（科）教育委員に問い合わせてください。

※下記 URL のリンク先より、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「医師国家試験出題基準」が閲覧できるため、各自参照すること。

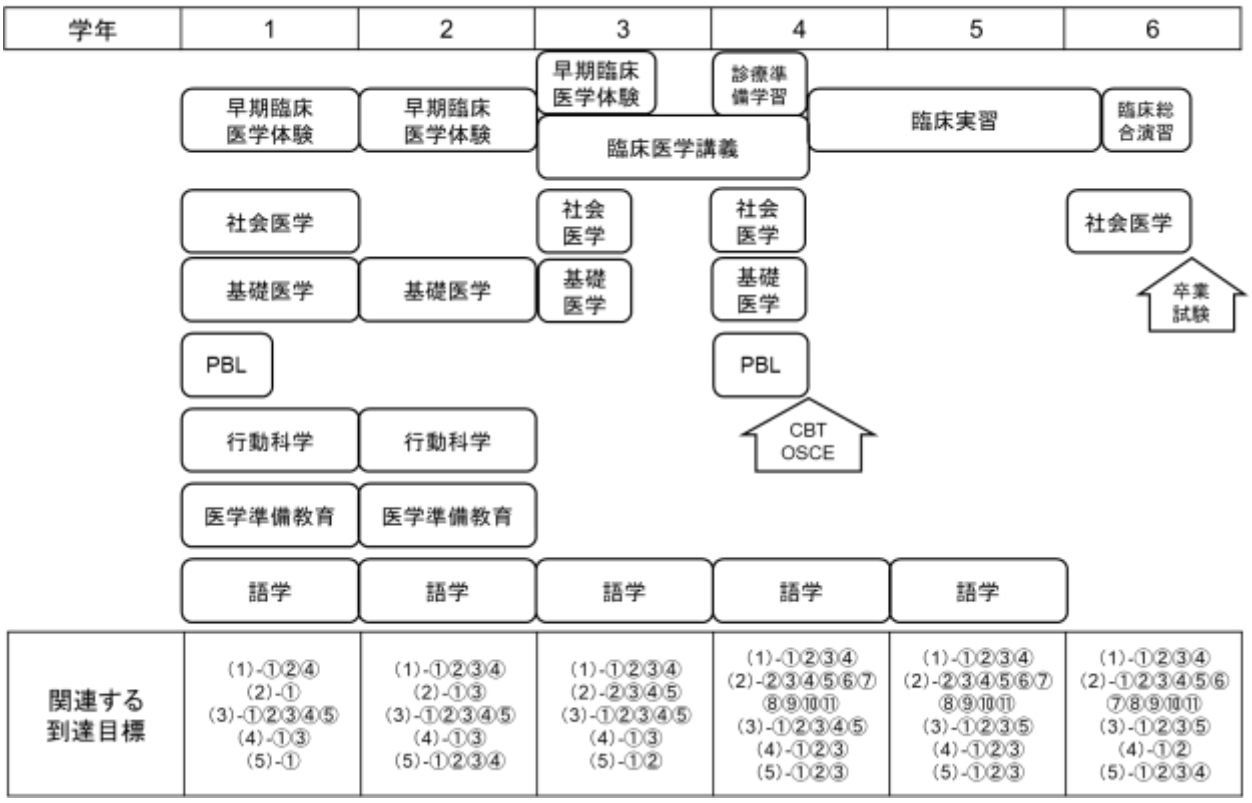
医学教育モデル・コア・カリキュラム

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033-2/toushin/1383962.htm

医師国家試験出題基準

http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000128981.html

6年間のカリキュラムの概要（カリキュラム・マップ）



学年別科目等一覧

学年	分科	授業科目等
1年	科学と医療	情報科学、行動科学Ⅰ、生命倫理と医療安全、早期体験学習Ⅰ、生物学（入門生物学、生物学）、生体化学（入門化学、生体化学）、医学物理学（入門物理学、医学物理学）、プレチュートリアル、医学統計学
	人体の構造	肉眼解剖学Ⅰ
	人体の機能	分子生物学、代謝生化学
	臨床医学	保健・医療の現状と未来Ⅰ
	外国語	英語・医学英語Ⅰ、実践英語Ⅰ ＊第二外国語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ）
	社会科学	＊社会と大学Ⅰ、社会と大学Ⅱ、社会と大学Ⅲ
2年	科学と医療	行動科学Ⅱ、早期体験学習Ⅱ、人文・生命科学特論
	人体の構造	肉眼解剖学Ⅱ、組織解剖学
	人体の機能	統合生理学、病態生理学、細胞生物学
	異常の発生と制御	基礎感染症学、熱帯病・寄生虫学
	臨床医学	保健・医療の現状と未来Ⅱ
	外国語	英語・医学英語Ⅱ ＊実践英語Ⅱ、第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ、フランス語Ⅱ、中国語Ⅱ）
3年	科学と医療	早期体験学習Ⅲ
	異常の発生と制御	薬理学、病理学Ａ、病理学Ｂ、衛生学
	臨床医学	臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学Ａ、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、神経内科学・脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、循環器病学Ｂ、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学
	外国語	英語・医学英語Ⅲ
4年	科学と医療	和漢医学概論
	異常の発生と制御	法医学
	臨床医学	リウマチ膠原病学、高齢医学、小児外科学、救急医学、脳神経外科学・脳卒中医学、整形外科・リハビリテーション医学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学・放射線腫瘍学、麻酔科学、腫瘍学、感染症学、生活習慣病学、臨床診断学
	グループ実習	ＢＳＬ
	応用実習	チュートリアル
	外国語	英語・医学英語Ⅳ
5年	グループ実習	ＢＳＬ
	応用実習	クリニカルクラークシップ（臨床応用実習）Ａ
	外国語	＊英語・医学英語Ⅴ
6年	科学と医療	公衆衛生学
	臨床医学	臨床総合演習
	応用実習	クリニカルクラークシップ（臨床応用実習）Ｂ
＊印 ： 自由選択科目		

成績評価

第１学年（Ｍ１）

１）各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）および／または学年末定期試験（学年末）を行う。再試験については、学年末のみに行う科目、前期及び学年末に行う科目がある。前期のみで履修が完了する科目の再試験は学年末に行う。

２）各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。

３）各科目の最終成績が６０点以上であることが進級の必須条件である。

４）進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第２学年（Ｍ２）

１）各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）および／または学年末定期試験（学年末）を行う。再試験については、学年末のみに行う科目、前期及び学年末に行う科目がある。前期のみで履修が完了する科目の再試験は学年末に行う。

２）各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。

３）各科目の最終成績が６０点以上であることが進級の必須条件である。

４）進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第３学年（Ｍ３）

１）各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）または学年末定期試験（学年末）を行う。前期及び学年末定期試験の再試験は、学年末に一括して行う。

２）各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。

３）各科目の最終成績が６０点以上であることが進級の必須条件である。

４）進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、確認テストの成績、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第４学年（Ｍ４）

１）各履修科目について、夏休み後に定期試験および再試験を行う。

２）夏休み後に共用試験（コンピュータ試験 CBT と実技試験 OSCE）およびその再試験を行う。CBT は共用試験実施評価機構がの合格基準を設定し、試験の実施に先立って通知する。OSCE は臨床技能・態度についての評価に基づき、合格もしくは不合格の判定が行われる。

３）各科目の成績が６０点以上で、かつ共用試験に合格することが BSL 履修の必須条件である。（不合格の場合の M4 後半の履修については別途定める。）

４）各科の BSL については、指導医による観察記録、レポート、試問などにより、各科毎にＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ（Ｄは不合格）の５段階で評価する。詳細はＭ４シラバスの「臨床実習（ＢＳＬ）について」の中のＶ．評価の項を参照のこと。なお、評価方法や点数配分は各科により異なるので、各科の項も併せ参照のこと。

５）進級の判定は、共用試験の成績、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、各科の BSL の評価、確認テストの成績、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第５学年（Ｍ５）

１）各科の BSL については、指導医による観察記録、レポート、試問などにより、各科毎にＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ（Ｄは不合格）の５段階で評価する。詳細はＭ５シラバスの「臨床実習（ＢＳＬ）について」の中のＶ．評価の項を参照のこと。なお、評価方法や点数配分は各科により異なるので、各科の項も併せ参照のこと。

２）総合試験を第Ⅰ期(前期)と第Ⅱ期（後期）の２回に分けて行う。総合試験の成績の判定には第Ⅰ期の成績を２０％、第Ⅱ期の成績を８０％として合算した値を用いる。形式、内容、合否判定の詳細については〈M5 総合試験に関する内規〉を参照のこと。

３）クリニカルクラークシップは、診療参加状況と臨床能力をＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ（Ｄは不合格）の５段階で総合評価する。

４）進級の判定は、総合試験の成績（追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、各科の BSL・クリニカルクラークシップの評価、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第６学年（Ｍ６）

１）総合試験（卒業試験）を第Ⅰ期（前期）と第Ⅱ期（後期）の２回に分けて行う。成績の判定には第Ⅰ期の成績を２０％、第Ⅱ期の成績を８０％として合算した値を用いる。総合試験の形式、内容、合否判定については〈Ｍ６総合試験に関する内規〉を参照のこと。

２）公衆衛生学は、講義の終了後に定期試験および再試験を行う。６０点以上を合格とする。

３）共用試験である OSCE を夏休み後に行う。再試験は総合試験第Ⅰ期終了後に行う。臨床技能・態度についての評価に基づき、合格もしくは不合格の判定を行う。

４）クリニカルクラークシップは、診療参加状況と臨床能力をＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ（Ｄは不合格）の５段階で評価する。

５）卒業には、総合試験、公衆衛生学、OSCE、クリニカルクラークシップのいずれにも合格する必要がある。追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も考慮する。さらに、講義の出席率や履修態度なども含めて総合的に評価する。

＜共通＞

１）再試験で合格となった科目がある場合、本試験における各科目の成績の状況は、進級判定における重要な要素となるので、本試験において最良の結果を出せるよう試験前には常に計画的に学習を行うこと。

２）小テスト、確認テスト等については、試験後に可能な限りフィードバック（形成的評価）を行うので、以後の学習に役立てること。

３）詳細はシラバスの各科目別の頁に記載してあるので、確認しておくこと。

授業時間

時限	授業時間
1 時限目	9:30 ～ 10:45
2 時限目	11:00 ～ 12:15
3 時限目	13:15 ～ 14:30
4 時限目	14:45 ～ 16:00
5 時限目	16:15 ～ 17:30

使用講義室

学年	使用講義室
M1	医学部講義棟 A　4 階　401
M2	医学部講義棟 A　4 階　402
M3	医学部講義棟 A　5 階　501
M4	医学部講義棟 A　5 階　502
M6	医学部講義棟 A　6 階　601

2023年度　年間スケジュール

月日	M1	週
4月8日(土)	新入生オリエンテーション	
4月9日(日)	入学式	
4月10日(月)－4月11日(火)	新入生オリエンテーション	
4月12日(水)－4月14日(金)	基礎カリキュラム（日本医学会総会4月21～23日）（早期体験学習（病院体験）ZOOM）	1
4月17日(月)－4月21日(金)		2
4月24日(月)－4月28日(金)		3
5月1日(月)－5月5日(金)		4
5月8日(月)－5月12日(金)		5
5月15日(月)－5月19日(金)		6
5月22日(月)－5月26日(金)		7
5月29日(月)－6月2日(金)		8
6月5日(月)－6月9日(金)		9
6月12日(月)－6月16日(金)		10
6月19日(月)－6月23日(金)		11
6月26日(月)－6月30日(金)		12
7月3日(月)－7月7日(金)		13
7月10日(月)－7月12日(水)		14
7月13日(木)－7月14日(金)	自習期間	
7月17日(月)－7月21日(金)		
7月24日(月)－7月29日(土)	前期定期試験期間	
7月31日(月)－8月4日(金)	夏季休業期間	
8月7日(月)－8月11日(金)		
8月14日(月)－8月18日(金)		
8月21日(月)－8月25日(金)		
8月28日(月)－9月1日(金)	基礎カリキュラム	15
9月4日(月)－9月8日(金)		16
9月11日(月)－9月15日(金)		17
9月18日(月)－9月22日(金)		18
9月25日(月)－9月29日(金)		19
10月2日(月)－10月6日(金)		20
10月9日(月)－10月13日(金)		21
10月16日(月)－10月20日(金)		22
10月23日(月)－10月27日(金)		23
10月30日(月)－11月3日(金)		24
11月6日(月)－11月10日(金)		25
11月13日(月)－11月17日(金)		26
11月20日(月)－11月24日(金)		27
11月27日(月)－12月1日(金)		28
12月4日(月)－12月8日(金)		29
12月11日(月)－12月15日(金)		30
12月18日(月)－12月22日(金)		31
12月25日(月)－12月29日(金)	冬季休業期間	
1月1日(月)－1月3日(水)		
1月4日(木)－1月5日(金)	自習期間	
1月8日(月)－1月9日(金)		
1月10日(水)－1月13日(土)	学年末定期試験期間	
1月15日(月)－1月20日(土)		
1月22日(月)－1月26日(金)	再試験自習期間	
1月29日(月)－2月3日(土)	学年末再試験期間	
2月5日(月)－2月10日(土)		
2月12日(月)－2月16日(金)	予備期間	
2月19日(月)－2月23日(金)	春季休業期間	
2月26日(月)－3月1日(金)		
3月4日(月)－3月8日(金)		
3月11日(月)－3月15日(金)		
3月18日(月)－3月22日(金)		
3月25日(月)－3月29日(金)		

月日	M2	週
4月3日(月)－4月7日(金)	基礎カリキュラム（日本医学会総会4月21～23日）（早期体験学習（病院体験）対面）	1
4月10日(月)－4月14日(金)		2
4月17日(月)－4月21日(金)		3
4月24日(月)－4月28日(金)		4
5月1日(月)－5月5日(金)		5
5月8日(月)－5月12日(金)		6
5月15日(月)－5月19日(金)		7
5月22日(月)－5月26日(金)		8
5月29日(月)－6月2日(金)		9
6月5日(月)－6月9日(金)		10
6月12日(月)－6月16日(金)		11
6月19日(月)－6月23日(金)		12
6月26日(月)－6月30日(金)		13
7月3日(月)－7月7日(金)		14
7月10日(月)－7月12日(水)		15
7月13日(木)－7月14日(金)	自習期間	
7月17日(月)－7月19日(水)		
7月20日(木)－7月22日(土)	前期定期試験期間	
7月24日(月)－7月29日(土)		
7月31日(月)－8月4日(金)	夏季休業期間	
8月7日(月)－8月11日(金)		
8月14日(月)－8月18日(金)		
8月21日(月)－8月25日(金)		
8月28日(月)－9月1日(金)		
9月4日(月)－9月8日(金)	基礎カリキュラム	16
9月11日(月)－9月15日(金)		17
9月18日(月)－9月22日(金)		18
9月25日(月)－9月29日(金)		19
10月2日(月)－10月6日(金)		20
10月9日(月)－10月13日(金)		21
10月16日(月)－10月20日(金)		22
10月23日(月)－10月27日(金)		23
10月30日(月)－11月3日(金)		24
11月6日(月)－11月10日(金)		25
11月13日(月)－11月17日(金)		26
11月20日(月)－11月24日(金)		27
11月27日(月)－12月1日(金)		28
12月4日(月)－12月8日(金)		29
12月11日(月)－12月15日(金)		30
12月18日(月)－12月22日(金)	冬季休業期間	
12月25日(月)－12月29日(金)		
1月1日(月)－1月3日(水)		
1月4日(木)－1月5日(金)	自習期間	
1月8日(月)－1月9日(火)		
1月10日(水)－1月13日(土)	学年末定期試験期間	
1月15日(月)－1月20日(土)		
1月22日(月)－1月26日(金)	再試験自習期間	
1月29日(月)－2月3日(土)	学年末再試験期間	
2月5日(月)－2月10日(土)		
2月12日(月)－2月16日(金)	予備期間	
2月19日(月)－2月23日(金)	春期休業期間	
2月26日(月)－3月1日(金)		
3月4日(月)－3月8日(金)		
3月11日(月)－3月15日(金)		
3月18日(月)－3月22日(金)		
3月25日(月)－3月29日(金)		

月日	M3	週
4月3日(月)－4月7日(金)	基礎カリキュラム　臨床医学講義（日本医学会総会4月21～23日）	1
4月10日(月)－4月14日(金)		2
4月17日(月)－4月21日(金)		3
4月24日(月)－4月28日(金)		4
5月1日(月)－5月5日(金)		5
5月8日(月)－5月12日(金)		6
5月15日(月)－5月19日(金)		7
5月22日(月)－5月26日(金)		8
5月29日(月)－6月2日(金)		9
6月5日(月)－6月9日(金)		10
6月12日(月)－6月16日(金)		11
6月19日(月)－6月23日(金)		12
6月26日(月)－6月30日(金)		13
7月3日(月)－7月5日(水)		14
7月6日(木)－7月7日(金)	自習期間	
7月10日(月)－7月14日(金)		
7月17日(月)－7月22日(土)	前期定期試験期間	
7月24日(月)－7月29日(土)		
7月31日(月)－8月4日(金)	夏季休業期間	
8月7日(月)－8月11日(金)		
8月14日(月)－8月18日(金)		
8月21日(月)－8月25日(金)		
8月28日(月)－9月1日(金)	臨床医学講義	15
9月4日(月)－9月8日(金)		16
9月11日(月)－9月15日(金)		17
9月18日(月)－9月22日(金)		18
9月25日(月)－9月29日(金)		19
10月2日(月)－10月6日(金)		20
10月9日(月)－10月13日(金)		21
10月16日(月)－10月20日(金)		22
10月23日(月)－10月27日(金)		23
10月30日(月)－11月3日(金)		24
11月6日(月)－11月10日(金)		25
11月13日(月)－11月17日(金)		26
11月20日(月)－11月24日(金)		27
11月27日(月)－12月1日(金)		28
12月4日(月)－12月8日(金)		29
12月11日(月)－12月15日(金)		30
12月18日(月)－12月22日(金)	冬季休業期間	
12月25日(月)－12月29日(金)		
1月1日(月)－1月3日(水)		
1月4日(木)－1月5日(金)	自習期間	
1月8日(月)－1月12日(金)		
1月15日(月)－1月20日(土)	学年末定期試験期間	
1月22日(月)－1月27日(土)		
1月29日(月)－2月2日(金)	再試験自習期間	
2月5日(月)－2月10日(土)	学年末再試験期間	
2月12日(月)－2月17日(土)		
2月19日(月)－2月23日(金)	予備期間	
2月26日(月)－3月1日(金)	春季休業期間	
3月4日(月)－3月8日(金)		
3月11日(月)－3月15日(金)		
3月18日(月)－3月22日(金)		
3月25日(月)－3月29日(金)		

2023年度　年間スケジュール

月日	M4	週
4月3日(月)｜4月7日(金)	臨床医学講義 臨床診断学	1
4月10日(月)｜4月14日(金)		2
4月17日(月)｜4月21日(金)	日本医学会総会 4月21～23日	3
4月24日(月)｜4月28日(金)		4
5月1日(月)｜5月5日(金)		5
5月8日(月)｜5月12日(金)		6
5月15日(月)｜5月19日(金)		7
5月22日(月)｜5月26日(金)		8
5月29日(月)｜6月2日(金)		9
6月5日(月)｜6月9日(金)		10
6月12日(月)｜6月16日(金)		11
6月19日(月)｜6月23日(金)		12
6月26日(月)｜6月30日(金)		13
7月3日(月)｜7月7日(金)		14
7月10日(月)｜7月14日(金)		15
7月17日(月)｜7月21日(金)		16
7月24日(月)｜7月28日(金)		17
7月31日(月)｜8月4日(金)	夏季休業期間	
8月7日(月)｜8月11日(金)		
8月14日(月)｜8月18日(金)		
8月21日(月)｜8月25日(金)	OSCE①、②	
8月28日(月)｜9月1日(金)	自習期間	
9月4日(月)｜9月8日(金)	CBT	
9月11日(月)｜9月16日(土)	定期試験期間	
9月18日(月)｜9月23日(土)		
9月25日(月)｜9月30日(土)		
10月2日(月)｜10月6日(金)	自習期間	
10月9日(月)｜10月13日(金)		
10月16日(月)｜10月21日(土)	再試験期間 CBT	
10月23日(月)｜10月28日(土)		
10月30日(月)｜11月3日(金)	自習期間	
11月6日(月)｜11月10日(金)	BSL直前ガイダンス期間	
11月11日(土) 創立記念日	白衣式	
11月13日(月)｜11月18日(土)	BSL（ブロック1）	1
11月20日(月)｜11月25日(土)		2
11月27日(月)｜12月2日(土)		3
12月4日(月)｜12月9日(土)		4
12月11日(月)｜12月16日(土)		5
12月18日(月)｜12月23日(土)		6
12月25日(月)｜12月29日(金)	冬季休業期間	
1月1日(月)｜1月5日(金)		
1月8日(月)｜1月13日(土)	BSL（ブロック2）	7
1月15日(月)｜1月20日(土)		8
1月22日(月)｜1月27日(土)		9
1月29日(月)｜2月3日(土)		10
2月5日(月)｜2月10日(土)		11
2月12日(月)｜2月17日(土)		12
2月19日(月)｜2月23日(金)	春季休業期間	
2月26日(月)｜3月1日(金)		
3月4日(月)｜3月8日(金)		
3月11日(月)｜3月15日(金)		
3月18日(月)｜3月23日(土)	BSL（ブロック3）	13
3月25日(月)｜3月30日(土)		14

月日	M5	週
4月3日(月)｜4月8日(土)	BSL（ブロック3）	15
4月10日(月)｜4月15日(土)		16
4月17日(月)｜4月22日(土)	日本医学会総会 4月21～23日	17
4月24日(月)｜4月29日(土)		18
5月1日(月)｜5月5日(金)	自習期間	
5月6日(土)	総合試験1期試験	
5月8日(月)｜5月13日(土)	BSL（ブロック4）	19
5月15日(月)｜5月20日(土)		20
5月22日(月)｜5月27日(土)		21
5月29日(月)｜6月3日(土)		22
6月5日(月)｜6月10日(土)		23
6月12日(月)｜6月17日(土)		24
6月19日(月)｜6月24日(土)	BSL（ブロック5）	25
6月26日(月)｜7月1日(土)		26
7月3日(月)｜7月8日(土)		27
7月10日(月)｜7月15日(土)		28
7月17日(月)｜7月22日(土)		29
7月24日(月)｜7月29日(土)		30
7月31日(月)｜8月4日(金)	夏季休業期間	
8月7日(月)｜8月11日(金)		
8月14日(月)｜8月17日(木)		
8月18日(金)	総合試験1期再試験	
8月21日(月)｜8月26日(土)	BSL（ブロック6）	31
8月28日(月)｜9月2日(土)		32
9月4日(月)｜9月9日(土)		33
9月11日(月)｜9月16日(土)		34
9月18日(月)｜9月23日(土)		35
9月25日(月)｜9月30日(土)		36
10月2日(月)｜10月7日(土)	BSL（ブロック7）	37
10月9日(月)｜10月14日(土)		38
10月16日(月)｜10月21日(土)		39
10月23日(月)｜10月28日(土)		40
10月30日(月)｜11月4日(土)		41
11月6日(月)｜11月11日(土)		42
11月13日(月)｜11月17日(金)	自習期間	
11月20日(月)｜11月23日(木)		
11月24日(金)	総合試験2期試験	
11月27日(月)｜12月1日(金)	クリニカルクラークシップ（第1ターム）	1
12月4日(月)｜12月8日(金)		2
12月11日(月)｜12月15日(金)		3
12月18日(月)｜12月22日(金)		4
12月25日(月)｜12月29日(金)	冬季休業期間	
1月1日(月)｜1月5日(金)		
1月8日(月)｜1月11日(木)	自習期間	
1月12日(金)	総合試験再試験	
1月15日(月)｜1月19日(金)	クリニカルクラークシップ（第2ターム）	5
1月22日(月)｜1月26日(金)		6
1月29日(月)｜2月2日(金)		7
2月5日(月)｜2月9日(金)		8
2月12日(月)｜2月16日(金)	クリニカルクラークシップ（第3ターム）	9
2月19日(月)｜2月23日(金)		10
2月26日(月)｜3月1日(金)		11
3月4日(月)｜3月8日(金)		12
3月11日(月)｜3月15日(金)	春期休業期間	
3月18日(月)｜3月22日(金)		
3月25日(月)｜3月29日(金)		

月日	M6	週
4月3日(月)｜4月7日(金)	臨床総合演習	1
4月10日(月)｜4月14日(金)		2
4月17日(月)｜4月21日(金)	日本医学会総会 4月21～23日	3
4月24日(月)｜4月28日(金)	自習期間	
5月1日(月)	総合試験1期試験	
5月2日(火)	OSCE（大学独自）	
5月3日(水)｜5月5日(金)	臨時休業期間	
5月8日(月)｜5月12日(金)	クリニカルクラークシップ（第4ターム）	13
5月15日(月)｜5月19日(金)		14
5月22日(月)｜5月26日(金)		15
5月29日(月)｜6月2日(金)		16
6月5日(月)｜6月9日(金)	クリニカルクラークシップ（第5ターム）	17
6月12日(月)｜6月16日(金)		18
6月19日(月)｜6月23日(金)		19
6月26日(月)｜6月30日(金)		20
7月3日(月)｜7月7日(金)	クリニカルクラークシップ（第6ターム）	21
7月10日(月)｜7月14日(金)		22
7月17日(月)｜7月21日(金)		23
7月24日(月)｜7月28日(金)		24
7月31日(月)｜8月4日(金)	夏季休業期間	
8月7日(月)｜8月11日(金)		
8月14日(月)｜8月18日(金)		
8月21日(月)｜8月25日(金)	臨床総合演習 公衆衛生学	4
8月28日(月)｜9月1日(金)		5
9月4日(月)｜9月8日(金)		6
9月11日(月)｜9月15日(金)	OSCE	7
9月18日(月)｜9月22日(金)		8
9月25日(月)｜9月29日(金)		9
10月2日(月)｜10月6日(金)		10
10月9日(月)｜10月13日(金)		11
10月16日(月)｜10月20日(金)		12
10月23日(月)｜10月27日(金)		13
10月30日(月)｜11月3日(金)	国試手続説明会（予定）	14
11月6日(月)｜11月10日(金)	自習期間	
11月13日(月)｜11月17日(金)		
11月20日(月)	総合試験2期試験（1日目）	
11月21日(火)	総合試験2期試験（2日目）	
11月22日(水)｜11月24日(金)	自習期間	
11月27日(月)｜12月1日(金)		
12月4日(月)｜12月8日(金)		
12月11日(月)｜12月15日(金)		
12月18日(月)｜12月22日(金)	冬季休業期間	
12月25日(月)｜12月29日(金)		
1月1日(月)｜1月3日(水)		
1月4日(木)	総合試験再試験（1日目）	
1月5日(金)	総合試験再試験（2日目）	
1月8日(月)｜1月12日(金)	自習期間	
1月15日(月)｜1月19日(金)		
1月22日(月)｜1月26日(金)		
1月29日(月)｜2月2日(金)		
2月5日(月)｜2月9日(金)		
2月12日(月)｜2月16日(金)	春季休業期間	
2月19日(月)｜2月23日(金)		
2月26日(月)｜3月1日(金)		
3月4日(月)｜3月8日(金)		
3月11日(月)｜3月15日(金)		
3月18日(月)｜3月22日(金)	卒業式	
3月25日(月)｜3月29日(金)		

2023年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
4月1日	土						
4月2日	日						
4月3日	月	**前期授業開始**	統合生理学	統合生理学	細胞生物学	細胞生物学	オリエンテーション
4月4日	火		基礎感染症学	病態生理学	統合生理学	熱帯病・寄生虫学	
4月5日	水			病態生理学	熱帯病・寄生虫学		保健・医療の現状と未来Ⅱ
4月6日	木		細胞生物学	病態生理学		統合生理学	
4月7日	金			英語・医学英語Ⅱ	統合生理学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
4月8日	土						
4月9日	日						
4月10日	月		肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月11日	火			肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月12日	水		細胞生物学	病態生理学	熱帯病・寄生虫学	行動科学Ⅱ	
4月13日	木		統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月14日	金			英語・医学英語Ⅱ	細胞生物学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
4月15日	土						
4月16日	日						
4月17日	月		統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月18日	火			肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月19日	水			病態生理学	細胞生物学	行動科学Ⅱ	熱帯病・寄生虫学
4月20日	木		統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月21日	金	**日本医学会総会**		英語・医学英語Ⅱ	日本医学会総会_参加	日本医学会総会_参加	日本医学会総会_参加
4月22日	土	**日本医学会総会**					
4月23日	日	**日本医学会総会**					
4月24日	月		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
4月25日	火			肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
4月26日	水			病態生理学	熱帯病・寄生虫学	人文・生命科学特論	保健・医療の現状と未来Ⅱ
4月27日	木		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月28日	金			英語・医学英語Ⅱ	細胞生物学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
4月29日	土	**昭和の日**					
4月30日	日						
5月1日	月		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ
5月2日	火			病態生理学	病態生理学		
5月3日	水	**憲法記念日**					
5月4日	木	**みどりの日**					
5月5日	金	**こどもの日**					
5月6日	土						
5月7日	日						
5月8日	月		人文・生命科学特論	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月9日	火			統合生理学	細胞生物学	病態生理学	人文・生命科学特論
5月10日	水		熱帯病・寄生虫学	熱帯病・寄生虫学	統合生理学		
5月11日	木		早期体験学習Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月12日	金			英語・医学英語Ⅱ	熱帯病・寄生虫学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
5月13日	土						
5月14日	日						
5月15日	月		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月16日	火			肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月17日	水		熱帯病・寄生虫学	病態生理学	早期体験学習Ⅱ	人文・生命科学特論	保健・医療の現状と未来Ⅱ
5月18日	木		病態生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月19日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ		自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
5月20日	土						
5月21日	日						
5月22日	月		人文・生命科学特論	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月23日	火		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
5月24日	水		早期体験学習Ⅱ	病態生理学	熱帯病・寄生虫学	人文・生命科学特論	人文・生命科学特論
5月25日	木		早期体験学習Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月26日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ	保健・医療の現状と未来Ⅱ	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
5月27日	土						
5月28日	日						
5月29日	月		熱帯病・寄生虫学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
5月30日	火			肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月31日	水		早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	保健・医療の現状と未来Ⅱ

2023年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
6月1日	木		熱帯病・寄生虫学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月2日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ	細胞生物学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
6月3日	土						
6月4日	日						
6月5日	月		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月6日	火		熱帯病・寄生虫学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
6月7日	水		行動科学Ⅱ	病態生理学	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	保健・医療の現状と未来Ⅱ
6月8日	木		肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月9日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ	健康診断	健康診断	健康診断
6月10日	土						
6月11日	日						
6月12日	月		病態生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月13日	火		熱帯病・寄生虫学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月14日	水		行動科学Ⅱ	病態生理学	熱帯病・寄生虫学	人文・生命科学特論	人文・生命科学特論
6月15日	木		統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ
6月16日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ	保健・医療の現状と未来Ⅱ	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
6月17日	土						
6月18日	日						
6月19日	月		肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	細胞生物学	熱帯病・寄生虫学	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月20日	火		統合生理学	統合生理学	統合生理学	保健・医療の現状と未来Ⅱ	基礎感染症学
6月21日	水		行動科学Ⅱ	病態生理学	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習
6月22日	木		細胞生物学	基礎感染症学	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習
6月23日	金		基礎感染症学	英語・医学英語Ⅱ	人文・生命科学特論	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
6月24日	土						
6月25日	日						
6月26日	月		細胞生物学	細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	統合生理学	病態生理学
6月27日	火			病態生理学	統合生理学	基礎感染症学	保健・医療の現状と未来Ⅱ
6月28日	水		行動科学Ⅱ	病態生理学	基礎感染症学	人文・生命科学特論	人文・生命科学特論
6月29日	木		細胞生物学	病態生理学	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習
6月30日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ		自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
7月1日	土						
7月2日	日						
7月3日	月		基礎感染症学	保健・医療の現状と未来Ⅱ	統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
7月4日	火		統合生理学	統合生理学	基礎感染症学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
7月5日	水		細胞生物学	病態生理学	統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
7月6日	木		細胞生物学	病態生理学	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習
7月7日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ	細胞生物学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
7月8日	土						
7月9日	日						
7月10日	月			病態生理学	統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
7月11日	火			病態生理学	熱帯病・寄生虫学	熱帯病・寄生虫学	
7月12日	水	**前期授業終了**		病態生理学		肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ
7月13日	木	**自習期間**					
7月14日	金	**自習期間**					
7月15日	土						
7月16日	日						
7月17日	月	**海の日**					
7月18日	火	**自習期間**					
7月19日	水	**自習期間**					
7月20日	木	**前期定期試験期間**					
7月21日	金	**前期定期試験期間**					
7月22日	土	**前期定期試験期間**					
7月23日	日						
7月24日	月	**前期定期試験期間**					
7月25日	火	**前期定期試験期間**					
7月26日	水	**前期定期試験期間**					
7月27日	木	**前期定期試験期間**					
7月28日	金	**前期定期試験期間**					
7月29日	土	**前期定期試験期間**					
7月30日	日						
7月31日	月	**夏季休業期間**					

2023年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
8月1日	火	**夏季休業期間**					
8月2日	水	**夏季休業期間**					
8月3日	木	**夏季休業期間**					
8月4日	金	**夏季休業期間**					
8月5日	土						
8月6日	日						
8月7日	月	**夏季休業期間**					
8月8日	火	**夏季休業期間**					
8月9日	水	**夏季休業期間**					
8月10日	木	**夏季休業期間**					
8月11日	金	**山の日**					
8月12日	土						
8月13日	日						
8月14日	月	**夏季休業期間**					
8月15日	火	**夏季休業期間**					
8月16日	水	**夏季休業期間**					
8月17日	木	**夏季休業期間**					
8月18日	金	**夏季休業期間**					
8月19日	土						
8月20日	日						
8月21日	月	**夏季休業期間**					
8月22日	火	**夏季休業期間**					
8月23日	水	**夏季休業期間**					
8月24日	木	**夏季休業期間**					
8月25日	金	**夏季休業期間**					
8月26日	土						
8月27日	日						
8月28日	月	**夏季休業期間**					
8月29日	火	**夏季休業期間**					
8月30日	水	**夏季休業期間**					
8月31日	木	**夏季休業期間**					
9月1日	金	**夏季休業期間**					
9月2日	土						
9月3日	日						
9月4日	月	**後期授業開始**	基礎感染症学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月5日	火			統合生理学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月6日	水			基礎感染症学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月7日	木				組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月8日	金			英語・医学英語Ⅱ	基礎感染症学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
9月9日	土						
9月10日	日						
9月11日	月		行動科学Ⅱ	統合生理学	組織解剖学	組織解剖学実習	
9月12日	火		行動科学Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月13日	水				組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月14日	木				組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月15日	金		基礎感染症学	英語・医学英語Ⅱ	基礎感染症学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
9月16日	土						
9月17日	日						
9月18日	月	**敬老の日**					
9月19日	火			保健・医療の現状と未来Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月20日	水			組織解剖学実習	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月21日	木			保健・医療の現状と未来Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月22日	金			英語・医学英語Ⅱ	行動科学Ⅱ	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
9月23日	土	**秋分の日**					
9月24日	日						
9月25日	月			統合生理学	組織解剖学	組織解剖学実習	
9月26日	火			統合生理学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月27日	水			組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習	
9月28日	木		基礎感染症学	病態生理学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
9月29日	金			英語・医学英語Ⅱ	行動科学Ⅱ	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
9月30日	土						

2023年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
10月1日	日						
10月2日	月				組織解剖学	組織解剖学実習	
10月3日	火			組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
10月4日	水		早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
10月5日	木		基礎感染症学	統合生理学	組織解剖学	組織解剖学実習	行動科学Ⅱ
10月6日	金			英語・医学英語Ⅱ	基礎感染症学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
10月7日	土						
10月8日	日						
10月9日	月	スポーツの日					
10月10日	火			組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
10月11日	水			組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習	病態生理学
10月12日	木		基礎感染症学	行動科学Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学実習	
10月13日	金			英語・医学英語Ⅱ	基礎感染症学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ、実践英語Ⅱ）	自由選択科目（第２外国語Ⅱ、実践英語Ⅱ）
10月14日	土						
10月15日	日						
10月16日	月		早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ		
10月17日	火			組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
10月18日	水			病態生理学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
10月19日	木		統合生理学	基礎感染症学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
10月20日	金	慰霊祭		慰霊祭	慰霊祭	慰霊祭	慰霊祭
10月21日	土						
10月22日	日						
10月23日	月		早期体験学習Ⅱ		組織解剖学	組織解剖学	
10月24日	火			病態生理学	基礎感染症学	組織解剖学	組織解剖学
10月25日	水			統合生理学			
10月26日	木			基礎感染症学			
10月27日	金			英語・医学英語Ⅱ	基礎感染症学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
10月28日	土						
10月29日	日						
10月30日	月			早期体験学習Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学	
10月31日	火			基礎感染症学			
11月1日	水		基礎感染症学	統合生理学			
11月2日	木			病態生理学	統合生理学	組織解剖学実習	組織解剖学
11月3日	金	文化の日					
11月4日	土						
11月5日	日						
11月6日	月			統合生理学			
11月7日	火			統合生理学			
11月8日	水			病態生理学	基礎感染症学	統合生理学	病態生理学
11月9日	木		早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ
11月10日	金			英語・医学英語Ⅱ	基礎感染症学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
11月11日	土	創立記念日					
11月12日	日						
11月13日	月			統合生理学	病態生理学	病態生理学	病態生理学
11月14日	火		統合生理学	病態生理学	基礎感染症学	統合生理学	
11月15日	水		基礎感染症学	病態生理学	病態生理学	統合生理学	基礎感染症学
11月16日	木		早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	早期体験学習Ⅱ
11月17日	金			英語・医学英語Ⅱ	統合生理学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
11月18日	土						
11月19日	日						
11月20日	月		早期体験学習Ⅱ	統合生理学	基礎感染症学	基礎感染症学	病態生理学
11月21日	火			統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月22日	水		基礎感染症学	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月23日	木	勤労感謝の日					
11月24日	金			英語・医学英語Ⅱ	統合生理学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
11月25日	土						
11月26日	日						
11月27日	月		早期体験学習Ⅱ	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月28日	火			統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月29日	水			統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月30日	木		基礎感染症学	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)

2023年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
12月1日	金		基礎感染症学	英語・医学英語Ⅱ	統合生理学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
12月2日	土						
12月3日	日						
12月4日	月			統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)
12月5日	火			統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)
12月6日	水		基礎感染症学	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)
12月7日	木		基礎感染症学	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)
12月8日	金		病態生理学	英語・医学英語Ⅱ	統合生理学	自由選択科目（第２外国語Ⅱ）	自由選択科目（実践英語Ⅱ）
12月9日	土						
12月10日	日						
12月11日	月		基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
12月12日	火		基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
12月13日	水		基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
12月14日	木		基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
12月15日	金	**後期授業終了**	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
12月16日	土						
12月17日	日						
12月18日	月	**冬季休業期間**					
12月19日	火	**冬季休業期間**					
12月20日	水	**冬季休業期間**					
12月21日	木	**冬季休業期間**					
12月22日	金	**冬季休業期間**					
12月23日	土						
12月24日	日						
12月25日	月	**冬季休業期間**					
12月26日	火	**冬季休業期間**					
12月27日	水	**冬季休業期間**					
12月28日	木	**冬季休業期間**					
12月29日	金	**年末年始（学内立入禁止）**					
12月30日	土	**年末年始（学内立入禁止）**					
12月31日	日	**年末年始（学内立入禁止）**					
1月1日	月	**元日（学内立入禁止）**					
1月2日	火	**年末年始（学内立入禁止）**					
1月3日	水	**年末年始（学内立入禁止）**					
1月4日	木	**自習期間**					
1月5日	金	**自習期間**					
1月6日	土						
1月7日	日						
1月8日	月	**成人の日**					
1月9日	火	**自習期間**					
1月10日	水	**学年末定期試験期間**					
1月11日	木	**学年末定期試験期間**					
1月12日	金	**学年末定期試験期間**					
1月13日	土	**学年末定期試験期間**					
1月14日	日						
1月15日	月	**学年末定期試験期間**					
1月16日	火	**学年末定期試験期間**					
1月17日	水	**学年末定期試験期間**					
1月18日	木	**学年末定期試験期間**					
1月19日	金	**学年末定期試験期間**					
1月20日	土	**学年末定期試験期間**					
1月21日	日						
1月22日	月	**再試験自習期間**					
1月23日	火	**再試験自習期間**					
1月24日	水	**再試験自習期間**					
1月25日	木	**再試験自習期間**					
1月26日	金	**再試験自習期間**					
1月27日	土						
1月28日	日						
1月29日	月	**学年末再試験期間**					
1月30日	火	**学年末再試験期間**					
1月31日	水	**学年末再試験期間**					

2023年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
2月1日	木	学年末再試験期間					
2月2日	金	学年末再試験期間					
2月3日	土	学年末再試験期間					
2月4日	日						
2月5日	月	学年末再試験期間					
2月6日	火	学年末再試験期間					
2月7日	水	学年末再試験期間					
2月8日	木	学年末再試験期間					
2月9日	金	学年末再試験期間					
2月10日	土	学年末再試験期間					
2月11日	日	建国記念の日					
2月12日	月	振替休日					
2月13日	火	予備期間					
2月14日	水	予備期間					
2月15日	木	予備期間					
2月16日	金	予備期間					
2月17日	土						
2月18日	日						
2月19日	月	春季休業期間					
2月20日	火	春季休業期間					
2月21日	水	春季休業期間					
2月22日	木	春季休業期間					
2月23日	金	天皇誕生日					
2月24日	土						
2月25日	日						
2月26日	月	春季休業期間					
2月27日	火	春季休業期間					
2月28日	水	春季休業期間					
2月29日	木	春季休業期間					
3月1日	金	春季休業期間					
3月2日	土						
3月3日	日						
3月4日	月	春季休業期間					
3月5日	火	春季休業期間					
3月6日	水	春季休業期間					
3月7日	木	春季休業期間					
3月8日	金	春季休業期間					
3月9日	土						
3月10日	日						
3月11日	月	春季休業期間					
3月12日	火	春季休業期間					
3月13日	水	春季休業期間					
3月14日	木	春季休業期間					
3月15日	金	春季休業期間					
3月16日	土						
3月17日	日						
3月18日	月	春季休業期間					
3月19日	火	春季休業期間					
3月20日	水	春分の日					
3月21日	木	春季休業期間					
3月22日	金	春季休業期間					
3月23日	土						
3月24日	日						
3月25日	月	春季休業期間					
3月26日	火	春季休業期間					
3月27日	水	春季休業期間					
3月28日	木	春季休業期間					
3月29日	金	春季休業期間					
3月30日	土						
3月31日	日						

年度	2023年度	学年	2年
学科目	英語・医学英語 II	科目ナンバリング	FME-2B02
単位	2単位	コマ数	25コマ
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）		
担当教員	准教授　黒田航 講　師　Khan, Fayyaz Ahmad 非常勤講師　池島宏子、鈴木一存		

A．教育の基本方針	まえがき 本学部の英語は，M1 とM2 では「英語・医学英語 n」と「実践英語 n」(n=1, 2)とに大別される。これら2つは異なる目的のために設計され、担当する教員のグループも分かれており、評価の方法も異なる。 「英語・医学英語 n」の目的は教養の獲得で評価は学内試験で決まり、「実践英語 n」の目的は運用技能の向上で評価は外部試験の TOEFL-ITP の得点を用いる。本項目では「英語・医学英語 II」の指導要領を述べる。「実践英語 I」の指導要領はそれ専用の項目を参照するように。 英語は人々の生活の地球規模化が進む中で修得要求の増している重要な技能である。これは医療関係者でも変わらない。文献に当るだけでなく、患者や医療スタッフとの日常的な係わりで英語が実技として必要とされる度合いは高まる一方である。 英語を実用技能だと認識した場合、多くの日本人には (a) 英語で話す技能と (b) 英語で書く技能が不足しているだけでなく、(c) 話された事を正確に聴き取る技能と (d) 十分に早く多量に読む技能も欠けている。本科目では不足している技能を獲得するための指導を行なう。 その一方、英語は医学部のカリキュラムで不足しがちな人文学や社会科学との接点となる教科の一つである。その点を考慮し、英語の授業で取り上げる教材は、医療に特化する事を避け、教養としての価値の高い素材を、クラスごとに受講生の実力と志向性を考慮しつつ選ぶ。 ただし具体的な指導は担当教員に拠るものとする。従ってA、B、C、Dのそれぞれのクラスで学生が取り組む授業の内容は異なる。なお、成績は特定のクラスにいることが不利にも有利にもならないように調節する。 クラスにより課題の難度が異なるため、その補正が必要である。そのため、クラスごとに最高点を別に定める。具体的には、A、Bクラスの最高点は100点、Cクラスの最高得点は95点、Dクラスの最高点は90点とする。得点算出の具体的な方法については、後述する。
B．到達目標	到達目標は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
C．修得すべき能力	修得すべき能力は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
D．学習内容	学習内容は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
E．実習・課外授業	予定せず。
F．準備学習の内容	準備学習は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
G．復習学習の内容	復習学習の内容は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
H．成績評価の方法・基準	出席と成績は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで独立に評価するのではなく、英語・医学英語 II 全体として行う。出席は授業回数の比率に基づいて全体評価とする。成績評価は前期と後期の二期に分けて出すが、後期の成績は通年の成績と等価である。 前期成績と後期成績はそれぞれ次のように決める： i) クラスの別によらず、学期の成績Tは学期中に複数回実施する授業内課題t1, t2, ..., tn の平均得点Uと期末試験の得点 V とで決める。U と V の混合比率は 5:3とする (つまりT = (5 * U + 3 * V)/8 でVの端数を切り上げ)。 ii) 100 ≧ T ≧ 90 の学生の評価はS、 90 ＞ T ≧ 80の学生の評価はA、 80 ＞ T ≧ 70の学生の評価はB、 70 ＞ T ≧ 60の学生の評価はC、 60＞ T の学生の評価はD (不合格)。 iii) この際、クラスごとの課題の難度の不公平を解消するため、Aの平均点 ≃Bの平均点 ＞ Cの平均点 ＞ Dの平均点となるように T を事後調節する。A、B の最高点の上限は100点、Cの最高点の上限は95点、Dの最高点の上限は90点とする。 ⅱ）調節後にD評価を受けた者は前期末と年度末（＝後期末）に再試を課し、その評価に基づき T を60点に修正できるかを判定する。

	前期と後期のそれぞれについて出席率が要件に達しない場合、学期ごとにTを無効とする（つまりT=0とする）が、この条件により前期の得点が0点になった場合でも，後期の出席率の明らかな改善によって通年で2/3の出席を有意に越える場合、前期分の無効化を無効にする可能性がある。 前期のみの成績をα、後期のみの成績をβとすると、通常授業の通年の評価はαとβの平均値 $\gamma = (\alpha + \beta)/2$ である。γが60点に満たない場合、年度末の再試験で補正をする（補正の最大値は60点）。年度末の再試には通年の出席率が2/3以上ある事を要件とする。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	教科書は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	参考書 A は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	参照書 B は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

学科目（班）	英語・医学英語 II ［Anatomy Module］（前期・後期 A 班）
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）
担当教員	講　師　Khan, Fayyaz Ahmad

A．教育の基本方針	Same as the general description for English/Medical English II.
B．到達目標	Learning outcomes On successful completion of this module, students should be able to: • Describe the gross anatomy of the muscular, cardiovascular, nervous and gastrointestinal systems. • Communicate effectively in both written and verbal presentation.
C．修得すべき能力	Problem-Based Learning (PBL): Collaboration and teamwork- Oral and written communication skills- Technology literacy.
D．学習内容	Spring and Fall semesters deal with different topics. You will learn gross anatomy. Their outlines are the following: Semester 1 (Spring) • Week 1: Assessment for class A. • Week 2 and 3: Muscle compartments of the upper limb & assessment for class A. • Week 4: In-Course Assessment 1 (lesson 2 and 3) • Week 5 to 7: Muscle compartments of the lower limb • Week 8: In-Course Assessment 2 (lesson 5 to 7) • Week 9 to 12: Muscles of the axial skeleton • Week 13: In-Course Assessment 3 (lesson 9 to 12) Semester 2 (Fall) • Week 1 to 3: Anatomy of the Heart /Pulmonary and Systemic circuits • Week 4: In-Course Assessment 1 (lesson 1 to 3) • Week 5 to 7: Neuroanatomy • Week 8: In-Course Assessment 2 (lesson 5 to 7) • Week 9 to 11: Anatomy of the Alimentary Canal & Accessory Organs • Week 12: In-Course Assessment 3 (lesson 9 to 11)
E．実習・課外授業	Same as the general description for English/Medical English II.
F．準備学習の内容	You are required to do the essential reading (as instructed by the tutor) before each face-to-face tutorial.
G．復習学習の内容	After each tutorial, you will be required to continue your discussions on the online discussion forum and complete a reflective report on the lesson as part of your self-assessment. You can find the reflective report section in your e-portfolio.
H．成績評価の方法・基準	Same as the general description for English /Medical English II. At the end of each semester, your provisional mark for the summative assessment will be based on the following: Discussion Board and In-Class Discussions (20%) In-Course Assessments (50%) End-of-Course (Term-Final) Assessment (30%) During the modules, there will also be a formative assessment to test your knowledge.
I．学習指導書	Reading list CORE: Handout. FURTHER READING: Gray's Anatomy : The Anatomical Basis of Clinical Practice 41E. Apps List- ESSENTIAL: Moodle, Complete Anatomy & Padlet.
J．講義予定表	「添付資料」参照

学科目（班）	英語・医学英語 II（前期 B 班、後期 C 班）
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）
担当教員	准教授　黒田　航

A．教育の基本方針	英語・医学英語 II で共通して指定した通り．
B．到達目標	日本の英語教育の主流である（読解中心の）実用性からかけ離れた英語ではなく、日本人に欠落している (a) 聴き取り技能と (b)（日本語への翻訳を媒介としないで）十分に速く読む技能と (c)（日本語を媒介としないで）英語を産出する技能の獲得のための訓練を行なう。それを通じて専門教育で必要となる専門英語運用への橋渡しを目的とする。
C．修得すべき能力	1）自然な速度で話される英語発話を聴き取る実力． 2）十分な速度で英文を読める実力． 3）英文を逐一日本語に訳さないで直観で概要を把握できる理解力．
D．学習内容	英語は実技であり，講師の説明を聞くだけで英語が学べるはずがない．そのため，課題を中心にした授業を構成する．講義形式の授業は 13 週のうち 7 回である．具体的には， 授業は次の 4 つの段階を 1 サイクルとする実習形式で実施する（1 学期あたり 3 サイクル）： • 段階 1 で授業で取り上げる教材 X を選ぶ。具体的には、教員が用意した 3 つか 4 つの TED 講演を視聴して貰い、学生の希望に基づいて 1 つの講演を選ぶ。 • 段階 2 で教員が講演 X の解説をする。M1 時と違い，講演はどれも 13 分前後なので，解説には 2 回かける。 • 段階 3 で、X に基づいて作成した読解課題を実施する。これは単なるテストと言うより実習を兼ねた課題である。 • 段階 4 で、X に基づいた聴き取り課題を実施する。 これを一学期に 3 サイクル実施する予定であるが、時間の都合で聴き取り課題は 2 回しか実行できない可能性が大きい。
E．実習・課外授業	英語・医学英語 II で共通して指定した通り．
F．準備学習の内容	授業は講義内で完結する。従って、i) 受講生の事前の予習を前提とせず、ii)復習を強要しない。この方針は個々の受講生の自主的な予習と復習の実行を妨げるものではない（予習と復習を自主的に実行すれば、受講生は自分の予想以上の実力を身につけることができる）。
G．復習学習の内容	段階 3 と段階 4 の課題が成績評価に直結するので，それに対して十分な準備をする事が大切である。本授業では方針として、どの課題でも日本語訳を要求しない。実地で英語が使えるようになる（ための準備を整える）のに，それは効果的でないからである（翻訳家になるのでもなければ、日本語訳がどんなに上手にできても英語が使えるようになったとは言えない）。教材を日本語に訳して内容が分った段階で学習を終わりにすると、段階 3 と段階 4 の課題に十分に対応できない。段階 3 の読解は TOEFL 形式の全文英文課題である。特に段階 4 の準備のために必要なのは講演を繰り返し、繰り返し聴いて、音声記憶を定着させる事である。聴き取り課題を最後の段階 4 に配置しているのは準備の時間を十分に与えるためである。聴き取り技能向上の支援ツールの使い方は授業で紹介する。
H．成績評価の方法・基準	英語・医学英語 II で共通して指定した通り．
I．学習指導書	教科書は特に指定しない（教材は TED 講演を元に教員が用意する）。教科書とは別に学習参考書を幾つか挙げておく： **学習法関係** [1]　日本人の英語勉強法：なぜ日本人はこんなにも英語ができないのか？（J・バーダマン）．中経出版． [2]　毎日の英速読：頭の中に「英文読解の回路」をつくる（J・バーダマン）．朝日新聞出版． **単語習得関係** [3]　毎日の英単語：日常頻出語の 90％をマスターする．朝日新聞出版． [4]　読んで覚える英単語【標準編】3000 語レベル．桐原書店． [5]　読んで覚える英単語【発展編】4500 語レベル．桐原書店． [6]　英単語レボリューション Book 1 Classic（宮岸羽会），南雲堂． [7]　英単語レボリューション Book 2 Renaissance I（宮岸羽会）．南雲堂． [8]　英単語レボリューション Book 3 Renaissance II（宮岸羽会）．南雲堂． [9]　英単語レボリューション Book 4 Modern（宮岸羽会），南雲堂． [10]　語源で増やすサイエンス英単語（清水建二＋William Currie）．ベレ出版． **英文法関係** [11]　毎日の英文法：頭の中に「英語のパターン」をつくる（J・バーダマン）．朝日新聞出版． [12]　一億人の英文法（大西泰斗＆ポール・マクベイ）．東進ブックス． 解説 [1,2] はいわゆる〈勉強法の概説〉である。特に英語が不得意な学生は [1] を読んで自分の英語の勉強法の建て直しを強く勧める。英語を苦手になる最大の理由は、他に良い勉強法があるのにそれを知らずに、我流の誤った勉強法を続け、さっぱり効果があがらないことである。その悪循環は早く脱した方が良い。 [3, …, 10] はいわゆる〈単語帳〉であるが、学習が効果的になるように工夫されている。[3,4] は基礎固めに良い。品詞別の学習という方略を採用しているのが [6,7,8,9] である。[6] では動詞の使い方を、[7,8] では名詞と動詞の組み合わせ方を、[9] では形容詞の使い方を効率的に学べる。日本人が不得意分野に的を絞った [6] だけでも試す価値がある。[10] は自然科学で使われる英単語を語源的に解説したものである。ある程度の語彙力があり更に語彙を増やしたい場合には勧められる。 [11,12] はいわゆる〈文法書〉であるが、実用的な英語（話し言葉への適用）も射程に入れたもので，他の読解中心の文法書とは一線を画す。[11] は読み物風で気楽に読め、[12] は研究書風で説明が丁寧で詳しい。ただ、その分読み通すのは大変である。
J．講義予定表	「添付資料」参照

学科目（班）	英語・医学英語 II（前期 C 班、後期 B 班）
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）
担当教員	非常勤講師　池島　宏子

A．教育の基本方針	英語・医学英語 II で共通して指定した通り
B．到達目標	生命科学や医学に関する単語や表現について学ぶ。ネイティブ英語のイントネーションや発音に対して耳を慣らす。将来的に、学会などプレゼンテーションでの英語表現や、聞き取りのための発音を身につける。また、研究論文や症例報告などの英語論文執筆で役立つライティングスキルや英語表現を学ぶ。
C．修得すべき能力	生命科学の教科書や論文の英文を英訳し、概要を他の人に伝えられるようにする。図表の英文説明を読解し、かいつまんで理解する。授業で用いた英文を音読して、単熟語や英語表現を自分で発した音を自分の耳から聞いて学ぶ。また、アクティブラーニングを推進していく。
D．学習内容	● 学期を三期（初期・中期・後期）に分け、初期には生命科学のテキスト初級内容、中期には同テキスト中級内容、後期には同テキスト上級内容を用いる。 ● 全期間で生命科学のテキスト・論文の英文読解を行い、さらにテキストに付随した DVD や TEDMED を用いて、生命科学用語のネイティブの発音・イントネーションを聞き取って身につける。 ● 三期の一期ごとに課題をこなす（全 3 回）。
E．実習・課外授業	英語・医学英語 II で共通して指定した通り。
F．準備学習の内容	授業始まりの 10 分程度を利用して、テキストの単熟語および英文の和訳を調べる予習時間とする。
G．復習学習の内容	授業で用いた ppt を PDF 化して、学生が復習できるようアップロードし、受講生だけがダウンロードできるよう設定しておく。
H．成績評価の方法・基準	英語・医学英語 II で共通して指定した通り。
I．学習指導書	教科書は特に指定しない（教材や参考資料は講師が用意する）。 参考となる書籍や URL を幾つか挙げておく。 ● ステッドマン医学大辞典（改訂第 6 版） 　○ 総監修：高久史麿 　○ 編集：ステッドマン医学大辞典編集委員会 ● TEDMED のサイト: https://www.tedmed.com ● 医学研究論文・症例報告等の検索サイト（一部） 　○ https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov 　○ https://jmedicalcasereports.biomedcentral.com/ 　○ https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/journals/2698/
J．講義予定表	「添付資料」参照

学科目（班）	英語・医学英語 II （D 班）
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）
担当教員	非常勤講師　鈴木　一存

A．教育の基本方針	英語・医学英語 II の共通項目として指定した通り。
B．到達目標	生命科学者としての医師の思想形成に資するような自然科学系の教養を、英語を通して学修する。英文中の読解できない要素に遭遇しても、文中の各語の断片的情報を最大限活用して文の大意を論理的に推測し、英文を独力で理解する地力を養う。
C．修得すべき能力	• 英文の統語的構造の解釈が通用しない場合でも、文を構成する一つ一つの語の意味をヒントにすることで、文全体のニュアンスを直観的に把握する能力 • 難解な専門用語に遭遇しても、既習の知識を駆使して意味を推測する能力
D．学習内容	本授業では、自然科学的内容（人工知能（AI）・生命倫理・産業心理学・宇宙工学などのうちいずれかをテーマとする予定）のテキストの読解を通して、英語を多角的に学修する。 本講義では、テキストに登場する難解な専門用語をはじめとする未知の語彙の体系的理解の手法を指導する。多義や語源の知見を駆使し、語彙に対する理解を直接知覚的なレベルにまで落とし込むことで、学生の英語に対する距離感を縮めることを目指す。 大学における学術的活動に必要な英文読解の基盤づくりをすべく、テキスト読解においては、文法解説を適宜行う。文法解説では、基本的事項を復習しつつも、適宜学術的な英文の読解にも耐えうる発展性のある内容を学ぶ。 リスニング力を地道に向上させるべく、各学期に 3 回ずつディクテーション演習を行う。演習実施後、聴きとれなかった箇所の原因を講師と学生が共同で分析する。 テキストの解説に関しては、統語的構造の解説に加え、意味解説にも重点を置く。特に、しばしば英文理解の妨げとなりうる多義語がテキスト内に見受けられる場合、これを詳しく解説する。 テキスト中の語彙を中心に、語彙力の増強に努める。テキスト中の語彙を記憶するための方略を丁寧に提示しつつも、それだけにとどまらず、造語論・語源論などの知見にもとづいて、語彙を有機的に関連付けて体系的に記憶させる。これは、英文の統語的構造を看破できない場合であっても、文を構成する各語の意味や語源などをヒントにして、少なくとも大意を推測する地力を養うためでもある。 英文を前にした時、文構造の解釈に終始することなく、文意を丁寧に解釈することの重要性を早い段階から認識させる。これは、人生にとって有用な教養を英文から吸収する近道でもあるのではないか。本授業では、学生諸君にとっての知的財産は、英文そのものではなく、むしろ英語学習を通して得られる知識とその広がりにこそあると考える。 こうした一連のテキストを用いた学修内容に直接関連する課題を、各学期に少なくとも 3 回提示し、可能な限り授業内で実施・フィードバックする。課題の構成内容は、リスニング演習・内容理解などを予定しているが、詳細内容については進度や学生の反応なども総合的に勘案した上で最終決定する。 なお、能動学修（AL）として、学期に 3 回程度、授業後にオンライン上でコメントシート課題を課す。授業内容を振り返り、学生自身の言葉でまとめてもらうことで、授業内容の定着を図る。 さきに述べた一連の言語的学修のプロセスの完了後、テキスト全体の内容に関して検討を加える。時間が許せば、学生とテキストごとのテーマに関して対話の機会を設けることがある。 なお、上記の学修予定内容は必ずしも最終決定事項ではなく、各クラスによって異なる様々な学修上の要求や事情に応じて柔軟に変化させることも当然可能である。
E．実習・課外授業	英語・医学英語 II の共通項目として指定した通り。
F．準備学習の内容	本授業では、授業冒頭で行うテキスト読解の文法解説を授業時間内の予習として位置づける。そのため、この意味での予習は、授業時間内に自動的に達成される。 本授業は授業時間外の予習を前提とせず、学生諸君の自助努力の領域と考える。意欲ある学生諸君に向けて、発展的予習の指針を提示することがある。
G．復習学習の内容	本授業では、テキスト読解後の内容理解の確認およびテキスト内容の検討を授業時間内の復習として位置づける。そのため、この意味での復習は、授業時間内に自動的に達成される。 本授業は授業時間外の復習を強要せず、学生諸君の自助努力の領域と考える。意欲ある学生諸君に向けて、発展的復習の指針を提示することがある。
H．成績評価の方法・基準	英語・医学英語 II の共通項目として指定した通り。
I．学習指導書	教科書は指定しない(教材は教員が用意する)。 参考図書を別途下記に挙げる: 〇参考図書（任意） 寺澤芳雄『英語語源辞典』研究社
J．講義予定表	「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【英語・医学英語Ⅱ（Ａ班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	金	2	Lesson 1 Anatomy	Class A Assessment	Khan,Fayyaz	Handout	試験
4/14	金	2	Lesson 2 Anatomy	Appendicular Musculature 1	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
4/21	金	2	Lesson 3 Anatomy	Appendicular Musculature 1	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
4/28	金	2	Lesson 4 In-Course Assessment 1	復習のための課題 1	Khan,Fayyaz		試験
5/12	金	2	Lesson 5 Anatomy	Appendicular Musculature 2	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
5/19	金	2	Lesson 6 Anatomy	Appendicular Musculature 2	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
5/26	金	2	Lesson 7 Anatomy	Appendicular Musculature 2	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
6/2	金	2	Lesson 8 In-Course Assessment 2	復習のための課題 2	Khan,Fayyaz		試験
6/9	金	2	Lesson 9 Anatomy	Axial Musculature	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
6/16	金	2	Lesson 10 Anatomy	Axial Musculature	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
6/23	金	2	Lesson 11 Anatomy	Axial Musculature	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
6/30	金	2	Lesson 12 Anatomy	Axial Musculature	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
7/7	金	2	Lesson 13 In-Course Assessment 3	復習のための課題 3	Khan,Fayyaz		試験
9/8	金	2	Lesson 1 Anatomy	Cardiovascular System	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
9/15	金	2	Lesson 2 Anatomy	Cardiovascular System	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
9/22	金	2	Lesson 3 Anatomy	Cardiovascular System	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
9/29	金	2	Lesson 4 In-Course Assessment 1	復習のための課題 1	Khan,Fayyaz		試験
10/6	金	2	Lesson 5 Anatomy	Nervous System	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
10/13	金	2	Lesson 6 Anatomy	Nervous System	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
10/27	金	2	Lesson 7 Anatomy	Nervous System	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
11/10	金	2	Lesson 8 In-Course Assessment 2	復習のための課題 2	Khan,Fayyaz		試験
11/17	金	2	Lesson 9 Anatomy	Gastrointestinal System	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
11/24	金	2	Lesson 10 Anatomy	Gastrointestinal System	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
12/1	金	2	Lesson 11 Anatomy	Gastrointestinal System	Khan,Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
12/8	金	2	Lesson 12 In-Course Assessment 3	復習のための課題 3	Khan,Fayyaz		試験

2023年度　2年　講義予定表

【英語・医学英語Ⅱ（Ｂ班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	金	2	ガイダンスと英語講演1の理解	開講案内+TED講演１の候補の試聴と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
4/14	金	2	英語講演１の理解	TED講演１の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
4/21	金	2	英語講演１の理解	TED講演 1の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
4/28	金	2	英語講演１の理解	TED講演 1の読解課題（課題1）	黒田航	スライドと配布資料	試験
5/12	金	2	英語講演2 の理解	TED講演 1の聴き取り課題（課題2）	黒田航	スライドと配布資料	試験
5/19	金	2	英語講演2 の理解	TED講演 2, 3の候補の試聴と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
5/26	金	2	英語講演2 の理解	TED講演 2の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/2	金	2	英語講演2 の理解	TED講演 2の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/9	金	2	英語講演3 の理解	TED講演 3の解説1/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/16	金	2	英語講演3 の理解	TED講演 3の解説 2/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/23	金	2	英語講演3 の理解	TED講演 3の解説 3/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/30	金	2	英語講演2, 3 の理解	TED講演 2か3の読解課題（課題3）	黒田航	スライドと配布資料	試験
7/7	金	2	英語講演2, 3 の理解	TED講演 2か3の聴き取り課題（課題4）	黒田航	スライドと配布資料	試験
9/8	金	2	ガイダンスとテキスト１の読解１	読解テキスト１の英文解釈と付随したDVDのリスニング　1	池島宏子	スライドと配布資料	講義
9/15	金	2	テキスト１の読解２	読解テキスト１の英文解釈と付随したDVDのリスニング　2	池島宏子	スライドと配布資料	講義
9/22	金	2	テキスト１の読解３	読解テキスト１の英文解釈と付随したDVDのリスニング　3	池島宏子	スライドと配布資料	講義
9/29	金	2	テキスト1の課題	読解テキスト１の英文解釈と付随したDVDのリスニングの理解度確認	池島宏子	スライドと配布資料	試験
10/6	金	2	テキスト２の読解1	読解テキスト２の英文解釈と付随したDVDのリスニング　1	池島宏子	スライドと配布資料	講義
10/13	金	2	テキスト２の読解2	読解テキスト２の英文解釈と付随したDVDのリスニング　2	池島宏子	スライドと配布資料	講義
10/27	金	2	テキスト２の読解3	読解テキスト２の英文解釈と付随したDVDのリスニング　3	池島宏子	スライドと配布資料	講義
11/10	金	2	テキスト２の課題	読解テキスト２の英文解釈と付随したDVDのリスニングの理解度確認	池島宏子	スライドと配布資料	試験
11/17	金	2	テキスト３の読解１	読解テキスト２の英文解釈と付随したDVDのリスニング　1	池島宏子	スライドと配布資料	講義
11/24	金	2	テキスト３の読解２	読解テキスト３の英文解釈と付随したDVDのリスニング　2	池島宏子	スライドと配布資料	講義
12/1	金	2	テキスト３の読解３	読解テキスト３の英文解釈と付随したDVDのリスニング　3	池島宏子	スライドと配布資料	講義
12/8	金	2	テキスト３の課題	読解テキスト３の英文解釈と付随したDVDのリスニングの理解度確認	池島宏子	スライドと配布資料	試験

2023年度　2年　講義予定表

【英語・医学英語Ⅱ（Ｃ班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	金	2	ガイダンスと英文読解の進め方	英文読解テキストの候補の読解と選択	池島宏子	スライドと配布資料	講義
4/14	金	2	テキスト１の読解１	読解テキスト１の英文解釈と付随したDVDのリスニング　1	池島宏子	スライドと配布資料	講義
4/21	金	2	テキスト１の読解２	読解テキスト１の英文解釈と付随したDVDのリスニング　2	池島宏子	スライドと配布資料	講義
4/28	金	2	テキスト１の読解３	読解テキスト１の英文解釈と付随したDVDのリスニング　3	池島宏子	スライドと配布資料	講義
5/12	金	2	テキスト１の課題	読解テキスト１の英文解釈と付随したDVDのリスニングの理解度確認	池島宏子	スライドと配布資料	試験
5/19	金	2	テキスト２の読解１	読解テキスト２の英文解釈と付随したDVDのリスニング　1	池島宏子	スライドと配布資料	講義
5/26	金	2	テキスト２の読解２	読解テキスト２の英文解釈と付随したDVDのリスニング　2	池島宏子	スライドと配布資料	講義
6/2	金	2	テキスト２の読解３	読解テキスト２の英文解釈と付随したDVDのリスニング　3	池島宏子	スライドと配布資料	講義
6/9	金	2	テキスト２の課題	読解テキスト２の英文解釈と付随したDVDのリスニングの理解度確認	池島宏子	スライドと配布資料	試験
6/16	金	2	テキスト３の読解１	読解テキスト３の英文解釈と付随したDVDのリスニング　1	池島宏子	スライドと配布資料	講義
6/23	金	2	テキスト３の読解２	読解テキスト３の英文解釈と付随したDVDのリスニング　2	池島宏子	スライドと配布資料	講義
6/30	金	2	テキスト３の読解３	読解テキスト３の英文解釈と付随したDVDのリスニング　3	池島宏子	スライドと配布資料	講義
7/7	金	2	テキスト３の課題	読解テキスト３の英文解釈と付随したDVDのリスニングの理解度確認	池島宏子	スライドと配布資料	試験
9/8	金	2	ガイダンスと英語講演１の理解	TED講演1の候補の試聴と選択+解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
9/15	金	2	英語講演１の理解	TED講演1の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
9/22	金	2	英語講演１の理解	TED講演1の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
9/29	金	2	英語講演１の理解	TED講演1の読解課題（課題1）	黒田航	スライドと配布資料	試験
10/6	金	2	英語講演 2の理解	TED講演1の聴き取り課題（課題2）	黒田航	スライドと配布資料	試験
10/13	金	2	英語講演 2,3の理解	TED講演2, 3の候補の試聴と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
10/27	金	2	英語講演 2の理解	TED講演2の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
11/10	金	2	英語講演 2の理解	TED講演2の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
11/17	金	2	英語講演 3の理解	TED講演3の解説1/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
11/24	金	2	英語講演 3の理解	TED講演3の解説 2/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
12/1	金	2	英語講演 3の理解	TED講演3の解説 3/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
12/8	金	2	英語講演 2,3の理解	TED講演2か3の読解課題（課題3）	黒田航	スライドと配布資料	試験

2023年度　2年　講義予定表

【英語・医学英語Ⅱ（Ｄ班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	金	2	イントロダクション	1年間の授業方針の説明・前期学習内容の導入	鈴木一存	配布資料	講義
4/14	金	2	テキスト１の読解1	テキスト１の文法解説・オンラインコメントシート課題１（AL）	鈴木一存	配布資料	演習(AL)
4/21	金	2	テキスト１の読解2	テキスト１の意味解説・内容解説	鈴木一存	配布資料	講義
4/28	金	2	リスニング演習１	リスニング教材１の演習・音声解説	鈴木一存	配布資料	演習
5/12	金	2	授業内課題（前期第１回）	授業内課題（前期第１回）の授業内実施	鈴木一存	配布資料	試験
5/19	金	2	テキスト２の読解1	テキスト２の文法解説・オンラインコメントシート課題２（AL）	鈴木一存	配布資料	演習(AL)
5/26	金	2	テキスト２の読解2	テキスト２の意味解説・内容解説	鈴木一存	配布資料	講義
6/2	金	2	リスニング演習２	リスニング教材２の演習・音声解説	鈴木一存	配布資料	演習
6/9	金	2	授業内課題（前期第２回）	授業内課題（前期第２回）の授業内実施	鈴木一存	配布資料	試験
6/16	金	2	テキスト３の読解1	テキスト３の文法解説・オンラインコメントシート課題３（AL）	鈴木一存	配布資料	講義(AL)
6/23	金	2	テキスト３の読解2	テキスト３の意味解説・内容解説	鈴木一存	配布資料	講義
6/30	金	2	リスニング演習３	リスニング教材３の演習・音声解説	鈴木一存	配布資料	講義
7/7	金	2	授業内課題（前期第３回）	授業内課題（前期第３回）の授業内実施	鈴木一存	配布資料	演習
9/8	金	2	テキスト４の読解1	テキスト４の文法解説・オンラインコメントシート課題４（AL）	鈴木一存	配布資料	演習(AL)
9/15	金	2	テキスト４の読解2	テキスト４の意味解説・内容解説	鈴木一存	配布資料	講義
9/22	金	2	リスニング演習４	リスニング教材４の演習・音声解説	鈴木一存	配布資料	講義
9/29	金	2	授業内課題（後期第１回）	授業内課題（後期第１回）の授業内実施	鈴木一存	配布資料	演習
10/6	金	2	テキスト５の読解1	テキスト５の文法解説・オンラインコメントシート課題５（AL）	鈴木一存	配布資料	演習(AL)
10/13	金	2	テキスト５の読解2	テキスト５の意味解説・内容解説	鈴木一存	配布資料	講義
10/27	金	2	リスニング演習５	リスニング教材５の演習・音声解説	鈴木一存	配布資料	講義
11/10	金	2	授業内課題（後期第２回）	授業内課題（後期第２回）の授業内実施	鈴木一存	配布資料	演習
11/17	金	2	テキスト６の読解1	テキスト６の文法解説・オンラインコメントシート課題６（AL）	鈴木一存	配布資料	演習(AL)
11/24	金	2	テキスト６の読解2	テキスト６の意味解説・内容解説	鈴木一存	配布資料	講義
12/1	金	2	リスニング演習６	リスニング教材６の演習・音声解説	鈴木一存	配布資料	演習
12/8	金	2	授業内課題（後期第３回）	授業内課題（後期第３回）の授業内実施	鈴木一存	配布資料	試験

年度	2023年度	学年	2年
学科目	ドイツ語Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2B09
単位	2単位	コマ数	24コマ
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）		
担当教員	准教授　田中洋（外国語学部）		

A．教育の基本方針	１年で学習した項目を復習しながら、発音、文法を中心にドイツ語の基礎を完成させます。練習問題を通じて文法知識をしっかり定着させていくと同時に、学習した内容を活かして文化や社会に関する短いドイツ語のテクストを一緒に読みこんでいきます。また、例文をもとに発音や会話練習も行ない、総合的に語学力を身につけていきます。
B．到達目標	ドイツ語の基礎を十分に理解し、ドイツ語4技能（聞く、話す、読む、書く）を活用し、初級レベルのドイツ語を自在に運用できること。ドイツ語技能検定試験4級、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験Ａ1合格程度の能力を身につけること。
C．修得すべき能力	１．参考書や辞書を活用して初級レベルのドイツ語を読解できる。 ２．独和辞典を初めとした様々な情報源を活用して、文法事項を確認したり、ある程度まとまった量の文章を作成するための必要な情報を収集することができる。
D．学習内容	1年時の内容を確認しつつ、4技能をバランスよく学びながら初級文法を完成させます。中級への橋渡しとなるような、少し歯応えのあるテクストにも随時挑戦します。欠席しないよう留意して積極的に参加して下さい。 【アクティブラーニングの実施法】事前配布される課題を予習し、課題内容について授業内でディスカッションします。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	初回授業までに1年時の学習内容を復習しておいてください。 シラバスを確認し、毎回教科書の指定ページについて目を通しておいてください。［1時間程度］
G．復習学習の内容	講義での学習内容を振り返り、授業外課題への取り組みを通じて復習してください。［1時間程度］
H．成績評価の方法・基準	1.定期試験について 前期・後期それぞれ1回ずつ実施します。再試験は実施しません。 前期試験の受験資格は前期の出席率で、後期試験の受験資格は後期の出席率で判定します。 2.小テストについて 授業時間内に随時実施します。 3.評価配分 ・平常点（出欠状況、授業での応答・発言など）：50％ ・小テスト：20％ ・定期試験：30％ 4.試験に対するフィードバックの方法 実施後に解説を行います。

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	今井田亜弓・前田織江『Schritt für Schritt: neu bearbeitete Auflage（シュリット・フュア・シュリット［三訂版］たくさん練習して学ぶドイツ語）』（三修社）2021年【ISBN: 978-4-384-12306-7 C1084】
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	（R）アクセス独和辞典（三修社）、アポロン独和辞典（同学社） （R）プログレッシブ独和辞典（小学館）などの独和辞典 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	（R）清野智昭『ドイツ語のしくみ』（白水社）2005年 （A）宍戸里佳『英語と一緒に学ぶドイツ語』（ベレ出版）2012年 （A）石田勇治ほか『ドイツ文化事典』（丸善出版）2020年 （A）鎌田タベア・柳原伸洋『日本人が知りたいドイツ人の当たり前　ドイツ語リーディング』（三修社）2016年 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【ドイツ語Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	金	4	イントロダクション Lektion 6（1）	通年の授業計画、テスト、評価基準についての説明をする。授業で用いるテキストおよび辞書、参考資料や自習用アプリの紹介をする。 "前置詞の格支配、3・4格と結びつく前置詞を学ぶ。 Übungen 6の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。"	田中洋	５８～５９ ６２～６３	講義
4/14	金	4	Lektion 6（2）	前置詞と定冠詞の融合形、分離動詞を学ぶ。Übungen 6の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	６０～６１ ６３～６４	講義
4/28	金	4	Lektion 6（3）	Übungen 6の練習問題に取り組む。 Hören und Sprechenのページではディクテーションとペアでの会話練習（道を尋ねる）を行なう。	田中洋	６４～６７	講義
5/12	金	4	Lektion 7（1）	話法の助動詞を学ぶ。 Übungen 7の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	６８～６９ ７１～７２	講義
5/19	金	4	Lektion 7（2）	副文を学ぶ。Übungen 7の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	７０ ７２～７３	講義
5/26	金	4	Lektion 7（3）	Übungen 7の練習問題に取り組む。Hören und Sprechenのページではディクテーションとペアでの会話練習（レストランでの会計）を行なう。	田中洋	７３～７５	講義
6/2	金	4	Lektion 8（1）	動詞の3基本形、過去形を学ぶ。 Übungen 8の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	７６～７７ ８０～８１	講義
6/16	金	4	Lektion 8（2）	現在完了形を学ぶ。Übungen 8の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	７８～７９ ８１～８２	講義
6/23	金	4	Lektion 8（3）	Übungen 8の練習問題に取り組む。Hören und Sprechenのページではディクテーションとペアでの会話練習（休暇の思い出）を行なう。	田中洋	８２～８３	講義
6/30	金	4	前期試験	前期の内容の理解度を試験で確認する。	田中洋		講義
7/7	金	4	前期のまとめ	前期試験の返却と解説をする。 事前配布される課題を予習し、課題内容について授業内でディスカッションする。	田中洋		講義(AL)
9/8	金	4	後期授業の説明と復習	後期の進め方を確認し、前期の内容（文法、発音）を復習する。	田中洋		講義
9/15	金	4	Lektion 9（1）	zu不定詞句を学ぶ。 Übungen 9の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	８４～８５ ８８～８９	講義
9/22	金	4	Lektion 9（2）	再帰代名詞と再帰動詞を学ぶ。 Übungen 9の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	８６～８７ ８９～９０	講義
9/29	金	4	Lektion 9（3）	Übungen 9の練習問題に取り組む。Hören und Sprechenのページではディクテーションとペアでの会話練習（映画に誘う）を行なう。	田中洋	９０～９１	講義
10/6	金	4	Lektion 10（1）	形容詞の格変化と比較表現を学ぶ。 Übungen 10の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	９２～９６	講義
10/13	金	4	Lektion 10（2）	Übungen 10の練習問題に取り組む。Hören und Sprechenのページではディクテーションとペアでの会話練習（試着する）を行なう。	田中洋	９７～９９	講義
10/13	金	5	Lektion 11（1）	定関係代名詞と不定関係代名詞を学ぶ。 Übungen 11の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	１００～１０１ １０３～１０４	講義
10/27	金	4	Lektion 11（2）	指示代名詞を学ぶ。 Übungen 11の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	１０２ １０５～１０６	講義
11/10	金	4	Lektion 11（3）	Übungen 11の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。 Hören und Sprechenのページではディクテーションとペアでの会話練習（街の紹介をする）を行なう。	田中洋	１０６～１０７	講義
11/17	金	4	Lektion 12（1）	受動態を学ぶ。 Übungen 12の練習問題に取り組む。例文や問題文を使用して発音練習も行なう。	田中洋	１０８～１０９ １１２	講義
11/24	金	4	Lektion 12（2）	接続法Ⅱ式を学ぶ。 Übungen 12の練習問題に取り組む。 Hören und Sprechenのページではディクテーションとペアでの会話練習（億万長者になったら～）を行なう。	田中洋	１１０～１１１ １１３～１１４	講義
12/1	金	4	後期試験	後期の内容の理解度を試験で確認する。	田中洋		講義
12/8	金	4	後期のまとめ	後期試験の返却と解説をする。 事前配布される課題を予習し、課題内容について授業内でディスカッションする。	田中洋		講義(AL)

ドイツ語Ⅱの講義は、通常の時間割より、開始時間を15分間繰り下げて実施します。

※ 4時限目（15:00～16:15）

※ 5時限目（16:30～17:45）

年度	2023年度	学年	2年
学科目	フランス語Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2B11
単位	2単位	コマ数	24コマ
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）		
担当教員	非常勤講師　鈴木良和		

A．教育の基本方針	フランス語の中級、上級の文法を学ぶ。
B．到達目標	フランス語の仕組みを、文法レベルで全体的に眺めることができる。また仏仏辞典を使いこなせるようになる。
C．修得すべき能力	1. 中級レベル以上の文法書を読み通すことができる。 2. 辞書を使えば簡単な文章は読むことができる。
D．学習内容	１年次の初級文法の確認をしながら文法の学習を深める。参加者のレベルを考えながら進めていくので、１年次の勉強で不安を覚えた人でも大丈夫です。フランス語検定３級から準２級程度の学力をつけることができるよう指導します。アクティブ・ラーニングの一環として、理解度を知るための小テストを随時行います。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	１年次の学習内容の復習をしておいてください。
G．復習学習の内容	講義内容は、授業で使用した教科書以外の参考書やNHKのラジオ講座など他の媒体で補完しつつ復習するのが望ましい。
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 期末試験を行う。 ２．試験の期日と実施方法 二回実施する。再試験は実施しない。 ３．評価方法 ４の判定基準に基づいて評価する。 ４．判定基準 試験（学年末）と小テストの成績、および出欠状況。 【評価配分：試験（40%）、出欠状況（60%）】

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	森本英夫、三野博司『増補改訂版　新・リュミエール』駿河台出版社、2013年
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	（R）プログレッシブ仏和辞典（小学館）、ロワイヤル仏和中辞典（旺文社）、スタンダード仏和辞典（大修館）、ロベール仏和大辞典（小学館）などの仏和辞典。またLe Petit Robertなどの仏仏辞典。 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	授業中に指示する。 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【フランス語Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	金	4	オリエンテーション	昨年度学習した文法事項について復習を行う。	鈴木良和	資料配布	講義
4/14	金	4	第７課	関係代名詞と非人称構文について講義する。英語の知識があれば関係代名詞という概念そのものに関しては問題がないと思われる。ただフランス語の関係代名詞は少し複雑なので、その点について重点的に解説していく。	鈴木良和	157-159	講義
4/28	金	4	第７課	未来を示す表現について講義する。英語では助動詞を使うことで未来を表現するが、フランス語では動詞を活用させることにより表現する。	鈴木良和	162-166	講義
5/12	金	4	第７課	受動態について講義する。フランス語の受動態は英語と同じように「être+過去分詞」で表現される。	鈴木良和	166-169	講義
5/19	金	4	長文読解	これまでに学習した文法の知識を用いて、実際にフランス語の文学作品を読解する。	鈴木良和	資料配布	講義
5/26	金	4	第８課	補語人称代名詞について講義する。間接補語と直接保護の語順を間違えやすいので、そこに注意しつつ解説していく。	鈴木良和	180-187	講義
6/2	金	4	第８課＋小テスト	前回に引き続き、補語人称代名詞について講義する。またAL(アクティブ・ラーニング)の一環として、これまでの学習の理解度を確認するための小テストを行う。	鈴木良和	180-187	講義(AL)
6/16	金	4	第８課	強調構文について講義する。フランス語の強調表現は英語とまったく同じであり、それぞれ単語をフランス語に置き換えていくだけで成立する。	鈴木良和	188-191	講義
6/23	金	4	第９課	代名動詞について講義する。基本的には英語の再帰動詞に相当するが、フランス語特有の用法があるため注意を要する。	鈴木良和	202-208	講義
6/30	金	4	期末テスト	文法項目について、総合的な問題を出題する。	鈴木良和	テスト	試験
7/7	金	4	期末テスト解説	テストの解説に１コマをすべて使い、丁寧に解説していく。	鈴木良和	テスト解説	講義
9/8	金	4	第９課	中性代名詞について講義する。フランス語の名詞や形容詞には文法上の性として男女の区別があるが、代名詞にはさらに意味内容や語句そのものに代わって用いられる中性代名詞が存在する。	鈴木良和	209-213	講義
9/15	金	4	第１０課	疑問代名詞について講義する。疑問代名詞は一見するとかなり複雑なので、充分な注意を要する。しかし基本的なところまで分解して考えれば理解も容易となる。一覧表を暗記するというのも手である。	鈴木良和	223-225	講義
9/22	金	4	第１０課	指示代名詞・所有代名詞・不定代名詞について講義する。	鈴木良和	226-229	講義
9/29	金	4	長文読解	これまでに学習した文法の知識を用いて、実際にフランス語の文学作品を読解する。	鈴木良和	資料配布	講義
10/6	金	4	第１１課	直接法半過去について講義する。すでに複合過去形を学習したが、フランス語には過去をあらわす時制が５つある。複合過去との違いに注意しながら、半過去形について解説する。	鈴木良和	241-245	講義
10/13	金	4	第１１課＋小テスト	直接法大過去について講義する。フランス語の単純時称にはそれに対応する複合時称が存在する。半過去に対応するのが大過去である。またAL(アクティブ・ラーニング)の一環として、これまでの学習の理解度を確認するための小テストを行う。	鈴木良和	245-248	講義(AL)
10/13	金	5	第１２課	条件法について講義する。英語では婉曲表現に助動詞を使用するが、フランス語では条件法を用いる。また仮定を示す表現にも使用される。	鈴木良和	259-266	講義
10/27	金	4	第１２課	前回に引き続き、条件法について講義する。	鈴木良和	259-266	講義
11/10	金	4	長文読解	これまでに学習した文法の知識を用いて、実際にフランス語の文学作品を読解する。	鈴木良和	資料配布	講義
11/17	金	4	第１３課	分詞構文とジェロンディフについて講義する。分詞構文は基本的には英語と同じであるが、フランス語には「en＋現在分詞」の形をとるジェロンディフという用法がある。分詞構文との違いに注意して解説する。	鈴木良和	274-278	講義
11/24	金	4	第１４課	接続法について講義する。接続法は基本的にはque以下の従属節において用いられる叙法である。しかし、従属節であれば必ず接続法を用いるわけではないため、使用する動詞に応じて確認しなければならない。	鈴木良和	293-301	講義
12/1	金	4	期末テスト	文法項目について、総合的な問題を出題する。	鈴木良和	テスト	試験
12/8	金	4	期末テスト解説	テストの解説に１コマをすべて使い、丁寧に解説していく。	鈴木良和	テスト解説	講義

年度	2023年度	学年	2年
学科目	中国語Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2B13
単位	2単位	コマ数	24コマ
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）		
担当教員	非常勤講師　王瑩		

A．教育の基本方針	この科目は医学部医学科が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、コミュニケーション能力を養うことを目的にしています。
B．到達目標	1年次の学習をベースに、中国語の「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」のバランスよい修得を目指し、より自然な表現力と複雑な文章理解能力を身につける。また、文化や習慣に触れることで中国文化について理解を深め、高い中国語運用能力を獲得することを目指す。学期終了までには中国語検定３級合格程度の実力を身につける。授業では、学習を楽しむ雰囲気をつくり、学生たちが能動的に学べるよう支援する。
C．修得すべき能力	1、聴解力の向上により、より複雑な表現を理解できる。 2、正確かつ自然な発音で自分の意見を伝えることができる。 3、文法や単語の理解を深め、文書を正しく読み取り、正しい文法で文をつくることができる。 4、中国語について興味を持ち、さらに高いレベルを目指し学習し続けられること。
D．学習内容	授業は教科書に沿って行うだけではなく様々な教材をも取り入れる。
E．実習・課外授業	なし
F．準備学習の内容	授業の理解度を深めるため、毎回授業前、授業内容に目を通し、単語・本文・文法解説の例文について音声を聞いて発音を確認すること。
G．復習学習の内容	授業内容の定着を図るため、必ず授業後の復習を行うこと。文法説明の再確認、繰り返し音声を聞き、単語・本文・文法解説の例文を熟読し、暗記すること。
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 中国語発音、文法、理解力、テキスト内容の応用を試す。 ２．試験の実施方法と受験資格 出欠状況や学習態度を総合的に評価し、期末口頭試問又は筆記試験を実施する。 ３．評価法 4の判定基準に基づいて評価する ４．判定基準 平常点（出欠状況、学習態度）50%、期末口頭試問50%の割合によって総合的に評価する。

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	「チャレンジ！１年生の中国語」　最新版　朝日出版社 「もっと話そう　異文化おもしろ体験　中級中国語」　朝日出版社
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	（A）「基礎から発展まで よくわかる中国語文法」　丸尾 誠 著 （R）オンライン辞書「Weblio 中国語辞典」（中日日中辞書） （R）アプリ「中国語辞書　北辞郎」（中日辞書） （R）アプリ「汉语字典」（中国語辞典） ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	（R）「中国語文法用例辞典」　　東方書店 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【中国語Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	金	4	ガイダンス	授業の進め方、学習方法、評価方法、評価基準などの説明。 中国語Ⅰの復習。	王瑩	17～70	講義
4/14	金	4	第10課①	単語と本文の学習。会話の練習。 方向補語、「从～到～」と「离」、時量補語、動詞句主語の学習及び練習。	王瑩	71～76	講義
4/28	金	4	第10課② 第11課①	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 第11課の単語と本文の学習。比較の表現、「就要～了」と「过」と「一～就～」の学習及び練習。 ロールプレイで会話を練習する。	王瑩	77～82	講義(AL)
5/12	金	4	第11課② 第12課①	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 第12課の単語と本文の学習。結果補語、受け身文、疑問詞の非疑問用法、全面否定の表現等の学習及び練習。	王瑩	83～85	講義
5/19	金	4	第12課②	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 ロールプレイで会話を練習する。	王瑩	86～88	講義(AL)
5/26	金	4	第13課①	課題のフィードバックと質疑応答。 第13課の単語と本文の学習。 可能補語、前置詞「对」、使役構文、「把」構文、「要是～就～」等の学習及び練習。	王瑩	89～93	講義
6/2	金	4	第13課② 第14課①	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 ロールプレイで会話を練習する。 第14課の単語と本文の学習。	王瑩	94～97	講義(AL)
6/16	金	4	第14課②	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 存現文、「来」と「是～的」等の学習及び練習。	王瑩	98～100	講義
6/23	金	4	4級模擬試験	中国語検定４級模擬試験及び解説。	王瑩	103～110	講義
6/30	金	4	中級中国語第1課①	動詞「在」、疑問詞「怎么」、助動詞「要」の学習及び練習。 単語と本文の学習。	王瑩	２～８	講義
7/7	金	4	第1課② 第2課①	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 ロールプレイで会話を練習する。 仮定表現、兼語文、選択疑問文等の学習及び練習。	王瑩	９～13	講義(AL)
9/8	金	4	第２課②	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 第2課の単語及び本文の学習。 ロールプレイで会話を練習する。	王瑩	14～17	講義(AL)
9/15	金	4	第3課①	課題のフィードバックと質疑応答。 結果補語、「刚」、方向補語等の学習及び練習。 第3課の単語及び本文の学習。	王瑩	18～24	講義
9/22	金	4	第3課② 第4課①	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 ロールプレイで会話を練習する。 疑問詞の呼応表現、量詞と注文する時の表現等を学習及び練習。	王瑩	25～27	講義(AL)
9/29	金	4	第4課②	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 第4課の単語及び本文の学習。 ロールプレイで会話を練習する。	王瑩	28～33	講義(AL)
10/6	金	4	第5課①	課題のフィードバックと質疑応答。 様態補語、「是～的」、前置詞「在」の学習及び練習。 第5課の単語及び本文の学習。	王瑩	34～39	講義
10/13	金	4	第5課② 第6課①	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 ロールプレイで会話を練習する。 「快要～了」、比較を表す表現、時間量等の学習及び練習。	王瑩	40～43	講義(AL)
10/13	金	5	第6課②	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 第6課の単語及び本文の学習。 ロールプレイで会話を練習する。	王瑩	44～49	講義(AL)
10/27	金	4	第7課①	課題のフィードバックと質疑応答。 「可以」、程度副詞、「觉得」などの学習及び練習。 第7課の単語及び本文の学習。	王瑩	50～55	講義
11/10	金	4	第7課② 第8課①	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 ロールプレイで会話を練習する。 副詞「别」、助動詞「能」等の学習及び練習。	王瑩	56～59	講義(AL)
11/17	金	4	第8課②	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 第8課の単語及び本文の学習。 ロールプレイで会話を練習する。	王瑩	60～65	講義(AL)
11/24	金	4	第９課①	課題のフィードバックと質疑応答。 複文、「听说」などの学習及び練習。 第9課の単語及び本文の学習。	王瑩	66～71	講義
12/1	金	4	第９課② 総復習	前回の復習、課題のフィードバックと質疑応答。 ロールプレイで会話を練習する。 総復習。	王瑩	72～73	講義(AL)
12/8	金	4	期末試験	口頭試問及び筆記試験。	王瑩	なし	試験

中国語Ⅱの講義は、通常の時間割より、開始時間を15分間繰り下げて実施します。

※ 4時限目（15:00～16:15）

※ 5時限目（16:30～17:45）

年度	2023年度	学年	2年
学科目	実践英語 II	科目ナンバリング	FME-2B07
単位	2単位	コマ数	24コマ
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）		
担当教員	教　授　坂本ロビン（外国語学部）		

A．教育の基本方針	本学部の英語の授業は、M1 とM2 では「英語・医学英語 n」と「実践英語 n」(n = 1, 2) とに大別される。これら2つは異なる目的のために設計され、担当する教員のグループも分かれており、評価の方法も異なる。 「英語・医学英語 n」の目的は教養の獲得で評価は学内試験で決まり、「実践英語 n」の目的は運用技能の向上で評価は外部試験の TOEFL-ITP Level 1 の得点を用いる。本項目では「実践英語 II」の指導要領を述べる。「英語・医学英語 II」の指導要領はそれ専用の項目を参照するように。 本授業の目的は次の二つである: 第一にM2で不足しているspeaking と writing の学習機会を追加的に提供する事 (週に2コマの英語を M2の必修にするのは負担が大き過ぎる)。 第二に将来的にTOEFL iBT を受験する可能性がある学生の準備の支援である。
B．到達目標	M1の際の実践英語 I では TOEFL ITP への対応の指導が基本であった。ITP はTOEFL iBT の grammar and reading sections のみを抜粋した試験であり、日本国内の大学が学内で学生評価に使うために開発された。このため TOEFL ITP は留学や研修の資格証明には使えない。それに使えるのはiBT だけである。 米国の大学や大学院への留学ではiBTを受験し一定の得点を得る事が必須条件になりつつある。将来的に米国の名の通った施設で研修を受ける可能性を視野に入れている場合、iBT で好成績を示すには準備が必要であるが、しかしiBT は難しい試験であり、独力で iBT 対策をするのは現実的には困難である。その手ほどきをするのが役目の一つである。 この目的が該当する学生の数は多くないと思われるが、確実に一部に需用がある事がわかっている。特に将来的に米国の名の通った医療施設での研修やそこへの留学を考えている者には有益な機会になるだろう。 とは言え、本科目を受講すべき学生は将来的にTOEFL iBT受験を考えている者に限られない。speaking と writing は日本の大学で普通に英語の授業を受けている限り、しっかり指導を受ける事が難しい技能である。それらの獲得、実力向上を望んでいる学生にも本科目は好適であろう。
C．修得すべき能力	TOEFL iBTで一定の得点を得られる=英語母語話者とそれなりに高度なやり取りできる i) 聴き取り，ii) 発言，iii) 執筆技能。
D．学習内容	TOEFL iBTの speaking & writing sections に慣れる。
E．実習・課外授業	実施せず。
F．準備学習の内容	詳細は担当教員の指示に従うように。
G．復習学習の内容	詳細は担当教員の指示に従うように。
H．成績評価の方法・基準	出席、並びにクラス内での技能と課題によって評価するが、学期末に TOEFL-ITP を受験し，その成績を反映させる事がある。

I．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	授業で用いる資料は講師が適宜配布する。
②参考書 A（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書 B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【実践英語Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	金	5	Week 1: Overview of the TOEFL iBT	Speaking and Writing sections and Rubrics	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
4/14	金	5	Week 2: Integrated speaking task	Debate two points of view	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
4/28	金	5	Week 3: Independent writing task	Discuss your ideas about the best news sources	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
5/12	金	5	Week 4: Integrated speaking task	Discuss obstacles you have had to overcome	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
5/19	金	5	Week 5: Independent writing task	Discuss Japanese legislation for disabled people in the workplace	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
5/26	金	5	Week 6: Integrated speaking task	Explain opinions and reasons	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
6/2	金	5	Week 7: Independent writing task	Discuss how emotions can affect a person's health	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
6/16	金	5	Week 8: Integrated speaking task	Describe a natural disaster you have experienced	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
6/23	金	5	Week 9: Independent writing task	Comparing weather events	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
6/30	金	5	Week 10: Integrated speaking task	Role play about ecologically built cities	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
7/7	金	5	Week 11: Independent writing task	Discuss things people should do to conserve natural resources and preserve the environment	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
9/8	金	5	Week 1: Integrated speaking task	Discuss donating money and time to charity	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
9/15	金	5	Week 2: Independent writing task	Summarize reasons for charitable giving	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
9/22	金	5	Week 3: Integrated speaking task	Comparing two types of motivation	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
9/29	金	5	Week 4: Independent writing task	Comparing and Contrasting	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
10/6	金	5	Week 5: Independent speaking task	Describe something memorable	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
10/13	金	4	Week 6: Integrated writing task	Summarize a proposal and explain others' opinions	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
10/13	金	5	Week 7: Integrated speaking task	Conduct a role play on culture shock	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
10/27	金	5	Week 8: Independent writing task	Discuss opposing views on immigration policies	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
11/10	金	5	Week 9: Independent speaking task	Discuss your opinions about new technology	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
11/17	金	5	Week 10: Integrated writing task	Discuss the impact of the internet on society	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
11/24	金	5	Week 11: Sample integrated writing test graded using Writing Rubric	Both writing tasks will be given as a sample test in class and graded using the Writing Rubrics	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
12/1	金	5	Week 12: Sample integrated speaking test graded using Speaking Rubric	Both speaking tasks will be given as a sample test in class and graded using the Speaking Rubrics	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)
12/8	金	5	Week 13: Study preperation points and materials for the speaking and writing test	Sample test materials and websites for self study will be introduced as well as points of study.	坂本ロビン	配布資料/スライド	講義(AL)

年度	2023年度	学年	2年
学科目	行動科学Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2A05
単位	1単位	コマ数	12コマ
科目責任者	平形明人　教授		
担当教員	教　授　　村部妙美（保健学部） 特任教授　大荷満生（総合医療学） 准教授　　八木橋宏勇（外国語学部） 准教授　　江頭説子（医学教育学） その他の教員は講義予定表に記載		

A．教育の基本方針	医学・医療を学ぶ者には、患者及び医療者にとって良質で安全な医療の提供、信頼に基づく患者や家族とのかかわり、医療チームの一員としての多職種との協調などのために、人間性、倫理性を含む幅広い情操面の豊かさを培うことが求められる。本科目では、「医療安全を常に念頭において行動できる医療人」、「医療者としての人間性の陶冶」、「人と人の関係性に関する理解」を目的とする。 行動科学Ⅱは、以下の領域で構成する。 1. 医療安全 2.カウンセリング 3.生命・医療倫理 4.コミュニケーション② 5.ダイバーシティ② 講義、ビデオ視聴を通してのディスカッションや対話の実施といった能動的な学習（アクティブラーニング）など種々の形式で授業が行われる。
B．到達目標	「医療者として患者や家族との適切なかかわりをもち、良質で安全な医療を提供するための倫理観や態度」を身につけること、「人の多様なあり方や人と人との関係性」を理解し、医学・医療を学ぶ医学生としてふさわしい態度を修得し、行動できる。 特に、2.カウンセリングでは、臨床心理学、医療心理学の理論をもとに「良き医師」に必要な人間理解と援助についての理論を修得する。チーム医療の中で多職種と連携・協働するために、コミュニケーション能力を高める。
C．修得すべき能力	１．「医療安全」を常に念頭において行動できる医療者になることを目指す。直近の目標としては、Ｍ４の後期から始まるＢＳＬで臨床の現場に配置された時に、医療の現場で実践されている「医療安全」の実際を理解するための基本的知識を修得する。 ２．心理的、社会的側面をも考慮して患者を理解することができる。さらにその支援に必要な理論の基礎を修得し、幅広い人間理解の方法（行動療法、認知行動療法、クライエント中心療法、森田療法、家族療法、絵画療法、他）を説明できる。 ３．人間の尊厳や人権に配慮して行動できる医療者になることを目指す。直近の目標としては、過去の感染症対策における生命・医療倫理の問題について自分なりの考えを述べることができる。 ４．コミュニケーションの成立と破綻についてデータを分析しながら理解を深め、自らのコミュニケーションを内省できる。 ５．健康の社会的決定要因及びアドボケートという概念について説明できる。
D．学習内容	１．医療安全：ビデオ視聴を通して医療安全を考える。 ２．カウンセリング：概念整理、生物・心理・社会的アプローチをもとに、人間の心理発達を踏まえ、病歴を聴取し、患者やその家族を多面的に理解するための理論と、コミュニケーションの技術について等。 ３．生命・医療倫理：生命倫理や医療倫理の基本的な理念と役割、偏見、差別、人権、患者の権利、公共の福祉について等。 ４．コミュニケーション②：言語学の視点からコミュニケーションの基礎、本質、患者の視点からの医師と患者のコミュニケーションのあり方等。 ５．ダイバーシティ②：多様性を理解するための歴史、アプローチ、概念、医療の現場での多様性（多文化共生、性の多様性。）
E．実習・課外授業	なし
F．準備学習の内容	1.医療安全：過去に公表（マスコミ報道も含む）された医療事故事例一つについて目を通しておくこと。 2.カウンセリング：多くの対人援助の理論を概説するため、「講義のテーマ」や「講義内容」をよく読み、記載されている不明な言葉について情報を得ておくこと。 ３～５：生命・医療倫理、コミュニケーション、ダイバーシティでは事前に送付されるアンケート(Forms）に答えること。
G．復習学習の内容	1.医療安全：講義で視聴したビデオや配布されたプリントの内容について、授業終了後に自分なりに考えること。 2.カウンセリング：授業の当日資料を精読しノートにまとめること。講義内で説明するキーワードを説明できるよう復習すること。 ３～５：生命・医療倫理、コミュニケーション、ダイバーシティでは事後に送付されるアンケート(Forms）に答えること。
H．成績評価の方法・基準	行動科学Ⅱを構成する各領域を100点満点で評価し、60点以上で合格とする。各領域の評価内容は以下となる。 (1)医療安全：出席 50点/感想50点 (2)カウンセリング：平常点50点/最終レポート50点 １．授業中の課題と体験学習の参加態度を平常点として評価する。 　　尚、講義時間内での提出とし、それ以後の提出は評価しない。 ２．最終レポートの課題を第４回で呈示する。

	最終レポートの提出がない場合は単位を認めない。 (3)生命・医療倫理：出席50点/感想50点 (4)コミュニケーション②：出席50点/感想50点 (5)ダイバーシティ②：出席50点/感想50点 最終評価はすべての領域の評価を基にＳＡＢＣＤの５段階（Ｄは不合格）で表す。一つでも不合格の領域があった場合は原則として行動科学Ⅱは不合格となるが、再試験ないしレポートにて再判定を行う場合がある。特に出席には十分注意すること。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	特に指定しない
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R) 山口育子、2018「賢い患者」岩波書店 (R) 日下隼人、2020「温かい医療をめざして　――サービスを支える　コミュニケーション――」篠原出版新社 (R) 宮坂道夫、2020「医療倫理学の方法　原則・ナラティヴ・手順 第3版」医学書院 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	授業中随時紹介 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【行動科学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/12	水	4	医療安全(1)	医療者も人間である以上、過ちをおかす。これは避けられない現実であるが、少しでも医療事故を減らすためにわれわれは日々努力しなければならない。本講義ではビデオ視聴を通して医療安全を考えるきっかけとしたい。双方向性の授業を実施する。	大荷満生		講義(AL)
4/19	水	4	医療安全(2)	前回の講義に引き続きビデオ視聴を通して医療安全を考える。双方向性の授業を実施する。	大荷満生		講義(AL)
6/7	水	1	カウンセリング(1)	さまざまな領域で多様な使われ方をしているカウンセリングという言葉について、分類整理するとともに、共通要素を抽出して「カウンセリングに関連する」用語を理解する。ナラティブ・ベイスド・メディスンの考え方を踏まえ，傾聴についての理論的な理解を深める。	村部妙美		講義
6/14	水	1	カウンセリング(2)	カウンセリングの技法について概観する。特に健康・医療心理学の分野から、ストレスが身体に及ぼす影響、マインドフルネス・ストレスコーピングなどの理解と力動的精神療法における葛藤と防衛機制などを理解し、対人援助における理論と技法を紹介する。特に「クライエント中心療法」、「力動的精神療法」他、技法について理解を深めると共に、人とかかわるための技法を紹介する。	村部妙美		講義
6/21	水	1	カウンセリング(3)	カウンセリングの技法について概観する。特に「森田療法」，「システミックアプローチ」、「交流分析」他の技法について理解を深めると共に、人とかかわるための技法を紹介する。	村部妙美		講義
6/28	水	1	カウンセリング(4)	カウンセリングの技法について概観する。事例、ワーク、シナリオロールプレイなどを通じて体験的に自分のものの見方を振り返る。人とかかわるための技法を体験的に学ぶ。	村部妙美		講義(AL)
9/11	月	1	コミュニケーション②(1)	医療事故の根本的な原因の約7割が「コミュニケーションエラー」だと言われている。様々な具体事例の分析を通して「コミュニケーションとは何なのか」「どういうコミュニケーションが必要とされているのか」について理解を深める。	八木橋宏勇		講義(AL)
9/12	火	1	コミュニケーション②(2)	言語・コミュニケーションの実態を理解し、日常の言語・コミュニケーションを非日常的文脈から理解する。また、感じの良いコミュニケーション、評価されないコミュニケーション、言語によって異なるコミュニケーション作法について考える。	八木橋宏勇		講義(AL)
9/22	金	3	生命・医療倫理(1)	倫理、偏見、差別、人権を理解することを目的として、医師としてハンセン病者と関わってきたゲストスピーカーを招き、トークセッションを行う。トークセッションのテーマ、内容、ファシリテーター、司会を学生主体で実施する。　特別講師 国立療養所多磨全生園　名誉園長 石井則久 氏	江頭説子		講義(AL)
9/29	金	3	生命・医療倫理(2)	過去の感染症への対策の過ちについて考え、患者の権利や配慮だけでなく、社会に対して正しい知識を普及して差別や偏見から患者を守る役割について考えていく。　特別講師 宮坂道夫 新潟大学 教授	江頭説子		講義
10/5	木	5	ダイバーシティ②	多様な性と医療を軸に、健康の社会的決定要因という概念について学ぶ。さらに診察室だけでは解決しない健康問題に取り組むためのアドボケート活動について学び、医師の役割について考える。	吉田絵理子		講義(AL)
10/12	木	2	コミュニケーション②(3)	患者が置かれている現状や、患者が医師に求めていることを理解する。そのうえで、患者と医師のコミュニケーションのあり方について、患者の視点から考えていく。	山口育子		講義(AL)

年度	2023年度	学年	2年
学科目	早期体験学習 II	科目ナンバリング	FME-2A07
単位	2単位	コマ数	29コマ
科目責任者	平形明人　教授		
担当教員	教　授　　冨田泰彦（医学教育学） 教　授　　矢島知治（医学教育学） 准教授　　江頭説子（医学教育学） 学内講師　関口進一郎（医学教育学） 非常勤講師 三枝七都子(医学教育学) その他の教員は講義予定表に記載		

A．教育の基本方針	「良き医師」になるためには、医学・医療に関する知識・技能だけでなく、福祉の果たす役割を理解し、医療は病院だけで完結するのではなく、患者や患者家族、そして支援する人々や関係する施設によって成り立っていることへの理解が求められる。本科目では、身体診察に必要となる基本的な技能の習得、病院や地域の福祉施設での体験学習を通して、医学生としての自覚を高めることを目的とする。 教育方法としては、チーム活動を中心とした能動的な学習(アクティブ・ラーニング)を基本とする。 早期体験学習 II は、以下の領域で構成する。 ・身体診察入門① ・病院体験学習② ・地域体験学習② Ｍ１の「早期体験学習 I 」に続き、Ｍ２の「早期体験学習 II 」、Ｍ３の「早期体験学習 III 」において、地域での暮らし、福祉の果たす役割、地域医療と大学病院の関係と役割、身体診察に必要とされる基本的な技能等について段階的に学んでいく。これらの「早期体験学習」は、Ｍ４から開始される臨床実習につながっていく。
B．到達目標	身体診察入門①：解剖学や生理学との関連を意識しながら身体診察の目的や手順を理解し、基本的な診察法や手技を習得する。 病院体験学習②：配属先の診療科の専門性や治療について、解剖学や生理学との関連を意識しながら理解できる。 地域体験学習②：社会環境や社会構造と健康・疾病の関係（健康の社会的決定要因 social determinants of health）について理解し、説明することができる。 この目標は、ディプロマポリシーの以下の項目と関連する能力の修得につながる。 （1）医師の社会的責任 （2）医学知識と技能 （3）問題解決能力・リサーチマインド （4）コミュニケーション能力 （5）医学・医療と地域・社会とのかかわり
C．修得すべき能力	1．身体診察の目的、手順および評価法を説明できる。 2．基本的な身体診察法と手技を習得する。 3．ＢＳＬに向けて低学年での学びがどうつながっているのかを理解する。 4．先輩医師や医療関係者等と適切なコミュニケーションをとることができる。 5．高齢者や障がいのある人々とコミュニケーションをとることができる。 6．高齢者や障がいのある人々の健康と生活について社会環境や社会構造の視点から説明できる。
D．学習内容	身体診察入門①：身体診察の方法や手順についての講義を行う。 病院体験学習②：M4の後期から始まる臨床実習（BSL/クリニカルクラークシップ）について学んだうえで、配属された診療科で実習担当医の下、体験学習を行う。何を、どこまで学べるかは、学習者の準備と質問力にかかっている。 地域体験学習②：「福祉とは何か」を理解するための講義および高齢者や障がい者等の福祉をテーマとする具体的な事例について学んだうえで、実際に福祉施設での体験を1日かけて実施する。
E．実習・課外授業	病院体験学習②：5月31日（水）に杏林大学医学部付属病院にて体験学習を行う。 地域体験学習②：11月9日（木）または11月16日（木）に福祉施設等での体験学習を行う。
F．準備学習の内容	病院体験学習②：基礎医学（解剖学や生理学など）が配属先の専門とどのように関係しているかについて事前学習を行う。 病院体験学習から何を学ぶかについて自分なりに考え、確認すること、質問することを準備する。 地域体験学習②：地域における社会福祉や福祉施設について調べ、自分なりに福祉に関する問題意識を持っておくこと。また体験学習に備えて、体験する施設の概要についても十分に調べておくこと。
G．復習学習の内容	身体診察入門①で学習する手技については、病院体験学習②や地域体験学習②のなかで実践の機会を得る可能性がある。また、これらの手技は、将来学ぶことになる臨床診断学やＢＳＬにつながる内容でもある。復習として、友達間等で繰り返し練習をしてほしい。 病院体験学習②では、１.配属された診療科の内容、学んだこと、２．基礎医学(解剖学や生理学など）で学ぶことのうち配属された診療科に関連すること、重要なポイントについてまとめ、Formsで提出すること。 地域体験学習②では、1.体験した具体的な内容、2.地域体験学習で感じたこと、考えたこと、3.これからの医学部での学びに活かしたいことについてまとめ、Formsで提出すること。
H．成績評価の方法・基準	早期体験学習 II を構成する各領域を100点満点で評価し、60点以上で合格とする。各領域の評価内容は以下となる。 身体診察入門①：学習した身体診察手技の実技により評価する。

	病院体験学習②：出席(10点）、配属先の担当医による参加態度の評価（40点）、報告会のプレゼンテーションの内容（30点）、チーム活動の参加態度および貢献度(20点）により評価する。 地域体験学習②：出席(10点）、授業・体験学習の参加態度の評価（40点）、レポート（10点）、報告会のプレゼンテーションの内容（20点）、チーム活動の参加態度および貢献度(20点）により評価する。 最終評価はすべての領域の評価を基にＳＡＢＣＤの５段階（Ｄは不合格とする）で表す。一つでも不合格の領域があった場合は原則として早期体験学習Ⅱは不合格となるが、再試験ないしレポートにて再判定を行う場合がある。特に出席には十分注意すること。 なお、必要な提出物を提出しない者は原則として不合格とする。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	特になし
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R) 日下隼人、2020「温かい医療をめざして――サービスを支えるコミュニケーション――」篠原出版新社 (R) 山口育子、2018「賢い患者」岩波書店. ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの 　(A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 佐伯晴子、2014「あなたの患者になりたい　患者の視点で語る医療コミュニケーション」医学書院. ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの 　(A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【早期体験学習Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
5/11	木	1	身体診察入門① 神経診察	神経診察の基本につき解説する。できる範囲で実際にやってみる。	冨田泰彦		講義(AL)
5/17	水	3	病院体験学習② 事前学習(1)	具体的な病院体験学習の実施および報告会についての説明、M4後期から始まる臨床実習の概略について解説する。配属の診療科を発表する。	矢島知治　冨田泰彦 江頭説子　関口進一郎		講義
5/24	水	1	身体診察入門① バイタルサイン測定	バイタルサイン（体温、呼吸数、脈拍数、血圧）測定の基本につき解説する。できる範囲で実際にやってみる。	関口進一郎		講義(AL)
5/25	木	1	病院体験学習② 事前学習(2)	配属先別チーム活動：病院体験学習の確認、体験学習責任医への連絡、配属先診療科に関する学習、質問事項の検討、報告会までの段取りの確認等。	矢島知治　冨田泰彦 江頭説子　関口進一郎		実習(AL)
5/31	水	1	病院体験学習②	各自、配属先で実習担当医の下、体験学習を行う。	矢島知治　冨田泰彦 江頭説子　関口進一郎		実習(AL)
5/31	水	2	病院体験学習②	入念な準備をして、積極的に臨むこと。	矢島知治　冨田泰彦 江頭説子　関口進一郎		実習(AL)
5/31	水	3	病院体験学習②	実際に病棟での体験となることから、患者や患者家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。	矢島知治　冨田泰彦 江頭説子　関口進一郎		実習(AL)
5/31	水	4	病院体験学習②	体験学習終了後にはチームで振り返りを行い、配属先へのお礼のメール、報告会でのプレゼンテーションの準備を行うこと。	矢島知治　冨田泰彦 江頭説子　関口進一郎		実習(AL)
6/7	水	3	病院体験学習② 報告会	配属先のグループ毎に学習した内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。詳細については、事前学習で説明する。	矢島知治　冨田泰彦 江頭説子　関口進一郎		実習(AL)
6/7	水	4	病院体験学習② 報告会	配属先のグループ毎に学習した内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。詳細については、事前学習で説明する。	矢島知治　冨田泰彦 江頭説子　関口進一郎		実習(AL)
10/4	水	1	地域体験学習② 事前学習(1)	地域で暮らすこと、課題等についてグループディスカッションを交えながら、多角的に思考する視点を提示する。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
10/4	水	2	地域体験学習② 事前学習(2)	体験の目的、内容、体験先の説明およびエントリーの方法等について説明する。体験学習はチームで行うことから、チームビルディングのワークを実施する。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
10/16	月	1	地域体験学習② 事前学習(3)	老いてもその人らしく生きることを支える地域医療について、その背景、実例、問題点等について解説する。	金井文彦		講義
10/16	月	2	地域体験学習② 事前学習(4)	認知症の症状について学び、体験学習での関わり方、コミュニケーションのとり方等について考えていく。	冨田泰彦		講義
10/16	月	3	地域体験学習② 事前学習(5)	患者の気持ちに寄り添って話を聴くために必要な心構えについて、対話をしながら考えていく。	山口育子		講義(AL)
10/23	月	1	地域体験学習② 事前学習(6)	地域医療の推進において鍵となる在宅医療について、居宅介護支援事業等の背景、実例、問題点等について解説する。	金井文彦		講義
10/30	月	2	地域体験学習② 事前学習(7)	体験先を発表する。さらに具体的な地域体験学習の実施および報告会についての説明を行う。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/9	木	1	地域体験学習② (8)【A班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/9	木	2	地域体験学習② (9)【A班】	体験する施設の概要について十分に調べておくこと。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/9	木	3	地域体験学習② (10)【A班】	体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点等を必ず確認すること。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/9	木	4	地域体験学習② (11)【A班】	患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/9	木	5	地域体験学習② (12)【A班】	分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。 自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/16	木	1	地域体験学習② (8)【B班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/16	木	2	地域体験学習② (9)【B班】	体験する施設の概要について十分に調べておくこと。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/16	木	3	地域体験学習② (10)【B班】	体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点等を必ず確認すること。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/16	木	4	地域体験学習② (11)【B班】	患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/16	木	5	地域体験学習② (12)【B班】	分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。 自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/20	月	1	地域体験学習 報告会【A班】	体験したこと学んだ内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。詳細については事前学習で説明する。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)
11/27	月	1	地域体験学習 報告会【B班】	体験したこと学んだ内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。詳細については事前学習で説明する。	江頭説子　三枝七都子		実習(AL)

年度	2023年度	学年	2年
学科目	人文・生命科学特論	科目ナンバリング	FME-2A03
単位	1単位	コマ数	12コマ
科目責任者	平形明人　教授		
担当教員	准教授　江頭説子(医学教育学) その他の教員は講義予定表に記載		

A．教育の基本方針	人が生まれるとは、人が生きるとは、人が死ぬとは、何を意味するのか。 本科目では、人文科学および生命科学分野の多様な講師のもと、多角的に思考する機会を設ける。講義は、総合政策学部、外国語学部の教員、学外の講師によるオムニバス形式で行われる。これらの講義を受講することにより、生活世界や意味世界の多様性を理解し、患者、家族、同僚の多様性に配慮できる素地を作る。
B．到達目標	1．人の行為や発話の意味を、その人の人生史・生活史や社会関係の文脈に位置付けて考えることができる。 2．文化人類学・社会学(主に医療人類学・医療社会学)の視点で、患者やその家族と生活環境・地域社会・医療機関等との関係について説明できる。 3．文化人類学・社会学(主に医療人類学・医療社会学)の理論や概念を用いて、患者の判断や行動に関わる諸事情を説明できる。
C．修得すべき能力	1．多様なテーマに対して、多角的かつ複眼的な視点から思考し、対話できる能力。 2．多様な専門家の話を聴き、自分の考えとの相違点や新たな視点を見出し、理解する能力。 3．講義で聴き、理解した内容を文章にして人に伝える能力。
D．学習内容	人の一生に関わる生命・倫理的な課題について、時間軸にそって、社会的・文化的側面、グローバルは視点から多角的に考える。
E．実習・課外授業	なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、文献検索等により関連事項について考えておくこと。 また、事前に送付されるアンケート(Forms）に答えること。
G．復習学習の内容	授業終了後に問われる項目について、意見や感想等をリフレクションペーパー(Forms）で提出すること。
H．成績評価の方法・基準	(1)出席　100点 (2)事前に送付されるアンケート(Forms）の提出　100点 (3)リフレクションペーパー(Forms）の提出　100点 (4)最終レポートの内容　100点 上記(1)～(4)の各項目で評価し、各項目において60点以上で合格とする。最終評価はSABCDの５段階（Dは不合格）で表す。一つでも不合格の項目があった場合は、原則として人文生命科学特論は不合格となるが、再課題の提出により再判定を行う場合がある。特に出席、提出物には十分注意すること。

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	特になし
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)森田真生、2018『数学する身体』新潮文庫. ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(R)柘植あづみ、2012『生殖技術　不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みすず書房. (R)菅野摂子、2017「出生前検査における意思決定支援の困難性」保健医療社会学論集、第28巻第1号、P23-33. (R)菅野摂子、2021「スクリーニング検査と受検者の視覚」保健医療社会学論集、第32巻第1号、P45-54. (R)ピーター・ピオット、2015『ノー・タイム・トゥ・ルーズ　－エボラとエイズと国際政治』慶応義塾大学出版. (R)北島勉、2023「タイ北部におけるHIV感染者ケア強化事業－サンパトンモデルの形成」医学のあゆみ　284(4):308-312. (R)赤尾和美、2008『この小さな笑顔のために～日本人ナースのカンボジア奮闘日記～』朝日新聞出版. (R)除本理史・佐無田光、2020『きみのまちに未来はあるか？：「根っこ」から地域をつくる』岩波ジュニア新書. (A)除本理史・林美帆編著、2022『「地域の価値」をつくる：倉敷・水島の公害から環境再生へ』東信堂. (R)渥美一弥・浮ケ谷幸代他編、2021『医師と人類学者との対話：ともに地域医療について考える』協同医書出版社. (A)浮ケ谷幸代・田代志門他編、2022『現代日本の「看取り文化」を構想する』東京大学出版会. ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【人文・生命科学特論】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/26	水	4	オリエンテーション	本特論では、人の一生に関わる生命・倫理的な課題について、時間軸に沿って、社会的・文化的側面、グローバルな視点から多角的に考えていく。オリエンテーションでは、全体の流れ、学習の進め方（グループワークの体験）、全体を通しての課題について説明する。	江頭説子	資料配布	講義(AL)
5/8	月	1	出生前診断と優生思想	出生前診断は、その結果によって妊娠継続をあきらめる妊婦がいることから倫理的な問題が指摘されている。他方で、医療を利用する主体として出生前検査を受けること、およびリプロダクティブ・ライツとしての中絶の権利は排斥できるものではない。優生思想の歴史を辿りながら、出生前診断の意味を考える。	菅野摂子	資料配布	講義
5/9	火	5	スクリーニング検査の光と影	出生前診断の前に実施される出生前スクリーニング検査（非確定的検査）の精度が上がったことは、この検査が広がる大きな理由の一つである。だが、結果が確率あるいは陽性／陰性で示されることには良い面（benefit）と悪い面（harm）がある。この両面を検討する。	菅野摂子	資料配付	講義
5/17	水	4	医療・医学と言葉・文学	言葉はこの世界を理解し、感じとるための道具です。医学で使われる言葉と日常の言葉について、その入り口を示したいと思います。	金田一秀穂	資料配布	講義
5/22	月	1	タイにおけるHIVに関する活動	国際保健学の概要、国内外のHIVの状況を紹介した後、タイにおけるHIV感染者ケアにおけるタスク・シフティングに関するプロジェクトの概要と成果、今後の展望についてお話します。グループディスカッションの時間を設けます。	北島勉	資料配付	講義(AL)
5/24	水	4	ラオス小児病院等での活動	ラオス　ルアンパバーン県の小児病院における現状を紹介し、医療はこうあるべきだという固定概念を捨て、『異文化・異医療』ととらえること、また「自分にできることは何か」を自由な発想を持って考える機会とする。マンダラチャート等を使用したワークを行う。	赤尾和美	資料配布	講義(AL)
5/24	水	5	ラオスでの子どもの看取りを通して	ラオスでの子を看取った家族の症例を通して、ラオスでの死生観、看取り、家族の心情を理解し、看取りの多様性を考えることを目的として、グループワークも行う。	赤尾和美	資料配布	講義(AL)
6/14	水	4	医療人類学的なワーク(1)	医療人類学の2つのアプローチ　①意味論アプローチ　病気に対する疾病disease vs 病いillnessという対置を通して、治療者と患者との病気に対する捉え方の違いとナラティヴアプローチについて事例を通して考える。グループワークの時間を設けます。	浮ケ谷幸代	資料配布	講義(AL)
6/14	水	5	医療人類学的なワーク(2)	②社会構築アプローチ　「病気の医療化」と「病気は社会によってつくられる」というアプローチについて、同性愛やPTSDを例に考える。グループワークの時間を設けます。	浮ケ谷幸代	資料配布	講義(AL)
6/23	金	3	公害経験の継承と多視点性 －水俣、水島、福島の事例から－	公害や原子力災害のように、多くの犠牲を伴う出来事は「困難な過去」と呼ばれる。様々な立場からの解釈を包み込みながら、それらの経験や教訓を継承しつつ「地球の価値」をつくる道筋を考える。対話をする時間を設けます。	除本理史	資料配布	講義(AL)
6/28	水	4	地域医療の実践	北海道浦河町にある精神医療の診療所の活動についてのDVDを視聴し、地域医療の意味やその役割、暮らしの場から支える医療について考える。グループワークの時間を設けます。	浮ケ谷幸代	資料配布	講義(AL)
6/28	水	5	看取り文化	在宅看取りの実践を例に死を「わがこと」として捉えることに挑戦し、日本の超高齢多死社会における地域医療の在り方、専門家の役割、地域住民との関係について考える。グループワークの時間を設けます。	浮ケ谷幸代	資料配布	講義(AL)

年度	2023年度	学年	2年
学科目	保健・医療の現状と未来Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2F02
単位	1単位	コマ数	12コマ
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）		
担当教員	教　授　多久嶋亮彦（形成外科学）、長島文夫（腫瘍内科学）、要伸也（腎臓・リウマチ膠原病内科学）、窪田博（心臓血管外科学）、横山健一（放射線医学）、須並英二（消化器・一般外科学）、福原浩（泌尿器科学）、石井晴之（呼吸器内科学）、細金直文（整形外科学）、神崎恒一（高齢医学）、井上真（眼科学） 兼担教授　岡島康友（保健学部） 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	医学部に入学した早期の段階で、臨床医学の様々なトピックス的話題に接することで、臨床医学への関心を高め、日常の基礎医学の学習との関連も考える。1 年次の保健・医療の現状と未来Ⅰに続いて、2 年次には、専門分野のトピックスや医学生へのメッセージを各々の分野のリーダーが講義する。 6 年間にわたる医学部での学習の意義や自らの至るべき目標を明確なものとすることをめざす。
B．到達目標	臨床医学を理解するのに必要な基礎的教養や基礎医学の習得をめざす。そして、教育目標に掲げる （1）医師の社会的責任を意識し （2）医学知識と技能を修得するための心構えを身につけ （3）問題解決能力とリサーチマインドの涵養を志すことを目標とする。
C．修得すべき能力	1、臨床の最先端に携わる教員の話から現在学んでいる基礎医学の学習態度の向上を意識する。 2、自らが目指す医師像が臨床医としてかなっているか考える。
D．学習内容	臨床各科の教授による講義を行う。日常的に遭遇する専門分野のテーマや医師のキャリアプランなどに関して、医学生に対してわかり易く講義する。
E．実習・課外授業	なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、関連書籍により関連事項についての情報を得ておくこと。
G．復習学習の内容	各講義内容で印象に残ったことを 3 項目以上記録すること。
H．成績評価の方法・基準	１．評価方法 授業出席状態と出席態度。 ２．判定基準 正当な理由がないかぎり、全出席を基本とする。

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	なし
②参考書 A（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書 B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【保健・医療の現状と未来Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/5	水	5	作ることの喜び	皆さんは小さい頃に何かものを作ったことがありますか？プラモデルを作った覚えは？あるいは腕が取れてしまった人形に針と糸で腕を元に戻したことは？では、それらが完成したときの喜びを覚えていますか？形成外科は壊れた臓器を修復することによって患者さんが元の（あるいは新しい）生活に戻ることを手助けする外科です。癌で切除された鼻を作ったり、仕事中に切り落としてしまった指をもう一度くっつける、といったことをする外科です。楽しい仕事です。講義を通じて皆さんもわれわれの仕事ぶりを楽しんでください。	多久嶋亮彦	なし	講義
4/26	水	5	がんの臨床	がんとはどういう疾患なのか？、がんはなぜ起きるのか？、日本人におけるがん患者の罹患数や死亡数など、がんの予防と治療はどうするか？、がんの告知、がん患者の生活のサポートなど、がんの臨床について。	長島文夫	なし	講義
5/17	水	5	腎臓は何をしているのか？：隠れた司令塔としての役割	腎臓は複雑な構造を持ち、単に尿を作るだけでなく多様な機能を担っている。最近は、全身諸臓器とも深く連関し、意外なことに老化と密接に関わっていることもわかってきた。トピックスであるHIF刺激薬は腎臓の低酸素応答とも関連している。一方で、腎臓はさまざまな病態の標的になりやすい。本講義で、隠れた司令塔としての腎臓の重要性と腎臓病学の奥深さを知っていただきたい。	要伸也	なし	講義
5/26	金	3	心臓血管外科の進歩と未来	人工心肺を用いた開心術が始まってから60年以上が経過し、現在ほぼ全ての心血管疾患に対する手術法が行われています。その進歩は急速かつ現在進行形です。皆さんが医師になる頃の循環器医療も予想してみたいと思います。	窪田博	なし	講義
5/31	水	5	現代医療における画像診断の役割	実臨床において画像診断の果たす役割は極めて大きく、さらに日々発展している。さまざまな画像診断の基礎について、装置の仕組みや発展の歴史を含め概説する。また画像診断装置を用い血管など体内の様子をみて治療を行う画像下治療についても述べる。	横山健一	なし	講義
6/7	水	5	消化器外科領域の低侵襲治療の現況	近年の基礎・臨床医学の進歩とともに外科学は変貌・発展しつつあるが、手術によって患者の健康を改善・維持するという目標は変わっていない。その一方で、手術内容は日々進化しており、その目標は「いかに低侵襲で患者の健康を改善・維持することができるか」が最大のポイントとなっている。最新の様々な低侵襲治療を紹介し、外科医療の素晴らしさを感じられる講義にしたい。	須並英二	なし	講義
6/16	金	3	がん治療について	がん治療は早期発見・早期治療が最適と言われている。しかし、腫瘍マーカーが鋭敏になって超早期治療が可能となった前立腺癌では、監視療法も推奨されている。一方、治療抵抗性癌では、一般の人は最後まで闘いたいと抗癌剤治療を希望するが、医療人の多くは希望せず、乖離がある。がん治療そのものについて、みなさんにも問いかけたい。	福原浩	なし	講義
6/20	火	4	肺とタバコについて	肺という臓器、そしてタバコの害とは？　喫煙と健康について、喫煙者本人または副流煙として喫煙している周りの人（受動喫煙）にも関連する病気は多数みられる。タバコの社会全体に与える損失は大きいので医学生として把握しておく重大な知識を講義する。	石井晴之	なし	講義
6/27	火	5	運動器外科の現状と未来	脊椎、四肢の関節、筋肉、脳からの指令を伝達する脊髄・末梢神経を含めた全ての運動器に関する保存・外科治療により、QOL・ADLの改善を目的とする整形外科のおかれた現状と未来について皆さんにお伝えする。	細金直文	なし	講義
7/3	月	2	歳をとるとは？	「歳をとる」とは何でしょうか？老化は年齢で決まるのでしょうか？歳をとることと病気の関係は？医師は何をすべきか、何ができるかについて考えてみましょう。	神﨑恒一	なし	講義
9/19	火	2	眼科診療とQOV	QOVはquality of visionの略でquality of life (QOL)とは異なります。眼科診療はQOVを向上させるためにどのように貢献しているか実臨床例から解説します。	井上真	なし	講義
9/21	木	2	障害の視点とリハビリテーションの考え方	医療が臓器別に編成される中、リハビリは障害という切り口で臓器横断的な診療を行ない、患者の将来の生活、QOLを念頭に置いた医療を提供する新しい領域である。その基本的な考え方と重要性を示す。	岡島康友	なし	講義

年度	2023年度	学年	2年
学科目	肉眼解剖学Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2C02
単位	5単位	コマ数	124コマ
科目責任者	長瀬美樹　教授（肉眼解剖学教室）		
担当教員	教　授　　長瀬美樹　（肉眼解剖学教室）、平形明人　（眼科学教室）、徳嶺譲芳　（麻酔科学教室）、阿部展次　（消化器・一般外科学教室）、谷垣伸治　（産科婦人科学教室）、中冨浩文　（脳神経外科学教室）、森井健司（整形外科学教室） 客員教授　松村譲兒　（肉眼解剖学教室） 准教授　　田中良太（呼吸器・甲状腺外科学教室）、増田正次（耳鼻咽喉科学教室） 講　師　　上野仁之　（肉眼解剖学教室）、大石篤郎　（肉眼解剖学教室） 助　教　　舛田一樹　（泌尿器科学教室）、小島洋平（消化器・一般外科学教室）、中山大輔（形成外科学教室）　竹下祐平（放射線医学教室）、持田勇希（救急医学教室）、坂倉健吾（整形外科学教室）、稲田成作（救急医学教室）、竹内拓海（整形外科学教室）		

A．教育の基本方針	肉眼解剖学は医師を志す学生が人体の正常構造を理解するための基盤となる教科であり、解剖学実習は医学生が「人体から直接情報を得る」ための最初のトレーニングである。すなわち、解剖学は単なる知識ではなく、剖出と観察による人体構造の体感とイメージの適格な把握を目標とする。当教科では実習による観察力の育成と人体構造と機能の理解を目標に、人間に向き合う姿勢の涵養を教育目標としている。医師を志す者にとって、学生の段階から専門職としての自覚は必須であり、プライドをもって事にあたり、学習に際しても真摯な姿勢と謙虚な気持を忘れてはならない。当教科では、特別な機会である解剖学実習を通じ、医師を目指す者としての自覚を促す。学生は「肉眼解剖実習は唯一無二の機会」であることを肝に銘じ「医師を目指す者としての自覚」をもって自らを律する姿勢を貫くことが最重要課題である。さらに、気管挿管や皮膚の結紮・縫合といった医療現場における基本臨床手技を体験し、その際に必要となる解剖学的知識を身につけ、また、ご遺体のオートプシー・イメージング（死後CT・MRI画像）を解剖学実習とリンクさせ、医用画像の読影を修得することも目標とする。
B．到達目標	医師に求められる医学知識の根幹となる人体の正常構造について、ご遺体から直接情報を収集してイメージを身につけ、その概略を説明することができる。人体の構造を機能と関連づけて理解し、疾病の成り立ちを説明することができる。人体の各部の三次元的配置、横断面像を想起し、医用画像の読影に活用できる。命の尊厳、医師という職業の重み、献体者への感謝の念を心に刻み、高い倫理観、他者への礼意をもって接することができる。
C．修得すべき能力	1．人体構造のイメージを把握したうえで生理機能や病態との関連について、その概略を説明できる。 2．身体の中に埋もれている臓器を、周囲との位置関係・境界を見極めて剖出するための、系統解剖に必要な手法を修得する。 3．自ら問いを設定し、ご遺体と向き合いじっくり観察することで、答えを導き出す解決能力を養う。 4．献体者の崇高なご意志に報いるべく、命の尊厳や医の倫理について熟考し、医師としての社会的責任を自覚し、感謝の気持ちを持って実習に臨む態度を身につける。
D．学習内容	1．講義 項目 / 概要 / 期 / コマ / 担当 実習講義 / 人体の構造と機能について、解剖実習とリンクするよう、講義する / 前 / 13 / 長瀬、松村、上野、大石 特別講義 / 臨床各科(放射線科、整形外科、形成外科・美容外科、産科婦人科、消化器・一般外科、救急医学、泌尿器科、眼科、脳神経外科、耳鼻咽喉科)の担当者が、手術ビデオや医用画像の供覧を交えて、専門領域について解剖学と関連づけた講義を行う / 前 / 11 / 竹下、森井、坂倉、稲田、竹内、中山、谷垣、阿部、持田、舛田、平形、中冨、増田 脳実習講義 / 脳の構造と機能について講義する / 前 / 4 / 長瀬、松村、上野、大石 実習講義（アクティブラーニング） / 死後CT画像について講義した後、実習体のCT画像（配布）を読影して異常所見を見つけ出す（グループワーク）。 / 前 / 1 / 上野、長瀬、松村、大石 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、手指消毒、換気を行い、密を避けて実施する。
E．実習・課外授業	1．実習の基本方針 解剖学実習、脳実習は「人体から直接情報を得る最初の経験」であり「人生唯一度の機会」である。日々真摯な態度でご遺体と向き合い、五感を駆使し、ご遺体が発する情報を獲得する術を身につけ、教科書や講義で得た知識と有機的にリンクさせて人体の三次元構造を体得することを目標とする。同時に、人体の神秘、命の尊厳、医師という職業の重み、献体者への感謝の念を心に刻み、精神的にも大きく成長する機会とすべく努める。実習の成果は自学自習によってもたらされるので、必ずマニュアルで予習し、剖出・観察の目標をもって主体的・能動的に実習に臨むこと。限られた時間内に集中して学習することが重要であり、「後でまとめてやる」という逃避行動は許されない。準備もせずに実習室に顔を出すのみであったり、自ら剖出せず傍観に終始するのであれば、それは人生唯一度の機会を無駄にするだけでなく、献体者に対して著しく礼を欠く行為である。礼を欠いた段階で「解剖」ではなく「死体損壊」となる。 2．解剖学実習中の新型コロナウイルス感染症対策について

実習中は手袋・不織布のマスク着用を必須とし、手指消毒、換気を行い、密を避けて実施する。毎朝検温し、発熱、体調不良者、感染者，濃厚接触者は学生係に連絡すること。
なお、ご遺体は固定処置を施しており、ご遺体から新型コロナウイルス感染が広がることはない。
状況により変更となる可能性があり、その都度アナウンスする。

３．実習講義・実習の項目

項目	概要	期	コマ	担当
解剖学実習	ご遺体を用いて人体を構成する構造を剖出し、名称、形状、走行、周囲臓器との位置関係、生理機能を修得する。 [体壁、上下肢、胸腹部内臓（呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿生殖器系）、脊髄、末梢神経系（脳神経、脊髄神経、自律神経）、頭頸部諸器官] ご遺体のCT（配布）と胸腹部臓器の肉眼所見を対比しながら解剖する。	前	74	長瀬、松村、上野、大石
解剖学実習・解剖学演習（アクティブラーニング）	皮膚パッドを用いて皮膚の結紮・縫合トレーニングを行う。柔らかい固定のご遺体を用いて気管挿管手技を体験する。事前にstudent teacher役の学生に手技を教え、学生が学生に教えるアクティブラーニング形式で実施する。 CT課題（実習体のCT画像の異常所見と肉眼解剖所見を対比する）をグループ毎に発表する。	前	11	田中、小島、徳嶺、長瀬、松村、上野、大石
脳実習	解剖体より摘出し固定した脳の各部の構造を剖出し、肉眼所見を観察精査し、ご遺体のMRI画像と対比させ、三次元的配置や機能を修得する。 終脳（終脳皮質・脳葉・脳溝・脳回・機能局在・大脳基底核・海馬）、間脳（視床・視床下部）、脳幹（中脳・橋・延髄）、小脳、脳神経、動静脈・髄膜・脳室・脈絡叢・連合／交連／投射線維・錐体路・線維束剖出	前	8	長瀬、松村、上野、大石

４．実習のオリエンテーションと持ち物、注意事項
初日（4月10日）に解剖実習オリエンテーションを行い、実習の概要、心構え、班分け、試験について説明する。実習班は学生番号順ではなく、ランダムに班を設定する（実習途中での変更は行わない）。
実習では解剖衣（ガウンまたは防水エプロン）・手術着（汚れてもよい普段着でもよい）・サンダル・不織布マスクを着用し、解剖用具（外科剪刀、眼科剪刀、ピンセット、イカ頭ピンセット、ゾンデ）・実習マニュアル・図譜（班で１冊準備する）・筆記用具を必ず持参する。実習室では専用の解剖衣を着用し、実習室の外に出る際には脱ぐ。
貴重品はロッカーにしまい、実習室には持参しない。身だしなみに注意する（シワだらけの白衣、土足、スリッパ、ハイヒールは厳禁、長髪は束ねる、爪は短く切っておく）。脳実習時には解剖衣・手術着ではなく、白衣を着用する。サンダルはメスを落とした時に怪我をしないようにつま先が隠れるものにする。解剖用具には自分の物であることがわかる目印をつけておく。〔注：外科剪刀は合わせ（支点）の内側にそれぞれの番号が刻印されているので、自分のハサミの番号は必ず憶えておくこと。〕一括購入した手袋、メス、ペーパータオルは実習時に直接配布するので持参する必要はない。
更衣室・実習室内での以下の行為は厳禁である。
①写真撮影（カメラ・スマホ・タブレット等の撮影可能機器の持ち込み禁止）
②標本・パネルの持ち出し、持ち歩き、複写
③飲食物の持ち込みと飲食・飲酒・喫煙
④図書館の本の持ち込み
※献体者に対して礼意を欠く行為は厳禁である。

課外授業：積極的に参加して、様々なことにチャレンジしてほしい。
※新型コロナウイルス感染症の状況により変更することがある。
１．解剖実習中に教科書やアトラスの記載と異なる「破格」例を見つけた場合に、学会発表に向けた準備の指導を行う。
２．肉眼解剖学教室で行っている基礎研究や、解剖体を用いた研究、メディカルイラストレーションなどに興味を持つ学生を対象に、研究室に受け入れ、指導を行う。
３．臨床の教室と共同で、「臨床手技体験セミナー」「脳神経外科セミナー見学」を開催することがある。

F．準備学習の内容	事前にシラバスの「実習テーマ」「実習内容」に目を通し、実習マニュアルの該当ページを読み、実習で剖出・観察する構造名を書き出し、実習内容、剖出の手順を説明できる状態で実習に臨むこと。図譜の該当ページをみてイメージトレーニングしておく。各1時間。
G．復習学習の内容	実習マニュアルを中心に、図譜・教科書・講義プリントで定義や機能、走行などを調べ、自分なりの「解剖学事典」を作成してみる。その際、必ず自分で模式図を作成し、その模式図を使って説明できるようにする。記憶定着アプリ（Monoxer）で配信された課題（解剖学用語英単語、医用画像など）を学習する。各1時間。

H．成績評価の方法・基準	１．受験資格 欠席回数が講義コマ数の1/3を超える場合、または実習コマ数の10％を超える場合、実習試験や筆記試験の受験資格および以後の実習参加を認めないことがある。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が蔓延する状況下で、発熱・体調不良で実習を欠席した学生、濃厚接触者となった学生については、個別に対応を検討する。また、特別な理由がある場合、長期加療が必要な場合は教務係と相談のうえ、可能な範囲で対応するので無理せず早めに連絡すること。 ２．評価方法（形成的評価と総括的評価） ①形成的評価：確認テストを行い、全学生の内容理解度を確認する。 ②総括的評価：ご遺体を用いた実地試験を３回（浅層／骨・深層・脳）行い、実習のモチベーション向上をはかり、実習態度や知識の定着、三次元的理解を確認する。CTやMRI問題も出題し、解剖の知識の医療画像への応用を促す。筆記試験にて実習で修得した知識の総合確認を行う。各試験の採点後すぐに、成績を個人のメールに通知し、試験の模範解答と成績のヒストグラムを開示し、学生にフィードバックする。成績不振学生を早期に抽出し指導する。質問に対しては、メールまたは直接教室にて対応する。 ③履修態度：講義・実習の出席率、実習中に行うCT/MRI課題とその発表会、実習感想文、確認テストの提出（送信）状況や実習態度、特別講義・特別実習後のアンケート提出を、履修態度として評価する。 ３．試験の期日と実施方法 実習試験（浅層／骨）（5月1日3～4限）、実習試験（深層）（6月19日1～2限）、実習試験（脳）（7月12日4～5限）は解剖実習室にて実際のご遺体を用いた筆答試験形式で実施し、人体構造に対するイメージの取得成果を評価する。 筆記試験1は5月1日2限に、筆記試験2は6月26日3限に、301・302講義室にて行う。 試験の解答に使用する用語は、原則として英語・日本語とも解剖学用語（改訂13版）掲載の用語を以て正解とする。 ※再履修生も、（全履修生共通の）実習試験、筆記試験を受ける。希望者には、実習試験前に解剖体を観察する機会を設ける。 ４．判定基準 実習試験および筆記試験の合格判定は、下記１）２）３）に記す評価方法で別個に行う。 １）実習試験：実習試験（浅層／骨）（30点）、実習試験（深層）(40点)、実習試験（脳）（30点）で換算し、総合点100点として6割以上を合格とする。不合格者に対しては学年末に画像による再試験を行う。 ２）筆記試験：筆記試験１(30点)、筆記試験２(70点)で換算し、総合点100点として6割以上を合格とする。不合格者に対しては学年末に筆記形式による再試験を行う。 実習試験、筆記試験とも試験欠席者に対しては、杏林大学医学部学修規定第7条に準じて対応する。 ３）最終評価：実習試験、筆記試験ともに合格に達していた場合、その平均点を学年試験の最終成績とする。合格点に達しなかった試験には再試験を行う。再試験受験者は本試験の成績ならびに実習再試験、筆記再試験の素点をもとに総合的に判断して、最終成績（60点を最高限度）として報告する。進級判定については、試験の成績の他、履修態度等も含め総合的に行う。 ※再履修生も、上記評価基準にて判定する。 ※通年成績優秀者若干名には、当教室より「優秀成績証明書」と副賞（粗品）を授与する。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	○イラスト解剖学　第１０版：中外医学社 ○ネッター解剖学アトラス　第７版：南江堂
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)臨床につながる解剖学イラストレィティッド：羊土社 (R)カラー図解 人体の正常構造と機能 縮刷版第４版：日本医事新報社 (R)ムーア臨床解剖学　第3版：MEDSi (R)グレイ解剖学　原著第4版：エルゼビア・ジャパン (R)カラー図解 神経解剖学講義ノート：金芳堂 (R)プロメテウス解剖学アトラス　頭部／神経解剖（脳実習用） (R)解剖学カラーアトラス（Rohen・横地）　第９版：医学書院 (R)プロメテウス解剖学コアアトラス第４版：医学書院 (R)医学大辞典WEBパッケージ　アカデミック専用6年版：医学書院 (R)解剖学用語 改訂13版：医学書院（試験の解答はこれに則る） ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)解剖学講義　第3版：南山堂 (A)標準解剖学：医学書院 (R)カラー図解 新しい人体の教科書 上下（ブルーバックス） (R)カラー図解 脳神経ペディア～解剖と機能が見える・つながる事典：羊土社 (A)フィッツジェラルド カラー 臨床神経解剖学―機能的アプローチ：西村書店 (A)プロメテウス解剖学アトラス（3冊組）：医学書院 (A)グラント解剖学図譜　第７版：医学書院 (A)ソボッタ解剖学アトラス 原書24版（3冊組）：丸善出版 (R)医学大辞典 改訂20版：南山堂 (R)ステッドマン医学辞典（英和・和英）第6版：メジカルビュー社 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/10	月	1	VR手術体験 皮膚の結紮・縫合演習： モジュール１（結紮）	VRゴーグルを用いた手術体験 解説（20分）・実技（代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える）・ポストテスト	田中良太 小島洋平	配布資料	演習(AL)
4/10	月	2	皮膚の結紮・縫合演習： モジュール２（縫合）	解説（20分）・実技（代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える）・ポストテスト	田中良太 小島洋平	配布資料	演習(AL)
4/10	月	3	解剖学実習オリエンテーション・実習講義１	解剖学実習序論・解剖学実習と倫理・関連する法律・献体の趣旨・実習の説明と諸注意・試験について・皮膚の構造と皮膚剥離・動静脈と神経の同定・体表解剖	長瀬美樹	配布資料	講義
4/10	月	4	解剖学実習準備	選抜者は準備作業（於解剖実習室） 他の学生は解剖衣等の購入（別途指示）	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		実習
4/10	月	5	解剖学実習準備	選抜者は準備作業（於解剖実習室） 他の学生は解剖衣等の購入（別途指示）	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		実習
4/11	火	2	実習講義２	頚部・胸腹壁・背部	大石篤郎	配布資料	講義
4/11	火	3	解剖実習１： 背面の皮膚剥離と浅背筋の解剖	皮膚・僧帽筋・広背筋・大小菱形筋・肩甲挙筋・支配神経（副神経・脊髄神経前枝）・聴診三角	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/11	火	4	解剖実習１： 背面の皮膚剥離と浅背筋の解剖	皮膚・僧帽筋・広背筋・大小菱形筋・肩甲挙筋・支配神経（副神経・脊髄神経前枝）・聴診三角	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/11	火	5	解剖実習１： 背面の皮膚剥離と浅背筋の解剖	皮膚・僧帽筋・広背筋・大小菱形筋・肩甲挙筋・支配神経（副神経・脊髄神経前枝）・聴診三角	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/13	木	2	実習講義３	血管系の概略・中心静脈とカテーテル挿入・採血・血圧	長瀬美樹	配布資料	講義
4/13	木	3	解剖実習２： 前面の皮膚剥離・乳房・頚部・胸腹壁の筋の解剖	皮膚・デルマトーム・乳腺・橈側皮静脈・大胸筋・小胸筋・前鋸筋・外腹斜筋・腹直筋鞘・鼠径靭帯・胸鎖乳突筋・副神経・舌骨・甲状軟骨・舌骨下筋・頚動脈三角・頚動脈鞘	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/13	木	4	解剖実習２： 前面の皮膚剥離・乳房・頚部・胸腹壁の筋の解剖	皮膚・デルマトーム・乳腺・橈側皮静脈・大胸筋・小胸筋・前鋸筋・外腹斜筋・腹直筋鞘・鼠径靭帯・胸鎖乳突筋・副神経・舌骨・甲状軟骨・舌骨下筋・頚動脈三角・頚動脈鞘	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/13	木	5	解剖実習２： 前面の皮膚剥離・乳房・頚部・胸腹壁の筋の解剖	皮膚・デルマトーム・乳腺・橈側皮静脈・大胸筋・小胸筋・前鋸筋・外腹斜筋・腹直筋鞘・鼠径靭帯・胸鎖乳突筋・副神経・舌骨・甲状軟骨・舌骨下筋・頚動脈三角・頚動脈鞘	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/17	月	2	実習講義４	上肢	松村譲兒	配布資料	講義
4/17	月	3	解剖実習３： 頚部の解剖	総頚動脈・内頚静脈・迷走神経・舌骨下筋・頚神経ワナ・舌下神経・舌骨上筋・顎下三角・顎下腺・頚部リンパ節・外頚動脈と枝・内頚動脈・甲状腺・気管・反回神経・鎖骨下筋・鎖骨切除	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/17	月	4	解剖実習３： 頚部の解剖	総頚動脈・内頚静脈・迷走神経・舌骨下筋・頚神経ワナ・舌下神経・舌骨上筋・顎下三角・顎下腺・頚部リンパ節・外頚動脈と枝・内頚動脈・甲状腺・気管・反回神経・鎖骨下筋・鎖骨切除	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/17	月	5	解剖実習３： 頚部の解剖	総頚動脈・内頚静脈・迷走神経・舌骨下筋・頚神経ワナ・舌下神経・舌骨上筋・顎下三角・顎下腺・頚部リンパ節・外頚動脈と枝・内頚動脈・甲状腺・気管・反回神経・鎖骨下筋・鎖骨切除	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/18	火	2	実習講義５	下肢	上野仁之	配布資料	講義
4/18	火	3	解剖実習４： 鎖骨部・腕神経叢・腋窩の解剖	前斜角筋・横隔神経・鎖骨下静脈・鎖骨下動脈とその枝（椎骨・内胸・甲状頚動脈）・静脈角・胸管・斜角筋隙・腕神経叢・腋窩・腋窩動静脈・橈側皮静脈・尺側皮静脈・腕頭静脈	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/18	火	4	解剖実習４： 鎖骨部・腕神経叢・腋窩の解剖	前斜角筋・横隔神経・鎖骨下静脈・鎖骨下動脈とその枝（椎骨・内胸・甲状頚動脈）・静脈角・胸管・斜角筋隙・腕神経叢・腋窩・腋窩動静脈・橈側皮静脈・尺側皮静脈・腕頭静脈	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/18	火	5	解剖実習４： 鎖骨部・腕神経叢・腋窩の解剖	前斜角筋・横隔神経・鎖骨下静脈・鎖骨下動脈とその枝（椎骨・内胸・甲状頚動脈）・静脈角・胸管・斜角筋隙・腕神経叢・腋窩・腋窩動静脈・橈側皮静脈・尺側皮静脈・腕頭静脈	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/20	木	2	特別講義	放射線科特別講義：医用画像２	竹下祐平	配布資料	講義
4/20	木	3	解剖実習５： 腋窩・肩・上腕の解剖	腋窩・肩～上腕の筋（三角筋・棘上筋・棘下筋・肩甲下筋・小円筋・大円筋・烏口腕筋・上腕二頭筋・上腕筋・上腕三頭筋）と支配神経（脊髄神経前枝）・回旋筋腱板・腋窩動脈・上腕動脈・腕神経叢（筋皮・正中・尺骨・橈骨・腋窩神経）・外側／内側腋窩隙	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/20	木	4	解剖実習５： 腋窩・肩・上腕の解剖	腋窩・肩～上腕の筋（三角筋・棘上筋・棘下筋・肩甲下筋・小円筋・大円筋・烏口腕筋・上腕二頭筋・上腕筋・上腕三頭筋）と支配神経（脊髄神経前枝）・回旋筋腱板・腋窩動脈・上腕動脈・腕神経叢（筋皮・正中・尺骨・橈骨・腋窩神経）・外側／内側腋窩隙	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/20	木	5	解剖実習５： 腋窩・肩・上腕の解剖	腋窩・肩～上腕の筋（三角筋・棘上筋・棘下筋・肩甲下筋・小円筋・大円筋・烏口腕筋・上腕二頭筋・上腕筋・上腕三頭筋）と支配神経（脊髄神経前枝）・回旋筋腱板・腋窩動脈・上腕動脈・腕神経叢（筋皮・正中・尺骨・橈骨・腋窩神経）・外側／内側腋窩隙	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/24	月	2	解剖実習６： 殿部・大腿屈側・膝窩・下腿屈側・固有背筋の解剖	殿筋群・上下殿神経・回旋筋群・坐骨神経・坐骨結節・大腿屈筋群（ハムストリングス）・鵞足・膝窩・下腿三頭筋・浅／深後方コンパートメント・屈筋支帯（足根管）・脛骨神経・後脛骨動脈・脊柱起立筋（棘筋・最長筋・腸肋筋）・板状筋・半棘筋・後頭下筋・後頭下三角・椎骨動脈・支配神経（脊髄神経後枝）	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/24	月	3	解剖実習６： 殿部・大腿屈側・膝窩・下腿屈側・固有背筋の解剖	殿筋群・上下殿神経・回旋筋群・坐骨神経・坐骨結節・大腿屈筋群（ハムストリングス）・鵞足・膝窩・下腿三頭筋・浅／深後方コンパートメント・屈筋支帯（足根管）・脛骨神経・後脛骨動脈・脊柱起立筋（棘筋・最長筋・腸肋筋）・板状筋・半棘筋・後頭下筋・後頭下三角・椎骨動脈・支配神経（脊髄神経後枝）	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習

2023年度　2年　講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/24	月	4	解剖実習６： 殿部・大腿屈側・膝窩・下腿屈側・固有背筋の解剖	殿筋群・上下殿神経・回旋筋群・坐骨神経・坐骨結節・大腿屈筋群（ハムストリングス）・鵞足・膝窩・下腿三頭筋・浅／深後方コンパートメント・屈筋支帯（足根管）・脛骨神経・後脛骨動脈・脊柱起立筋（棘筋・最長筋・腸肋筋）・板状筋・半棘筋・後頭下筋・後頭下三角・椎骨動脈・支配神経（脊髄神経後枝）	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/24	月	5	特別講義	整形外科特別講義：総論・下腿悪性軟部腫瘍 肩関節変性疾患 手関節骨折 脊椎変性疾患	森井健司 坂倉健吾 稲田成作 竹内拓海	配布資料	講義
4/25	火	2	解剖実習７： 前腕屈側～手・大腿伸側 前腹壁の解剖	前腕屈筋・上腕骨内側上顆・正中神経・尺骨神経・屈筋支帯・手根管・ギヨン管・手内筋・尺骨動脈・橈骨動脈・浅／深掌動脈弓・大腿伸筋・大腿三角・大腿VAN・内転筋群・閉鎖神経・内腹斜筋・腹横筋	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/25	火	3	解剖実習７： 前腕屈側～手・大腿伸側 前腹壁の解剖	前腕屈筋・上腕骨内側上顆・正中神経・尺骨神経・屈筋支帯・手根管・ギヨン管・手内筋・尺骨動脈・橈骨動脈・浅／深掌動脈弓・大腿伸筋・大腿三角・大腿VAN・内転筋群・閉鎖神経・内腹斜筋・腹横筋	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/25	火	4	解剖実習７： 前腕屈側～手・大腿伸側 前腹壁の解剖	前腕屈筋・上腕骨内側上顆・正中神経・尺骨神経・屈筋支帯・手根管・ギヨン管・手内筋・尺骨動脈・橈骨動脈・浅／深掌動脈弓・大腿伸筋・大腿三角・大腿VAN・内転筋群・閉鎖神経・内腹斜筋・腹横筋	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/25	火	5	特別講義	形成外科特別講義	中山大輔	配布資料	講義
4/27	木	2	特別講義	放射線科特別講義：医用画像２	竹下祐平	配布資料	講義
4/27	木	3	解剖実習８： 前腕伸側・下腿伸側～外側の解剖	前腕伸筋・上腕骨外側上顆・腕橈骨筋・橈骨神経・伸筋支帯・解剖学的嗅ぎタバコ入れ・橈骨動脈・前方／外側コンパートメント・深・浅腓骨神経・前脛骨動脈・足の伸筋支帯・足背動脈	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/27	木	4	解剖実習８： 前腕伸側・下腿伸側～外側の解剖	前腕伸筋・上腕骨外側上顆・腕橈骨筋・橈骨神経・伸筋支帯・解剖学的嗅ぎタバコ入れ・橈骨動脈・前方／外側コンパートメント・深・浅腓骨神経・前脛骨動脈・足の伸筋支帯・足背動脈	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/27	木	5	解剖実習８： 前腕伸側・下腿伸側～外側の解剖	前腕伸筋・上腕骨外側上顆・腕橈骨筋・橈骨神経・伸筋支帯・解剖学的嗅ぎタバコ入れ・橈骨動脈・前方／外側コンパートメント・深・浅腓骨神経・前脛骨動脈・足の伸筋支帯・足背動脈	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/1	月	2	筆記試験１ （於301・302講義室）	範囲：解剖実習１～８ 実習講義１～５	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		試験
5/1	月	3	実習試験（浅層／骨）（於解剖実習室）	範囲：解剖実習１～８ 骨学	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		試験
5/1	月	4	実習試験（浅層／骨）（於解剖実習室）	範囲：解剖実習１～８ 骨学	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		試験
5/1	月	5	実習講義６	実習体の医用画像読影と課題（active leargning）	上野仁之	配布資料	講義(AL)
5/8	月	2	実習講義７	脊髄と脊髄神経・内頭蓋底・下垂体・体表解剖２	松村譲兒	配布資料	講義
5/8	月	3	解剖実習９： 脊髄の摘出と内頭蓋底の観察	脊柱管・脊髄髄膜・脊髄・脊髄神経節・黄色靭帯・後縦靭帯・椎骨静脈叢・脳硬膜・硬膜静脈洞・内頭蓋底・脳神経・内頚動脈・海綿静脈洞・三叉神経節・下垂体	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/8	月	4	解剖実習９： 脊髄の摘出と内頭蓋底の観察	脊柱管・脊髄髄膜・脊髄・脊髄神経節・黄色靭帯・後縦靭帯・椎骨静脈叢・脳硬膜・硬膜静脈洞・内頭蓋底・脳神経・内頚動脈・海綿静脈洞・三叉神経節・下垂体	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/8	月	5	解剖実習９： 脊髄の摘出と内頭蓋底の観察	脊柱管・脊髄髄膜・脊髄・脊髄神経節・黄色靭帯・後縦靭帯・椎骨静脈叢・脳硬膜・硬膜静脈洞・内頭蓋底・脳神経・内頚動脈・海綿静脈洞・三叉神経節・下垂体	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/11	木	2	実習講義８	開胸開腹・胸腹部臓器・胸膜・心膜・腹膜	長瀬美樹	配布資料	講義
5/11	木	3	解剖実習１０： 開胸および開腹	胸膜・心膜・肺・心臓・大血管・横隔神経・腹膜・横隔膜・大網・胃～直腸・結腸ヒモ・肝臓・胆嚢・脾臓・腸間膜・小網・網嚢孔・網嚢・腹膜ヒダ・腹膜陥凹・腹膜後器官	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/11	木	4	解剖実習１０： 開胸および開腹	胸膜・心膜・肺・心臓・大血管・横隔神経・腹膜・横隔膜・大網・胃～直腸・結腸ヒモ・肝臓・胆嚢・脾臓・腸間膜・小網・網嚢孔・網嚢・腹膜ヒダ・腹膜陥凹・腹膜後器官	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/11	木	5	解剖実習１０： 開胸および開腹	胸膜・心膜・肺・心臓・大血管・横隔神経・腹膜・横隔膜・大網・胃～直腸・結腸ヒモ・肝臓・胆嚢・脾臓・腸間膜・小網・網嚢孔・網嚢・腹膜ヒダ・腹膜陥凹・腹膜後器官	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/15	月	2	解剖実習１１： 胸部臓器の摘出と観察：心臓・肺　（CT課題）	心臓・上／下大静脈・上行大動脈・肺動脈幹・動脈管・反回神経・迷走神経・心臓神経叢・冠状動脈と枝・肺・水平裂・斜裂・肺葉・肺区域・主／葉／区域気管支	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/15	月	3	特別講義	産婦人科特別講義	谷垣伸治	配布資料	講義
5/15	月	4	解剖実習１１： 胸部臓器の摘出と観察：心臓・肺　（CT課題）	心臓・上／下大静脈・上行大動脈・肺動脈幹・動脈管・反回神経・迷走神経・心臓神経叢・冠状動脈と枝・肺・水平裂・斜裂・肺葉・肺区域・主／葉／区域気管支	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/15	月	5	解剖実習１１： 胸部臓器の摘出と観察：心臓・肺　（CT課題）	心臓・上／下大静脈・上行大動脈・肺動脈幹・動脈管・反回神経・迷走神経・心臓神経叢・冠状動脈と枝・肺・水平裂・斜裂・肺葉・肺区域・主／葉／区域気管支	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/16	火	2	実習講義９	腹部臓器と血管、腹部エコー、腹部血管造影	大石篤郎	配布資料	講義
5/16	火	3	解剖実習１２： 腹部血管と胆道系の剖出 （CT課題）	上腸間膜動脈と枝・下腸間膜動脈と枝・腹腔動脈（脾・左胃・総肝動脈）と枝・門脈（上／下腸間膜静脈・脾静脈）・肝門三つ組・カロー三角・胆嚢動脈・総胆管	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/16	火	4	解剖実習１２： 腹部血管と胆道系の剖出 （CT課題）	上腸間膜動脈と枝・下腸間膜動脈と枝・腹腔動脈（脾・左胃・総肝動脈）と枝・門脈（上／下腸間膜静脈・脾静脈）・肝門三つ組・カロー三角・胆嚢動脈・総胆管	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習

2023年度　2年　講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
5/16	火	5	解剖実習１２： 腹部血管と胆道系の剖出 （CT課題）	上腸間膜動脈と枝・下腸間膜動脈と枝・腹腔動脈（脾・左胃・総肝動脈）と枝・門脈（上／下腸間膜静脈・脾静脈）・肝門三つ組・カロー三角・胆嚢動脈・総胆管	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/18	木	2	実習講義１０	心臓（心エコー・ECG・冠動脈造影と冠動脈バイパス術	松村譲兒	配布資料	講義
5/18	木	3	解剖実習１３： 腹部臓器の摘出と観察　（CT課題）	肝・胆・膵・脾臓・胃～十二指腸・空腸～S状結腸・腹大動脈の枝・腎動脈・上／中／下副腎動脈・下大静脈・腎臓～尿管・副腎	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/18	木	4	解剖実習１３： 腹部臓器の摘出と観察　（CT課題）	肝・胆・膵・脾臓・胃～十二指腸・空腸～S状結腸・腹大動脈の枝・腎動脈・上／中／下副腎動脈・下大静脈・腎臓～尿管・副腎	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/18	木	5	解剖実習１３： 腹部臓器の摘出と観察　（CT課題）	肝・胆・膵・脾臓・胃～十二指腸・空腸～S状結腸・腹大動脈の枝・腎動脈・上／中／下副腎動脈・下大静脈・腎臓～尿管・副腎	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/22	月	2	実習講義１１	後縦隔・横隔膜・後腹壁の解剖・自律神経系	上野仁之	配布資料	講義
5/22	月	3	解剖実習１４： 胸腹部臓器の解剖（CT課題）	心臓内腔の構造・肺動静脈・気管～気管支・気管支分枝・肺区域・消化管（胃～S状結腸）・肝臓・門脈分枝・肝区域・クイノーの肝区域・肝静脈・胆嚢～胆管・膵臓・膵管・十二指腸乳頭・脾臓・腎臓	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/22	月	4	解剖実習１４： 胸腹部臓器の解剖（CT課題）	心臓内腔の構造・肺動静脈・気管～気管支・気管支分枝・肺区域・消化管（胃～S状結腸）・肝臓・門脈分枝・肝区域・クイノーの肝区域・肝静脈・胆嚢～胆管・膵臓・膵管・十二指腸乳頭・脾臓・腎臓	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/22	月	5	解剖実習１４： 胸腹部臓器の解剖（CT課題）	心臓内腔の構造・肺動静脈・気管～気管支・気管支分枝・肺区域・消化管（胃～S状結腸）・肝臓・門脈分枝・肝区域・クイノーの肝区域・肝静脈・胆嚢～胆管・膵臓・膵管・十二指腸乳頭・脾臓・腎臓	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/23	火	2	解剖実習１５： 縦隔・横隔膜・後腹壁・腰神経叢の解剖	大動脈弓・胸大動脈とその枝・食道・迷走神経・胸管・奇静脈系・交感神経幹・大内臓神経・固有胸筋・横隔膜・後腹壁の筋・腰神経叢	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/23	火	3	解剖実習１５： 縦隔・横隔膜・後腹壁・腰神経叢の解剖	大動脈弓・胸大動脈とその枝・食道・迷走神経・胸管・奇静脈系・交感神経幹・大内臓神経・固有胸筋・横隔膜・後腹壁の筋・腰神経叢	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/23	火	4	解剖実習１５： 縦隔・横隔膜・後腹壁・腰神経叢の解剖	大動脈弓・胸大動脈とその枝・食道・迷走神経・胸管・奇静脈系・交感神経幹・大内臓神経・固有胸筋・横隔膜・後腹壁の筋・腰神経叢	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/23	火	5	特別講義	消化器外科特別講義	阿部展次	配布資料	講義
5/25	木	2	実習講義１２	骨盤臓器と骨盤壁・会陰・骨盤底	松村譲兒	配布資料	講義
5/25	木	3	解剖実習１６： 会陰の解剖：骨盤隔膜と尿生殖隔膜 頚部深層の解剖	上半身と下半身の切断・下肢の切断・坐骨直腸窩・内陰部動静脈・陰部神経・陰部神経管・会陰・尿生殖隔膜・骨盤隔膜 総頚／外頚／内頚動脈・内頚静脈・頚動脈洞・頚動脈小体・舌骨上筋・頚部迷走神経と枝・反回神経・頚部交感神経幹・甲状腺・副甲状腺・気管	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/25	木	4	解剖実習１６： 会陰の解剖：骨盤隔膜と尿生殖隔膜 頚部深層の解剖	上半身と下半身の切断・下肢の切断・坐骨直腸窩・内陰部動静脈・陰部神経・陰部神経管・会陰・尿生殖隔膜・骨盤隔膜 総頚／外頚／内頚動脈・内頚静脈・頚動脈洞・頚動脈小体・舌骨上筋・頚部迷走神経と枝・反回神経・頚部交感神経幹・甲状腺・副甲状腺・気管	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/25	木	5	解剖実習１６： 会陰の解剖：骨盤隔膜と尿生殖隔膜 頚部深層の解剖	上半身と下半身の切断・下肢の切断・坐骨直腸窩・内陰部動静脈・陰部神経・陰部神経管・会陰・尿生殖隔膜・骨盤隔膜 総頚／外頚／内頚動脈・内頚静脈・頚動脈洞・頚動脈小体・舌骨上筋・頚部迷走神経と枝・反回神経・頚部交感神経幹・甲状腺・副甲状腺・気管	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/29	月	2	解剖実習１７： 骨盤臓器・骨盤壁の解剖	直腸・肛門管・膀胱・前立腺・尿道・男性生殖器・女性生殖器・内腸骨動脈の壁側枝／臓側枝・仙骨神経叢・骨盤内臓神経・仙骨内臓神経・骨盤底筋・骨盤周囲の筋・大小坐骨孔	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/29	月	3	解剖実習１７： 骨盤臓器・骨盤壁の解剖	直腸・肛門管・膀胱・前立腺・尿道・男性生殖器・女性生殖器・内腸骨動脈の壁側枝／臓側枝・仙骨神経叢・骨盤内臓神経・仙骨内臓神経・骨盤底筋・骨盤周囲の筋・大小坐骨孔	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/29	月	4	解剖実習１７： 骨盤臓器・骨盤壁の解剖	直腸・肛門管・膀胱・前立腺・尿道・男性生殖器・女性生殖器・内腸骨動脈の壁側枝／臓側枝・仙骨神経叢・骨盤内臓神経・仙骨内臓神経・骨盤底筋・骨盤周囲の筋・大小坐骨孔	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/29	月	5	特別講義	救急医学特別講義	持田勇希	配布資料	講義
5/30	火	2	特別講義	泌尿器科特別講義	舛田一樹	配布資料	講義
5/30	火	3	解剖実習１８： 頭頚部離断と咽頭の解剖 喉頭摘出、頭頚部正中断	環椎後頭関節・頚部交感神経幹・脳神経（IX・X・XI）・外頚動脈の枝・内頚動脈・上／中／下咽頭・咽頭の筋と神経・喉頭・喉頭軟骨・喉頭筋・上喉頭神経・下喉頭神経・扁桃・喉頭摘出・頭頚部正中断	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/30	火	4	解剖実習１８： 頭頚部離断と咽頭の解剖 喉頭摘出、頭頚部正中断	環椎後頭関節・頚部交感神経幹・脳神経（IX・X・XI）・外頚動脈の枝・内頚動脈・上／中／下咽頭・咽頭の筋と神経・喉頭・喉頭軟骨・喉頭筋・上喉頭神経・下喉頭神経・扁桃・喉頭摘出・頭頚部正中断	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/30	火	5	解剖実習１８： 頭頚部離断と咽頭の解剖 喉頭摘出、頭頚部正中断	環椎後頭関節・頚部交感神経幹・脳神経（IX・X・XI）・外頚動脈の枝・内頚動脈・上／中／下咽頭・咽頭の筋と神経・喉頭・喉頭軟骨・喉頭筋・上喉頭神経・下喉頭神経・扁桃・喉頭摘出・頭頚部正中断	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/1	木	2	特別講義	眼科学特別講義	平形明人	配布資料	講義
6/1	木	3	解剖実習１９： 眼窩の解剖	眼瞼・眼窩・涙腺・外眼筋・脳神経（II・III・IV・V1・VI）・眼動脈・網膜中心動脈・眼球の内部構造	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/1	木	4	解剖実習１９： 眼窩の解剖	眼瞼・眼窩・涙腺・外眼筋・脳神経（II・III・IV・V1・VI）・眼動脈・網膜中心動脈・眼球の内部構造	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/1	木	5	解剖実習１９： 眼窩の解剖	眼瞼・眼窩・涙腺・外眼筋・脳神経（II・III・IV・V1・VI）・眼動脈・網膜中心動脈・眼球の内部構造	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習

2023年度　2年　講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
6/5	月	2	実習講義１３	頭頚部（顔面・口腔・咽頭・喉頭・鼻腔・副鼻腔・側頭下窩）	長瀬美樹	配布資料	講義
6/5	月	3	解剖実習２０: 顔面・口腔・鼻腔・副鼻腔の解剖	顔面筋（眼輪筋・口輪筋）・咀嚼筋（咬筋・側頭筋）・ 三叉神経顔面皮枝・耳下腺・顔面神経５枝 ・口腔・硬口蓋・軟口蓋・口蓋帆挙筋／口蓋帆張筋・舌（神経支配）・大唾液腺（耳下腺・顎下腺・舌下腺）・上／中／下鼻甲介・鼻道・副鼻腔と開口部・口蓋管・翼口蓋窩・キーゼルバッハ部位	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/5	月	4	解剖実習２０: 顔面・口腔・鼻腔・副鼻腔の解剖	顔面筋（眼輪筋・口輪筋）・咀嚼筋（咬筋・側頭筋）・ 三叉神経顔面皮枝・耳下腺・顔面神経５枝 ・口腔・硬口蓋・軟口蓋・口蓋帆挙筋／口蓋帆張筋・舌（神経支配）・大唾液腺（耳下腺・顎下腺・舌下腺）・上／中／下鼻甲介・鼻道・副鼻腔と開口部・口蓋管・翼口蓋窩・キーゼルバッハ部位	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/5	月	5	解剖実習２０: 顔面・口腔・鼻腔・副鼻腔の解剖	顔面筋（眼輪筋・口輪筋）・咀嚼筋（咬筋・側頭筋）・ 三叉神経顔面皮枝・耳下腺・顔面神経５枝 ・口腔・硬口蓋・軟口蓋・口蓋帆挙筋／口蓋帆張筋・舌（神経支配）・大唾液腺（耳下腺・顎下腺・舌下腺）・上／中／下鼻甲介・鼻道・副鼻腔と開口部・口蓋管・翼口蓋窩・キーゼルバッハ部位	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/6	火	2	解剖実習２１： 側頭窩・側頭下窩の解剖	側頭窩・側頭下窩・顎関節・咀嚼筋・顎動脈の枝・下顎神経の枝（舌神経など）・舌に分布する神経	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/6	火	3	解剖実習２１： 側頭窩・側頭下窩の解剖	側頭窩・側頭下窩・顎関節・咀嚼筋・顎動脈の枝・下顎神経の枝（舌神経など）	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/6	火	4	解剖実習２１： 側頭窩・側頭下窩の解剖	側頭窩・側頭下窩・顎関節・咀嚼筋・顎動脈の枝・下顎神経の枝（舌神経など）	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/6	火	5	特別講義	脳神経外科特別講義	中冨浩文	配布資料	講義
6/8	木	1	特別実習：気管挿管実習 解剖実習２２： 摘出喉頭の解剖	気管挿管ハンズオン・セミナー（代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える） 解剖実習：摘出した喉頭の観察（喉頭蓋軟骨・甲状軟骨・輪状軟骨・披裂軟骨・喉頭筋・声帯・仮声帯・声門）⇒半切してさらに観察	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習(AL)
6/8	木	2	特別実習：気管挿管実習 解剖実習２２： 摘出喉頭の解剖	気管挿管ハンズオン・セミナー（代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える） 解剖実習：摘出した喉頭の観察（喉頭蓋軟骨・甲状軟骨・輪状軟骨・披裂軟骨・喉頭筋・声帯・仮声帯・声門）⇒半切してさらに観察	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習(AL)
6/8	木	3	特別実習：気管挿管実習 解剖実習２２： 摘出喉頭の解剖	気管挿管ハンズオン・セミナー（代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える） 解剖実習：摘出した喉頭の観察（喉頭蓋軟骨・甲状軟骨・輪状軟骨・披裂軟骨・喉頭筋・声帯・仮声帯・声門）⇒半切してさらに観察	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習(AL)
6/8	木	4	特別実習：気管挿管実習 解剖実習２２： 摘出喉頭の解剖	気管挿管ハンズオン・セミナー（代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える） 解剖実習：摘出した喉頭の観察（喉頭蓋軟骨・甲状軟骨・輪状軟骨・披裂軟骨・喉頭筋・声帯・仮声帯・声門）⇒半切してさらに観察	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習(AL)
6/8	木	5	特別実習：気管挿管実習 解剖実習２２： 摘出喉頭の解剖	気管挿管ハンズオン・セミナー（代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える） 解剖実習：摘出した喉頭の観察（喉頭蓋軟骨・甲状軟骨・輪状軟骨・披裂軟骨・喉頭筋・声帯・仮声帯・声門）⇒半切してさらに観察	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習(AL)
6/12	月	2	特別講義	耳鼻咽喉科特別講義	増田正次	配布資料	講義
6/12	月	3	解剖実習23： 耳と側頭骨の解剖・関節	側頭骨錐体・外耳・鼓膜・中耳・鼓室・耳管・耳小骨・乳突蜂巣・内耳・蝸牛・三半規管・脳神経（Ⅶ・Ⅷ）・顔面神経管・膝神経節・肩関節・肘関節・股関節・膝関節	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/12	月	4	解剖実習23： 耳と側頭骨の解剖・関節	側頭骨錐体・外耳・鼓膜・中耳・鼓室・耳管・耳小骨・乳突蜂巣・内耳・蝸牛・三半規管・脳神経（Ⅶ・Ⅷ）・顔面神経管・膝神経節・肩関節・肘関節・股関節・膝関節	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/12	月	5	解剖実習23： 耳と側頭骨の解剖・関節	側頭骨錐体・外耳・鼓膜・中耳・鼓室・耳管・耳小骨・乳突蜂巣・内耳・蝸牛・三半規管・脳神経（Ⅶ・Ⅷ）・顔面神経管・膝神経節・肩関節・肘関節・股関節・膝関節	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/13	火	2	解剖実習24： CT課題発表会 総復習	ご遺体のCT課題（CT画像から異常所見を見つけ、対応する部位の肉眼所見をスケッチして対比させる）（グループワーク）を発表する	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		実習(AL)
6/13	火	3	解剖実習24： CT課題発表会 総復習	ご遺体のCT課題（CT画像から異常所見を見つけ、対応する部位の肉眼所見をスケッチして対比させる）（グループワーク）を発表する	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		実習(AL)
6/13	火	4	解剖実習24： CT課題発表会 総復習	ご遺体のCT課題（CT画像から異常所見を見つけ、対応する部位の肉眼所見をスケッチして対比させる）（グループワーク）を発表する	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		実習(AL)
6/13	火	5	解剖実習24： CT課題発表会 総復習	ご遺体のCT課題（CT画像から異常所見を見つけ、対応する部位の肉眼所見をスケッチして対比させる）（グループワーク）を発表する	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		実習(AL)
6/15	木	2	脳実習講義１	脳のオーバービュー・終脳と間脳の構造	長瀬美樹	配布資料	講義
6/15	木	3	脳実習講義２	大脳基底核・辺縁系	上野仁之	配布資料	講義
6/15	木	4	脳実習講義３	脳幹と脳神経、小脳	松村譲兒	配布資料	講義
6/15	木	5	脳実習講義４	脊髄・伝導路・線維束	大石篤郎	配布資料	講義
6/19	月	1	実習試験(深層) (於解剖実習室)	範囲：解剖実習9～24	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		試験
6/19	月	2	実習試験(深層) (於解剖実習室)	範囲：解剖実習9～24	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		試験

2023年度　2年　講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
6/19	月	5	納棺/実習室清掃		長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		実習
6/26	月	3	筆記試験（於301・302講義室）	範囲：実習講義６～１３、特別講義 脳実習講義1～4	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		試験
7/3	月	4	脳実習１： 脳の外観	脳区分・髄膜・クモ膜下槽・脳表面の血管・ウィリス動脈輪・脳葉・脳溝・脳回・機能局在・脳神経	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/3	月	5	脳実習１： 脳の外観	脳区分・髄膜・クモ膜下槽・脳表面の血管・ウィリス動脈輪・脳葉・脳溝・脳回・機能局在・脳神経	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/4	火	4	脳実習２： 大脳正中断面の観察	大脳内側面・辺縁系・間脳・脳室・脳動脈	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/4	火	5	脳実習２： 大脳正中断面の観察	大脳内側面・辺縁系・間脳・脳室・脳動脈	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/5	水	4	脳実習３： 前額断面と水平断面の観察	終脳・間脳・大脳基底核・海馬・視床・脳室・脈絡叢・MRI	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/5	水	5	脳実習３： 前額断面と水平断面の観察	終脳・間脳・大脳基底核・海馬・視床・脳室・脈絡叢・MRI	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/10	月	4	脳実習４： 脳幹・小脳・線維束の観察	中脳・橋・延髄・第四脳室底・小脳区分・連合／交連／投射線維	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/10	月	5	脳実習４： 脳幹・小脳・線維束の観察	中脳・橋・延髄・第四脳室底・小脳区分・連合／交連／投射線維	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/12	水	4	実習試験(脳) (於解剖実習室)	範囲：脳実習１～４	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		試験
7/12	水	5	実習試験(脳) (於解剖実習室)	範囲：脳実習１～４	長瀬美樹、松村譲兒、 上野仁之、大石篤郎		試験

年度	2023年度	学年	2年
学科目	組織解剖学	科目ナンバリング	FME-2C03
単位	5単位	コマ数	84コマ
科目責任者	秋元義弘　教授（顕微解剖学教室）		
担当教員	教　授　　秋元義弘（顕微解剖学教室） 名誉教授　　西山文朗（顕微解剖学教室） 客員教授　　川上速人（顕微解剖学教室） 准教授　　宮東昭彦（顕微解剖学教室） 准教授(兼担) 瀧上　周（保健学部） 助　教　　菅原大介（顕微解剖学教室）		

A．教育の基本方針	人体の構造と形態に関する知見の集積は膨大である。そのなかでも特に基礎的で且つ重要な項目を、他の基礎教科や臨床医学との関連性に留意しつつ、講義・実習を通じて反復学習し、確実に理解、把握することを主眼とする。同時に医学のもつ自然科学としての側面をも強く認識しながら、形態学的な思考方法・解析方法の涵養に務める。
B．到達目標	人体の構造を肉眼レベルから光学顕微鏡、電子顕微鏡レベルに至るまでシステムとして理解し、かつそれを実際の組織標本を観察しつつ識別し、所見をとることができる。組織学の専門用語を適切に使用して、医療人としてのコミュニケーションを確実に行うことができる。
C．修得すべき能力	1. 各種器官系から組織、細胞、細胞下レベルに至る基本的な知識を習得し、述べることができる。 2. 各種構造を顕微鏡下で識別し、所見をとることができる。 3. 人体の正常発生とその異常について必要な知識を習得し、述べることができる。 4. 解剖学、組織学及び発生学用語を邦語、英語いずれも確実に理解し、適切に使用することができる。

D．学習内容

1．系統講義：

	項目	概要	コマ	担当
総論	組織学	細胞学、組織学的研究法、4種の基本組織型（上皮、結合、筋、神経）の概説	10	秋元、宮東
各論	組織学	人体を構成する各臓器の構造とその成立とに関する顕微解剖学	22	全教員

2．特別講義：発生学特論（2コマ）
呼吸器学特論（2コマ）

3．アクティブラーニングの実施法
各回の講義では、受講後に確認テストを実施し、形成的評価を行う。H．成績評価の方法・基準を参照のこと。

E．実習・課外授業

1．基本方針
主として予め作製してある永久標本を光学顕微鏡下で、またはバーチャルスライドなどデジタル資料を用いて観察する。各種組織並びに各臓器に特徴的な形態と構造とを把握し、併せて組織学講義の内容を十分に理解する。

2．概要

項目	概要	コマ	担当
総論実習	上皮組織	4	全教員
	結合組織	5	
	筋組織	2	
	神経組織	2	
各論実習	消化器系	9	
	循環器系	4	
	呼吸器系	2	
	皮膚	3	
	感覚器系	3	
	内分泌系	1	
	女性生殖器系	3	
	男性生殖器系	2	
	泌尿器系	2	
	神経系	1	
	その他	1	
実習試験	中間（総論）	1	
	最終（実習全範囲）	3	

	３．実習講義またはガイダンス 実習ガイダンスを兼ねて、実習開始に先立ち、毎回1コマ程度の実習講義を行う。 **４．実習方法** 実習は、事前に配布された実習プリントに従って、個人単位で行う。実習方法の選択については事前に連絡する。 (1) 対面実習（実習室） ① 実習標本を一式貸与する。教員の指導に従い、標本の観察、スケッチを行う。スケッチは教員が査閲する。 ② 顕微鏡の使用、観察方法を体得するとともに、実習方法及び態度につき助言を受ける。 (2) オンライン実習 ① バーチャルスライド、資料をもとに標本の観察、スケッチを行う。 ② スケッチをオンラインで提出し、教員の指導を受ける。 (3) アクティブラーニングの実施法 ① 各自が標本で観察できた事項やできなかった事項、講義で得た知識をもとに行った考察等を所見として記述する。 ② 各回で課される発展的な課題に取り組み、講義・実習で得られた知識や概念を各自で整理する。 **５．実習の評価** 組織学実習総論及び各論終了時に実習試験を行う。また、実習（実習講義を含む）はすべて出席を原則とし、これは定期試験の受験資格として扱う。総論終了時の実習試験は、試験形式で理解度を確認する形成的評価のために行う。詳細は Ｈ．成績評価の基準・方法を参照のこと。 **６．課外授業**　なし
Ｆ．準備学習の内容	事前に講義予定表の「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、実習プリント等に十分目を通しておくこと。各1時間程度。
Ｇ．復習学習の内容	講義確認テストにより重要事項を理解するとともに、講義内容と実習で観察した構造の関連について整理すること。各1時間程度。 実習当日に十分観察できなかった標本があれば、実習試験までの時間を使い補充すること。
Ｈ．成績評価の方法・基準	**１．最終成績の算出法** 実習試験の成績（Ｘ）、筆記試験（学年末定期試験）の成績（Ｙ）、その他の評価（Ｚ）を総合的に評価する。最終成績の配点比率は、Ｘ：Ｙ：Ｚ＝４：５：１とし、6割以上の得点を合格とする。 ※ 学年末定期試験の再試験の取り扱い：筆記試験で所定の成績に満たなかったものが再試験を受験する。上記の最終成績が6割未満の場合の再試験は実施されないので注意すること。 ※ 状況により、評価の方法や配点比率が変更される場合は、事前に必ず告知する。 **２．実習試験と成績（Ｘ）の算定** (1) 評価の基準：到達目標に照らして、光顕及び電顕標本を直接観察し所見をとることができるか否かを点検する。 (2) 実施時期：実習終了時 (3) 合否判定と実習再試験：6割の得点を合格とし、不合格者は実習再試験を受験する。実習試験と実習再試験（上限を6割とする）でより高い点を実習試験の成績（上記Ｘ）とする。 (4) 試験内容のフィードバックは適宜行う。 ※ 実習途中で行われる実習試験（総論）の成績は、その他の評価（Ｚ）に含まれる。 **３．筆記試験と成績（Ｙ）の算定** (1) 評価の基準：到達目標に照らして、人体の構造とその成立に関して、主として顕微鏡レベルにおける基本的な理解と知識とを確認する。 (2) 実施時期：学年末定期試験として行う (3) 受験資格：① 講義の出席率3分の2以上、② 実習（実習講義を含む）は原則としてすべて出席することを受験できる条件とする。ただし、やむを得ない事情がある場合は考慮するので、必ず連絡すること。 (4) 合否判定と再試験：合否判定は出題分野ごとに行い、合格基準（6割）未満だった分野の再試験を受験する。再試験後の得点は上限６割として、合格した分野の得点と加算し、筆記試験の評価点（Ｙ）とする。 (5) 試験内容のフィードバックは適宜行う。 **４．その他の評価（Ｚ）** (1) 評価の基準：講義・実習時の能動的な学習姿勢（アクティブラーニング）と形成的評価（講義・実習の勉強方法、取り組み姿勢の確認）のために、以下の (2)～(5) の項目を評価の対象とする。最終成績には、その他の評価（上記Ｚ）として加算される。 (2) 講義確認テスト、実習小テスト等 講義、実習時に随時実施される。重要事項についての理解度の確認、復習学習の支援のために行われる。正答の公開と解説を行う。確認テストについては、点数ではなく、提出の有無が成績に参入される。 (3) 実習試験（総論） 実習（総論）終了時に、実習試験（最終）と同じ形式で実施される。実習の学習方法・参加態度の修正のため、及び実習試験の形式に慣れることを目的とする。 フィードバックのために、得点の開示、正答の公開と解説を行う。再試験は行わない。 (4) 実習スケッチノート 実習中随時、教員の指導を受ける。実習終了時に提出する。標本のスケッチに加え、所見の記載の有無、課題への取り組みの有無を評価する。 (5) 学習態度 実習中の長時間に及ぶ離席や実習に参加しない態度は、実習に出席していても減点の対象となる場合がある。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	［**組織学**］ • Mescher（坂井建雄，川上速人 監訳）：ジュンケイラ組織学，丸善出版，2018，第5版（原書第14版）．（注1）

	［**発生学**］ • Moore, Persaud（大谷 浩 監訳）：ムーア人体発生学，医歯薬出版，2022，原著第11版. 注1) 電子書籍あり（M2PLUS にて販売） ※ 電子書籍を選ぶ場合は、対応機種、機能などをよく確認すること
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	［**組織学**］ • (R) 駒﨑伸二：バーチャルスライド組織学，羊土社，2020. • (R) Gartner, Hiatt（川上速人，松村譲兒 監訳）：ガートナー／ハイアット組織学 アトラスとテキスト，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2014，第3版.（注2,3） • (A) Pawlina（内山安男，相磯貞和 監訳）：Ross組織学，南江堂，2019，原著第7版.（注3） • (A) 藤田尚男，藤田恒夫： 標準組織学 総論，医学書院，2022，第6版. 標準組織学 各論，医学書院，2022，第6版. ［**発生学**］ • (R) 塩田浩平：カラー図解 人体発生学講義ノート，金芳堂，2018，第2版.（注1,4） 注1) 電子書籍あり（M2PLUS にて販売） 注2) 電子書籍あり（医書.jp にて販売） 注3) 医学図書館で原書（英語版）を所蔵。適宜参照してほしい 注4) 医学図書館で電子書籍を所蔵。ダウンロード可 ※ 電子書籍を選ぶ場合は、対応機種、機能などをよく確認すること ※ (R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	［**組織学**］ • (R) 坂井建雄，河原克雅 編：カラー図解 人体の正常構造と機能（全10巻縮刷版），日本医事新報社，2021，改訂第4版.（注1） • (R) Young（後藤 薫，和栗 聡 監訳）：ウィーター 図説で学ぶ機能組織学，エルゼビア・ジャパン，2018，原著第6版.（注1,3） • (R) Eroschenko（相磯貞和 訳）：diFiore 人体組織図譜，南江堂，2011，原書第11版.（注3） • (R) 野上晴雄，藤原 研：Qシリーズ 新組織学，日本医事新報社, 2020，第7版.（注1,2） • (A) Kierszenbaum, Tres（内山安男 監訳）：組織細胞生物学，南江堂，2022，原書第5版. • (A) 寺島俊雄：カラー図解 神経解剖学講義ノート，金芳堂，2011.（注1,4） ［**発生学**］ • (R) Sadler（安田峯生，山田重人 訳）：ラングマン人体発生学，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2016，第11版.（注2,3） 注1) 電子書籍あり（M2PLUSにて販売） 注2) 電子書籍あり（医書.jpにて販売） 注3) 医学図書館で原書（英語版）を所蔵。適宜参照してほしい 注4) 医学図書館で電子書籍を所蔵。ダウンロード可 ※ 電子書籍を選ぶ場合は、対応機種、機能などをよく確認すること ※ (R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【組織解剖学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/4	月	2	講義 組織解剖学概論	細胞学（細胞膜、細胞小器官、細胞骨格、細胞核）、基底膜の構築、細胞間接着装置（タイト結合、接着帯、デスモソーム、ギャップ結合）、細胞の特殊装置（線毛、微絨毛、基底陥入）、組織学的研究法（染色法の基礎、免疫組織化学）	秋元義弘	1～78 561～562	講義
9/4	月	3	講義 上皮組織①	顕微鏡の原理と使い方（開口数と分解能、レンズの特性）、上皮組織（単層上皮）の分類（単層扁平上皮、単層立方上皮、単層円柱上皮、多列上皮）	秋元義弘	79～90	講義
9/4	月	4	実習 上皮組織①	顕微鏡の原理と使い方（開口数と分解能、レンズの特性）、上皮組織（単層上皮）の分類（単層扁平上皮、単層立方上皮、単層円柱上皮、多列上皮）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/4	月	5	実習 上皮組織①	顕微鏡の原理と使い方（開口数と分解能、レンズの特性）、上皮組織（単層上皮）の分類（単層扁平上皮、単層立方上皮、単層円柱上皮、多列上皮）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/5	火	3	講義 上皮組織②	上皮組織（重層上皮）の分類（重層扁平上皮、移行上皮など）、腺組織（単細胞腺と多細胞腺、腺房と導管の違い、漿液腺、粘液腺、漿液半月）	秋元義弘	90～104	講義
9/5	火	4	実習 上皮組織②	上皮組織（重層上皮）の分類（重層扁平上皮、移行上皮など）、腺組織（単細胞腺と多細胞腺、腺房と導管の違い、漿液腺、粘液腺、漿液半月）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/5	火	5	実習 上皮組織②	上皮組織（重層上皮）の分類（重層扁平上皮、移行上皮など）、腺組織（単細胞腺と多細胞腺、腺房と導管の違い、漿液腺、粘液腺、漿液半月）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/6	水	3	講義 結合組織①	結合組織の分類、固有結合組織、疎性結合組織、密性結合組織、弾性組織、細網組織、粘液組織、結合組織の細胞〔線維芽細胞、脂肪細胞、マクロファージ（大食細胞）、単核食細胞系、マスト細胞（肥満細胞）、形質細胞、白血球〕、線維〔コラーゲン線維（膠原線維）、細網線維、弾性線維〕、基質	秋元義弘	105～131	講義
9/6	水	4	実習 結合組織①	結合組織の分類、固有結合組織、疎性結合組織、密性結合組織、弾性組織、細網組織、粘液組織、結合組織の細胞〔線維芽細胞、脂肪細胞、マクロファージ（大食細胞）、単核食細胞系、マスト細胞（肥満細胞）、形質細胞、白血球〕、線維〔コラーゲン線維（膠原線維）、細網線維、弾性線維〕、基質	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/6	水	5	実習 結合組織①	結合組織の分類、固有結合組織、疎性結合組織、密性結合組織、弾性組織、細網組織、粘液組織、結合組織の細胞〔線維芽細胞、脂肪細胞、マクロファージ（大食細胞）、単核食細胞系、マスト細胞（肥満細胞）、形質細胞、白血球〕、線維〔コラーゲン線維（膠原線維）、細網線維、弾性線維〕、基質	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/7	木	3	講義 結合組織②	単房性脂肪組織、多房性脂肪組織、脂肪組織の発生、脂質の貯蔵と代謝、脂肪組織の組織形成、軟骨組織（硝子軟骨、線維軟骨、弾性軟骨）、軟骨基質、軟骨細胞、軟骨膜、軟骨組織の発生	秋元義弘	133～139 141～150	講義
9/7	木	4	実習 結合組織②	単房性脂肪組織、多房性脂肪組織、脂肪組織の発生、脂質の貯蔵と代謝、脂肪組織の組織形成、軟骨組織（硝子軟骨、線維軟骨、弾性軟骨）、軟骨基質、軟骨細胞、軟骨膜、軟骨組織の発生	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/7	木	5	実習 結合組織②	単房性脂肪組織、多房性脂肪組織、脂肪組織の発生、脂質の貯蔵と代謝、脂肪組織の組織形成、軟骨組織（硝子軟骨、線維軟骨、弾性軟骨）、軟骨基質、軟骨細胞、軟骨膜、軟骨組織の発生	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/11	月	3	講義 結合組織③	骨組織、骨の細胞（骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞）、骨基質、骨膜、骨内膜、膜内骨化、軟骨内骨化、骨の成長、改造、修復、骨の内部構造、血球〔赤血球、白血球（顆粒球（好中球、好酸球、好塩基球）、無顆粒球（リンパ球、単球））〕、血小板、巨核球	秋元義弘	151～174 257～273	講義
9/11	月	4	実習 結合組織③	骨組織、骨の細胞（骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞）、骨基質、骨膜、骨内膜、膜内骨化、軟骨内骨化、骨の成長、改造、修復、骨の内部構造、血球〔赤血球、白血球（顆粒球（好中球、好酸球、好塩基球）、無顆粒球（リンパ球、単球））〕、血小板、巨核球	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/12	火	2	講義 筋組織	筋組織の分類［横紋筋（骨格筋、心筋）と平滑筋］と筋線維（筋細胞）の特徴、筋原線維、筋フィラメント、サルコメア（A帯、I帯、Z線）、介在板、神経支配、筋紡錘、血管系の構造と分類（動脈、静脈、毛細血管）	宮東昭彦	209～231	講義
9/12	火	3	講義 筋組織	筋組織の分類［横紋筋（骨格筋、心筋）と平滑筋］と筋線維（筋細胞）の特徴、筋原線維、筋フィラメント、サルコメア（A帯、I帯、Z線）、介在板、神経支配、筋紡錘、血管系の構造と分類（動脈、静脈、毛細血管）	宮東昭彦	209～231	講義
9/12	火	4	実習 筋組織	筋組織の分類［横紋筋（骨格筋、心筋）と平滑筋］と筋線維（筋細胞）の特徴、筋原線維、筋フィラメント、サルコメア（A帯、I帯、Z線）、介在板、神経支配、筋紡錘、血管系の構造と分類（動脈、静脈、毛細血管）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/12	火	5	実習 筋組織	筋組織の分類［横紋筋（骨格筋、心筋）と平滑筋］と筋線維（筋細胞）の特徴、筋原線維、筋フィラメント、サルコメア（A帯、I帯、Z線）、介在板、神経支配、筋紡錘、血管系の構造と分類（動脈、静脈、毛細血管）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/13	水	3	講義 神経組織	神経系の発生、ニューロン（神経細胞体、樹状突起、軸索、シナプス）、グリア細胞の種類と機能、中枢神経系の組織構築（灰白質と白質、神経核、線維路）、末梢神経系の組織構築（神経線維束、神経節、神経叢）、神経の変性・再生、神経の可塑性	宮東昭彦	175～183	講義
9/13	水	4	実習 神経組織	神経系の発生、ニューロン（神経細胞体、樹状突起、軸索、シナプス）、グリア細胞の種類と機能、中枢神経系の組織構築（灰白質と白質、神経核、線維路）、末梢神経系の組織構築（神経線維束、神経節、神経叢）、神経の変性・再生、神経の可塑性	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/13	水	5	実習 神経組織	神経系の発生、ニューロン（神経細胞体、樹状突起、軸索、シナプス）、グリア細胞の種類と機能、中枢神経系の組織構築（灰白質と白質、神経核、線維路）、末梢神経系の組織構築（神経線維束、神経節、神経叢）、神経の変性・再生、神経の可塑性	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/14	木	3	講義 消化器系①	消化管の一般的構造、口腔（口唇の構築と上皮の特性、舌の構造的特徴と舌乳頭の分類）、咽頭、食道（筋層の部位差、食道腺）	秋元義弘	319～324 329～331	講義

2023年度　2年　講義予定表

【組織解剖学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/14	木	4	実習 消化器系①	消化管の一般的構造、口腔（口唇の構築と上皮の特性、舌の構造的特徴と舌乳頭の分類）、咽頭、食道（筋層の部位差、食道腺）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/14	木	5	実習 消化器系①	消化管の一般的構造、口腔（口唇の構築と上皮の特性、舌の構造的特徴と舌乳頭の分類）、咽頭、食道（筋層の部位差、食道腺）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/19	火	3	講義 消化器系②	胃〔噴門（上皮の移行、噴門腺）、胃体（表層粘液細胞、胃底腺、副細胞、主細胞、壁細胞、腸内分泌細胞）、幽門（幽門腺）〕、十二指腸（絨毛、十二指腸腺）	秋元義弘	331～344	講義
9/19	火	4	実習 消化器系②	胃〔噴門（上皮の移行、噴門腺）、胃体（表層粘液細胞、胃底腺、副細胞、主細胞、壁細胞、腸内分泌細胞）、幽門（幽門腺）〕、十二指腸（絨毛、十二指腸腺）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/19	火	5	実習 消化器系②	胃〔噴門（上皮の移行、噴門腺）、胃体（表層粘液細胞、胃底腺、副細胞、主細胞、壁細胞、腸内分泌細胞）、幽門（幽門腺）〕、十二指腸（絨毛、十二指腸腺）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/20	水	2	実習試験	自己の形成的評価に用いる実習試験（範囲：組織学総論、実習終了時の試験と同じ形式）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		実習(AL)
9/20	水	3	講義 消化器系③	空腸（腸腺、パネート細胞）、回腸（パイエル板、M細胞）、結腸（腸腺、杯細胞、結腸ヒモ）、虫垂（リンパ小節）、肛門（肛門周囲腺、肛門括約筋、粘膜・皮膚移行部）	秋元義弘	338～352	講義
9/20	水	4	実習 消化器系③	空腸（腸腺、パネート細胞）、回腸（パイエル板、M細胞）、結腸（腸腺、杯細胞、結腸ヒモ）、虫垂（リンパ小節）、肛門（肛門周囲腺、肛門括約筋、粘膜・皮膚移行部）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/20	水	5	実習 消化器系③	空腸（腸腺、パネート細胞）、回腸（パイエル板、M細胞）、結腸（腸腺、杯細胞、結腸ヒモ）、虫垂（リンパ小節）、肛門（肛門周囲腺、肛門括約筋、粘膜・皮膚移行部）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/21	木	3	講義 消化器系④	消化器付属腺：大唾液腺（耳下腺、顎下腺、舌下腺）の構造的特徴と見分け方（漿液腺、粘液腺、漿液半月、介在導管、線条導管、小葉間導管）、胆嚢（単層円柱上皮、筋層の収縮機序）、膵臓（外分泌部；腺房細胞、腺房中心細胞、導管系、内分泌部：Ａ細胞、Ｂ細胞、Ｄ細胞、ホルモン調節）	秋元義弘	353～361 370～373 458～460	講義
9/21	木	4	実習 消化器系④	消化器付属腺：大唾液腺（耳下腺、顎下腺、舌下腺）の構造的特徴と見分け方（漿液腺、粘液腺、漿液半月、介在導管、線条導管、小葉間導管）、胆嚢（単層円柱上皮、筋層の収縮機序）、膵臓（外分泌部；腺房細胞、腺房中心細胞、導管系、内分泌部：Ａ細胞、Ｂ細胞、Ｄ細胞、ホルモン調節）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/21	木	5	実習 消化器系④	消化器付属腺：大唾液腺（耳下腺、顎下腺、舌下腺）の構造的特徴と見分け方（漿液腺、粘液腺、漿液半月、介在導管、線条導管、小葉間導管）、胆嚢（単層円柱上皮、筋層の収縮機序）、膵臓（外分泌部；腺房細胞、腺房中心細胞、導管系、内分泌部：Ａ細胞、Ｂ細胞、Ｄ細胞、ホルモン調節）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/25	月	3	講義 消化器系⑤	消化器付属腺：肝臓（肝血流、肝小葉、グリソン鞘、肝腺房、門脈小葉、門脈三つ組、肝細胞、類洞とKupffer細胞、ディッセ腔、伊東細胞、毛細胆管、ヘリング管）	川上速人	361～370	講義
9/25	月	4	実習 消化器系⑤	消化器付属腺：肝臓（肝血流、肝小葉、グリソン鞘、肝腺房、門脈小葉、門脈三つ組、肝細胞、類洞とKupffer細胞、ディッセ腔、伊東細胞、毛細胆管、ヘリング管）	川上速人 秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/26	火	3	講義 循環器系①	心血管系：心室壁（心内膜、心筋層、心外膜、刺激伝導系）、動脈（弾性型、筋型）、静脈の構造的特徴および動脈との見分け方、毛細血管（連続型、有窓	川上速人	233～256	講義
9/26	火	4	実習 循環器系①	心血管系：心室壁（心内膜、心筋層、心外膜、刺激伝導系）、動脈（弾性型、筋型）、静脈の構造的特徴および動脈との見分け方、毛細血管（連続型、有窓型、類洞型）	川上速人 秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/26	火	5	実習 循環器系①	心血管系：心室壁（心内膜、心筋層、心外膜、刺激伝導系）、動脈（弾性型、筋型）、静脈の構造的特徴および動脈との見分け方、毛細血管（連続型、有窓型、類洞型）	川上速人 秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/27	水	2	講義 循環器系②	リンパ系器官：リンパ節（リンパ小節、被膜と小柱、リンパ洞、高内皮細静脈）、胸腺（上皮性細網細胞、胸腺細胞、ハッサル小体）、脾臓（被膜と脾柱、白脾髄と赤脾髄）、扁桃（リンパ小節、高内皮細静脈）、骨髄（骨髄球と造血、巨核球）	川上速人	289～318 275～288	講義
9/27	水	3	実習 循環器系②	リンパ系器官：リンパ節（リンパ小節、被膜と小柱、リンパ洞、高内皮細静脈）、胸腺（上皮性細網細胞、胸腺細胞、ハッサル小体）、脾臓（被膜と脾柱、白脾髄と赤脾髄）、扁桃（リンパ小節、高内皮細静脈）、骨髄（骨髄球と造血、巨核球）	川上速人 秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/27	水	4	実習 循環器系②	リンパ系器官：リンパ節（リンパ小節、被膜と小柱、リンパ洞、高内皮細静脈）、胸腺（上皮性細網細胞、胸腺細胞、ハッサル小体）、脾臓（被膜と脾柱、白脾髄と赤脾髄）、扁桃（リンパ小節、高内皮細静脈）、骨髄（骨髄球と造血、巨核球）	川上速人 秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/28	木	3	講義 皮膚①	皮膚（表皮、真皮、皮下組織）、厚い皮膚と薄い皮膚の表皮の層構造（基底層、有棘層、顆粒層、透明層、角質層）、表皮を構成する細胞〔ケラチノサイト、メラノサイト、樹状細胞（ランゲルハンス細胞）、触覚細胞（メルケル細胞）〕、皮膚の免疫能、真皮（乳頭層、網状層）、表皮と真皮の接着機構（基底膜、ヘミデスモゾーム）	秋元義弘	399～410	講義

2023年度　2年　講義予定表

【組織解剖学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/28	木	4	実習 皮膚①	皮膚（表皮、真皮、皮下組織）、厚い皮膚と薄い皮膚の表皮の層構造（基底層、有棘層、顆粒層、透明層、角質層）、表皮を構成する細胞〔ケラチノサイト、メラノサイト、樹状細胞（ランゲルハンス細胞）、触覚細胞（メルケル細胞）〕、皮膚の免疫能、真皮（乳頭層、網状層）、表皮と真皮の接着機構（基底膜、ヘミデスモゾーム）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/28	木	5	実習 皮膚①	皮膚（表皮、真皮、皮下組織）、厚い皮膚と薄い皮膚の表皮の層構造（基底層、有棘層、顆粒層、透明層、角質層）、表皮を構成する細胞〔ケラチノサイト、メラノサイト、樹状細胞（ランゲルハンス細胞）、触覚細胞（メルケル細胞）〕、皮膚の免疫能、真皮（乳頭層、網状層）、表皮と真皮の接着機構（基底膜、ヘミデスモゾーム）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/2	月	3	講義 皮膚②	皮膚における脈管と知覚受容器（触覚盤、自由神経終末、根毛神経叢、触覚小体（マイスナー小体）、層板小体（パチニ小体））、角質器〔毛（毛根、毛幹、毛包、毛球、毛乳頭、毛髄質、毛皮質、毛小皮、内根鞘、外根鞘、硝子膜、結合組織性毛包、立毛筋）、爪（爪根、爪板、上爪皮、下爪皮、爪床、爪母基）〕、付属腺〔汗腺（エクリン汗腺、アポクリン汗腺）、脂腺（毛包腺、独立脂腺）、乳腺〕	秋元義弘	411～422 518～522	講義
10/2	月	4	実習 皮膚②	皮膚における脈管と知覚受容器（触覚盤、自由神経終末、根毛神経叢、触覚小体（マイスナー小体）、層板小体（パチニ小体））、角質器〔毛（毛根、毛幹、毛包、毛球、毛乳頭、毛髄質、毛皮質、毛小皮、内根鞘、外根鞘、硝子膜、結合組織性毛包、立毛筋）、爪（爪根、爪板、上爪皮、下爪皮、爪床、爪母基）〕、付属腺〔汗腺（エクリン汗腺、アポクリン汗腺）、脂腺（毛包腺、独立脂腺）、乳腺〕	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/3	火	2	講義 呼吸器学持論	（特別講義）鼻腔（多列線毛上皮、嗅上皮、ボウマン腺）、喉頭（声帯ヒダ、室ヒダ、喉頭腺）、気管・気管支（気管腺、膜性壁、気管軟骨）、肺（細気管支、肺胞管、肺胞壁の構築、Ⅰ型肺胞上皮細胞、Ⅱ型肺胞上皮細胞、肺胞マクロファージ）	山下修二	375～397	講義
10/3	火	3	講義 呼吸器学持論	（特別講義）鼻腔（多列線毛上皮、嗅上皮、ボウマン腺）、喉頭（声帯ヒダ、室ヒダ、喉頭腺）、気管・気管支（気管腺、膜性壁、気管軟骨）、肺（細気管支、肺胞管、肺胞壁の構築、Ⅰ型肺胞上皮細胞、Ⅱ型肺胞上皮細胞、肺胞マクロファージ）	山下修二	375～397	講義
10/3	火	4	実習 呼吸器系	（特別講義）鼻腔（多列線毛上皮、嗅上皮、ボウマン腺）、喉頭（声帯ヒダ、室ヒダ、喉頭腺）、気管・気管支（気管腺、膜性壁、気管軟骨）、肺（細気管支、肺胞管、肺胞壁の構築、Ⅰ型肺胞上皮細胞、Ⅱ型肺胞上皮細胞、肺胞マクロファージ）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/3	火	5	実習 呼吸器系	（特別講義）鼻腔（多列線毛上皮、嗅上皮、ボウマン腺）、喉頭（声帯ヒダ、室ヒダ、喉頭腺）、気管・気管支（気管腺、膜性壁、気管軟骨）、肺（細気管支、肺胞管、肺胞壁の構築、Ⅰ型肺胞上皮細胞、Ⅱ型肺胞上皮細胞、肺胞マクロファージ）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/4	水	3	講義 女性生殖器系①	卵巣の構造（卵胞、黄体）、卵胞の成長（卵胞上皮の重層化、卵胞腔の形成、卵巣ホルモン分泌）と卵胞閉鎖、卵細胞の減数分裂，排卵、黄体形成とホルモン分泌、卵巣周期（卵胞期、黄体期、妊娠期）、卵管（膨大部、峡部）	宮東昭彦	493～507	講義
10/4	水	4	実習 女性生殖器系①	卵巣の構造（卵胞、黄体）、卵胞の成長（卵胞上皮の重層化、卵胞腔の形成、卵巣ホルモン分泌）と卵胞閉鎖、卵細胞の減数分裂，排卵、黄体形成とホルモン分泌、卵巣周期（卵胞期、黄体期、妊娠期）、卵管（膨大部、峡部）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/4	水	5	実習 女性生殖器系①	卵巣の構造（卵胞、黄体）、卵胞の成長（卵胞上皮の重層化、卵胞腔の形成、卵巣ホルモン分泌）と卵胞閉鎖、卵細胞の減数分裂，排卵、黄体形成とホルモン分泌、卵巣周期（卵胞期、黄体期、妊娠期）、卵管（膨大部、峡部）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/5	木	3	講義 女性生殖器系②	子宮の構造、子宮内膜（子宮腺、らせん動脈、基底層と機能層）とその周期的変化（増殖期と分泌期、月経期）、胎盤（絨毛膜と脱落膜、絨毛の構造と栄養膜、胎盤関門、妊娠中期と満期）、子宮頚部、腟	宮東昭彦	507～518	講義
10/5	木	4	実習 女性生殖器系②	子宮の構造、子宮内膜（子宮腺、らせん動脈、基底層と機能層）とその周期的変化（増殖期と分泌期、月経期）、胎盤（絨毛膜と脱落膜、絨毛の構造と栄養膜、胎盤関門、妊娠中期と満期）、子宮頚部、腟	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/10	火	2	講義 泌尿器系	腎臓（糸球体と傍糸球体装置、近位尿細管、ヘンレのループ、遠位尿細管、集合管、血管系の分布他）、尿管、膀胱の構造と機能、移行上皮の特性	西山文朗	423～442	講義
10/10	火	3	講義 泌尿器系	腎臓（糸球体と傍糸球体装置、近位尿細管、ヘンレのループ、遠位尿細管、集合管、血管系の分布他）、尿管、膀胱の構造と機能、移行上皮の特性	西山文朗	423～442	講義
10/10	火	4	実習 泌尿器系	腎臓（糸球体と傍糸球体装置、近位尿細管、ヘンレのループ、遠位尿細管、集合管、血管系の分布他）、尿管、膀胱の構造と機能、移行上皮の特性	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/10	火	5	実習 泌尿器系	腎臓（糸球体と傍糸球体装置、近位尿細管、ヘンレのループ、遠位尿細管、集合管、血管系の分布他）、尿管、膀胱の構造と機能、移行上皮の特性	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/11	水	2	講義 感覚器系①	視覚器：眼球壁の構造と機能（角膜、毛様体、虹彩、水晶体、網膜、脈絡膜、強膜など）、眼瞼の構造と機能（結膜、瞼板、睫毛），眼球の発生	瀧上周	525～545	講義
10/11	水	3	実習 感覚器系①	視覚器：眼球壁の構造と機能（角膜、毛様体、虹彩、水晶体、網膜、脈絡膜、強膜など）、眼瞼の構造と機能（結膜、瞼板、睫毛），眼球の発生	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/11	水	4	実習 感覚器系①	視覚器：眼球壁の構造と機能（角膜、毛様体、虹彩、水晶体、網膜、脈絡膜、強膜など）、眼瞼の構造と機能（結膜、瞼板、睫毛），眼球の発生	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/12	木	3	講義 感覚器系②	聴覚器、平衡覚器：外耳道、耳道腺、鼓膜、中耳、内耳（蝸牛、ラセン器、前庭と平衡斑、半規管と膨大部稜）の構造と機能	瀧上周	545～560	講義

2023年度　2年　講義予定表

【組織解剖学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/12	木	4	実習 感覚器系②	聴覚器、平衡覚器：外耳道、耳道腺、鼓膜、中耳、内耳（蝸牛、ラセン器、前庭と平衡斑、半規管と膨大部稜）の構造と機能	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/17	火	2	講義 男性生殖器系	精巣の構造と機能（精細管・間質、精子形成、減数分裂、精子完成、血液精巣関門、精巣網）、精巣下降，精巣上体（精巣輸出管、精巣上体管）、精索、付属腺（精嚢、前立腺）の構造と分泌物、陰茎（海綿体と陰茎勃起、尿道）	宮東昭彦	471～491	講義
10/17	火	3	講義 男性生殖器系	精巣の構造と機能（精細管・間質、精子形成、減数分裂、精子完成、血液精巣関門、精巣網）、精巣下降，精巣上体（精巣輸出管、精巣上体管）、精索、付属腺（精嚢、前立腺）の構造と分泌物、陰茎（海綿体と陰茎勃起、尿道）	宮東昭彦	471～491	講義
10/17	火	4	実習 男性生殖器系	精巣の構造と機能（精細管・間質、精子形成、減数分裂、精子完成、血液精巣関門、精巣網）、精巣下降，精巣上体（精巣輸出管、精巣上体管）、精索、付属腺（精嚢、前立腺）の構造と分泌物、陰茎（海綿体と陰茎勃起、尿道）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/17	火	5	実習 男性生殖器系	精巣の構造と機能（精細管・間質、精子形成、減数分裂、精子完成、血液精巣関門、精巣網）、精巣下降，精巣上体（精巣輸出管、精巣上体管）、精索、付属腺（精嚢、前立腺）の構造と分泌物、陰茎（海綿体と陰茎勃起、尿道）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/18	水	3	講義 内分泌系	ホルモン分子種（ペプチド、ステロイド、アミン）と分泌細胞の特徴、視床下部－下垂体系：下垂体の発生と腺・神経下垂体、副腎（皮質・髄質の組織構築）、甲状腺（甲状腺濾胞とホルモン分泌の特徴）	宮東昭彦	443～458 460～470	講義
10/18	水	4	講義 内分泌系	ホルモン分子種（ペプチド、ステロイド、アミン）と分泌細胞の特徴、視床下部－下垂体系：下垂体の発生と腺・神経下垂体、副腎（皮質・髄質の組織構築）、甲状腺（甲状腺濾胞とホルモン分泌の特徴）	宮東昭彦	443～458 460～470	講義
10/18	水	5	実習 内分泌系	ホルモン分子種（ペプチド、ステロイド、アミン）と分泌細胞の特徴、視床下部－下垂体系：下垂体の発生と腺・神経下垂体、副腎（皮質・髄質の組織構築）、甲状腺（甲状腺濾胞とホルモン分泌の特徴）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/19	木	3	講義 神経系	大脳新皮質（錐体細胞、層構造）、小脳皮質（プルキンエ細胞と組織構築）、脊髄（灰白質と白質）、神経節（脳脊髄神経節、自律神経節）、髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、脈絡叢、脳脊髄液	宮東昭彦	191～197 実習プリント	講義
10/19	木	4	講義 神経系	大脳新皮質（錐体細胞、層構造）、小脳皮質（プルキンエ細胞と組織構築）、脊髄（灰白質と白質）、神経節（脳脊髄神経節、自律神経節）、髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、脈絡叢、脳脊髄液	宮東昭彦	198～208 実習プリント	講義
10/19	木	5	実習 神経系	大脳新皮質（錐体細胞、層構造）、小脳皮質（プルキンエ細胞と組織構築）、脊髄（灰白質と白質）、神経節（脳脊髄神経節、自律神経節）、髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、脈絡叢、脳脊髄液	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/23	月	3	講義 電子顕微鏡	透過型（TEM）および走査型（SEM）電子顕微鏡の原理と特徴の解説、試料作製の説明と電顕写真の観察（TEM, SEM）	秋元義弘	7～9	講義
10/23	月	4	講義 消化器系⑥	歯牙組織：エナメル質（エナメル小柱）、象牙質（象牙芽細胞と象牙細管）、セメント質（セメント細胞）、歯髄、歯根膜、研磨標本と脱灰標本、歯の発生（エナメル器とエナメル芽細胞、歯胚、歯小嚢の形成と分化）	宮東昭彦	324～330	講義
10/24	火	4	実習試験	組織学試問	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		試験
10/24	火	5	実習試験	組織学試問	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		試験
10/30	月	3	講義 発生学特論	（特別講義）：胎児発生における遺伝子発現、染色体異常、各器官系に生じる先天異常、ＥＳ細胞・ｉＰＳ細胞と再生医療	金井正美	ムーア人体発生学	講義
10/30	月	4	講義 発生学特論	（特別講義）：胎児発生における遺伝子発現、染色体異常、各器官系に生じる先天異常、ＥＳ細胞・ｉＰＳ細胞と再生医療	金井正美	ムーア人体発生学	講義
11/2	木	4	実習	標本返却	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		実習
11/2	木	5	実習再試験	再試問	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		試験

年度	2023年度	学年	2年
学科目	統合生理学	科目ナンバリング	FME-2D04
単位	4単位	コマ数	62コマ
科目責任者	大木紫　教授（統合生理学教室）		
担当教員	教　授　　大木紫（統合生理学教室） 准教授　　八木淳一（統合生理学教室） 講　師　　渋谷賢（統合生理学教室）、鈴木伸弥（統合生理学教室） 非常勤講師　魚谷恭太郎（狭山神経内科病院）、中島剛（国士舘大学）、大塚裕之（昭和大学）		

A．教育の基本方針	生理学は生体が生命を維持するに必要な各機能単位のしくみおよび、それらの統合作用を解き明す学問である。統合生理学では、 ①神経と筋で代表される興奮性細胞・組織の機能、 ②中枢神経系（脳・脊髄）の機能、 ③各種感覚器の機能、 ④精神機能に関連した脳の高次機能 ⑤心臓・循環系 を解説し、実習を通して電気生理学的検査の手技・解析法を習得させることを目的としている。生物学、化学、物理学、解剖学、生化学で学んだ知識と統合し、人体の正常な機能を理解し、臨床科目の理解のための基礎知識を獲得してもらいたい。
B．到達目標	人体が正常に機能するためのメカニズムを人体の構造と結びつけて理解し、このメカニズムの異常がどのような病態を引き起こすかを理解することを目標とする。人体の各部の機能と同時に、全身の機能的結びつきとその異常について考えられるようにする。
C．修得すべき能力	１．人体を構成する要素（細胞、組織、器官）と要素間の統合作用について、正常な機能を説明できる。 ２．構成要素と統合作用が正常に機能するための、基本的なメカニズムを説明できる。 ３．これらのメカニズムの一部の異常がどのような原因によって引き起こされ、これによりどのような病態が見られるか説明できる。 ４．構成要素の機能状態を知るための、生理学的検査法を述べることができる。
D．学習内容	１．系統講義年間コマ数（前期21；後期20） 講義日程は表を参照のこと。なお、一回目の講義の時に統合生理学サブノートを資料として配布する。 ２．肉眼解剖学との合同講義（５回） 中枢神経系の機能を理解するため、解剖学と合同し、講義を行う。形態と機能を関連付けて学習する。 原則講義終了後に、その日の内容の小テストを行う。
E．実習・課外授業	１．実習 １―１．実習の基本方針 １）講義・教科書で得た知識を、自ら行う実験により裏づけ、観察・考察力を養う。 ２）神経系の正常機能を学ぶために、実習には動物実験の項目が含まれる。この内容については代替する手段がないため、動物の命を頂いているという意識をもって、真摯に取り組んでもらいたい。 ３）学生自身が験者・被験者になることにより、ヒト（患者）との応対への心がけを養う。 ４）実習中、得られたデータを基にディスカッションを行う。 ５）実習レポート（目的・方法・結果・考察・まとめ）の書き方の基本的形式を学ぶ。 １―２．その他、適宜講義の内容に沿った、デモンストレーションを行う。 １―３．実習書は配布する。 １―４．実習の項目

項目	概要
活動電位	カエル座骨神経で活動電位の伝導の法則・伝導速度・不応期・閾値等を理解する。
誘発筋電図	ヒトでＨ波とＭ波を記録し、脊髄反射弓及び中枢神経活動を理解する。
脳波	ヒトで脳波、及び視・聴・体性誘発電位及び事象関連電位を記録し、脳の機能局在・高次機能を理解する。
心電図	ヒトの心電図を記録し、その成因を理解する。
視覚	視野の計測と視覚の情報処理機序を理解する。

１―５．実習試験の施行の目的と方法
実習試験を、実習内容の理解を深めるために行う。試験の出題の内容は実習理解に必要な基礎的知識および実習内容に限る。
１―６．実習の進め方
実習は、15名程度を１グループとしそれぞれのグループに指導教員がわりあてられる。1グループを更に小グループに分け、実習を行う場合がある。
１―７．レポート提出
レポートは原則として当日中に学生が個々に提出する。提出されたレポートは“目的・方法・結果・考察”などの各項目の書き方について指導される。レポート未提出の場合は、実習試験を受験できない。

	２．課外教育 ２―１．統合生理学教室では、神経系の実験を行っている。参加希望者は事前に申請を行う必要がある。 ２―２．カンファレンス、あるいは抄読会への学生の参加の有無：特定のテーマに興味のある場合、学生の参加は自由である。
Ｆ．準備学習の内容	授業前に、各項目ごとに使用する図・表および授業目標について資料を配布するので、十分予習をしておくことが望ましい。特に英文での説明があるものについては、よく理解しておくこと。 項目によっては学生の発表をもとに討論を加える時間を設定するので、事前に各自が資料を作成しておくことを期待する。
Ｇ．復習学習の内容	授業後に、講義の内容を復習することが望ましい。理解できなかった点は、その都度担当教員に質問すること。
Ｈ．成績評価の方法・基準	１．試験の方針　系統講義の内容のうち、生理学的思考法、上級学年の講義の基礎となるもの、また将来臨床医となるために必要な基本的事項を出題する。一般的に使用される医学英語は理解しておくこと。 ２．小テストは講義内容の理解の確認のために行うことがある。特に生理学・臨床科目の理解に絶対必要な生理学用語（日・英）の定着に重点を置く。 ３．試験の実施方法と受験資格 前期期末試験　筆記（記述方式、多肢選択方式）：前期の講義を２／３以上出席した者 実習試験　　筆記（記述方式、多肢選択方式）：全項目の実習を行い、レポートを提出した者 後期期末試験　筆記（記述方式、多肢選択方式）：後期の講義を２／３以上出席した者（実習を除く） なお、正当な理由により出席日数が足りない場合は、個別に判断する。 ４．成績の評価法 前期試験：100点満点とし、これを担当者講義時間に応じて配分し採点する。 合計点が60点未満を不合格とする。 実習試験：レポート、解説をもとに試験を行う。試験は実習項目毎に行う。各項目100点満点とし60点未満を不合格とする。実習のレポートや態度は点数化し、最大5点の加点を行う（本試験のみ）。不合格者にたいしては再試（筆記・口答試問）を行う。前・後期期末試験とは別に、実習試験の合格は、統合生理学合格に必須の要件とする。実習は100％出席を原則とし、欠席した実習項目については再実習を行う。 後期試験：前期の評価方法に準ずる。 年度末再試験：前期試験、または後期試験が60点未満の者に対して再試験を行う。再試験に合格した者の成績は60点とする。前期・後期の試験結果から総合成績を求める。 成績判定：前期・後期の総合成績と実習試験結果が、ともに60点以上を、合格とする。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	オープン教育リソース動画 ・ Stanford Medicine 25 ・ Med School Made Easy
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 本間研一監修　標準生理学　医学書院 (R) 板東他監訳　バーン／レヴィ　カラー基本生理学　西村書店 (A) 泰羅・中村監訳　カールソン神経科学テキスト　脳と行動　丸善 (R) 御手洗総監訳　ガイトン生理学　エルゼビア・ジャパン (R) 岡田・菅屋監訳　コスタンゾ明解生理学　エルゼビア・ジ　　ャパン (A) 金澤他監修　カンデル神経科学　メディカル・サイエンス・インターナショナル ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【統合生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	月	1	生理学概論	生理学の成り立ちを概説する。神経活動の性質を説明する。活動電位の細胞外記録、閾値、全か無の法則、伝導速度の測定法、強さ時間曲線、絶対・相対不応期を理解する。講義終了後に小テストを実施する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
4/3	月	2	興奮性組織の特徴	興奮伝導の三原則を理解し、伝導ブロック等伝導異常の成因を考える。神経線維の分類の基準を理解する（末梢神経における感覚受容器との対応、伝導速度との関連性）。	大木紫	資料配布	講義(AL)
4/4	火	3	興奮性膜の電気現象（１）	ニューロンの情報処理（伝導・伝達）のメカニズムを学ぶ。第１回は「静止膜電位とは？」　膜電位の記録法、イオン組成、平衡電位、ネルンストの式、Goldmanの式を踏まえて、その成り立ちを理解する。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
4/6	木	4	興奮性膜の電気現象（２）	「イオンチャネルとは？」　電位依存型イオンチャネルの開閉のメカニズムとイオン電流について、初歩的な電磁気学を踏まえて学ぶ。キーワード：電位固定、コンダクタンス、駆動力、I-Vカーブ。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
4/7	金	3	興奮性膜の電気現象（３）	「活動電位とは？」　第１、２日で学んだ内容を総合して、活動電位の発生メカニズムを理解する。研究の歴史的背景（Hodgkin & HuxleyのNa+説）も紹介する。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
4/13	木	1	興奮性膜の電気現象（４）	「シナプス伝達とは？」　興奮性・抑制性シナプス伝達（EPSP、IPSP）とシナプスでの情報統合の仕組みを学ぶ。キーワード：グルタミン酸、GABA、受容体型イオンチャネル、加重、促通と閉塞。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
4/17	月	1	興奮性膜の電気現象（５）	「可塑性とは？」　シナプス伝達の効率は、状況に応じて変動する。この現象が、記憶・学習の基盤になると考えられている。シナプス伝達の可塑的変化の基礎を紹介する。キーワード：AMPA、NMDA、LTP。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
4/20	木	1	感覚総論	感覚の分類を説明し、各感覚に共通する性質や用語（順応、受容野、周辺抑制等）を解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
5/9	火	2	筋の生理学（１）	平滑筋と横紋筋の差異を概説した上で、骨格筋の収縮の特性を理解する。収縮蛋白質、筋節の構造と機能、滑走説を説明する。	鈴木伸弥	資料配布	講義(AL)
5/10	水	3	筋の生理学（２）	等張性および等尺性収縮の実験からわかる骨格筋の性質差異、加重、完全強縮と不完全強縮、れん縮、拘縮、興奮収縮連関の機序を理解する。神経筋支配の様式等も学習する。	鈴木伸弥	資料配布	講義(AL)
6/15	木	1	脊髄と脊髄神経	脊髄と脊柱管の概観と脊髄神経の支配領域（皮膚分節）を概説した上で、脊髄の横断面で内部の構造を説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
6/20	火	1	脊髄反射	脊髄内の神経回路として、感覚神経からの入力（筋、腱、皮膚）、反射回路（伸張反射、自原抑制、屈曲反射）、その他の脊髄内神経回路（相反性神経支配、レンショウ抑制、シナプス前抑制）を解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
6/20	火	2	聴覚（１）	音の物理的性質を説明し、音情報を電気信号に変換するための聴器の構造と性質（耳小骨伝導、コルチ器、有毛細胞、進行波説等）を解説する。	渋谷賢	資料配布	講義(AL)
6/20	火	3	聴覚（２）	聴覚系の神経伝達経路（末梢神経、皮質下の神経核と経路、一次聴覚野）と、そこでの情報処理を解説する。更に音源定位のメカニズムや、聴覚障害について説明する。	渋谷賢	資料配布	講義(AL)
6/26	月	4	運動・感覚伝導路	脊髄内の上行・下行路を列挙し、主要なもの（錐体路、後索―内側毛帯路等）については脳との連絡の経路や伝える情報について説明する。伝導路障害を例をあげて解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
6/27	火	3	大脳皮質体性感覚野	受容器、感覚神経、伝導路を解説する（一部は脊髄で紹介）。更に一次体性感覚野に関し、存在部位、情報処理の性質（体部位局在、特徴抽出等）、脳内結合、病態について説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
7/3	月	3	脳の構造と機能（１）	中枢神経系の系統発生・構成　脳の機能局在（一次運動野、一次感覚野、高次運動野、連合野の区分と機能）	大木紫	資料配布	講義(AL)
7/4	火	1	脳の構造と機能（２）	一次運動野と一次感覚野を結ぶ連合野が、どのように高次精神機能を維持し育んでいくか、ヒトの症例を対比させ説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
7/4	火	2	脳の構造と機能（３）	１２対の脳神経の機能を確認する。脳幹反射（対光反射、毛様脊髄反射、角膜反射など）の反射弓を理解する。統合生理学系統講義“姿勢、眼球運動、高次機能、脳幹”の項と関連し説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
7/5	水	3	脳の構造と機能（４）	大脳基底核について、その構造を概説し、基底核内の神経回路とその性質解説する。特にパーキンソン病とハンチントン病を取り上げ、病態における回路の変化やその結果生じる症状について説明する。	渋谷賢	資料配布	講義(AL)
7/10	月	3	脳の構造と機能（５）	小脳（G.Holmesの論文紹介：小脳症状）。神経回路網からみた小脳症状の説明（振戦、推尺異常、筋緊張低下等）。運動学習におけるシナプス伝達の長期抑圧LTDの機序等を概説。	鈴木伸弥	資料配布	講義(AL)
9/5	火	2	平衡感覚と姿勢制御	平衡感覚の受容器である、前庭器について解説する。特に半規管、耳石器の構造と受容器細胞、感覚刺激を電気信号に変換機序、前庭反射・頸反射の機能的意義について説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
9/11	月	2	眼球運動	眼球運動を行う、外眼筋と支配神経について説明する。更に急速眼球運動と追従眼球運動について、発現のための神経経路と病態における変化を解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
9/25	月	2	視覚（１）	視器の構造と性質を概説する。その上で、網膜内の受容器細胞と神経回路を説明、それぞれの光刺激に対する応答性を解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
9/26	火	2	視覚（２）	脳内の視覚伝導路を列挙する。特に膝状体系について、神経回路、それぞれの脳部位（網膜、外側膝状体、一次視覚野）での光応答性について解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
10/5	木	2	痛覚	「痛みの受容と符号化」　侵害受容ニューロンが、様々な痛み刺激を受容し、電気信号へ符号化し、さらにその情報を中枢神経系で処理する機構を学ぶ。キーワード：C線維、Aδ線維、神経障害性疼痛。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
10/19	木	1	自律神経（１）	「末梢自律神経系の構成と作用」　交感・副交感神経（遠心路）の解剖と調節機構の基本を学び、さらに個別の組織・臓器への作用を理解する。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
10/25	水	2	自律神経（２）	「薬理作用」　交感・副交感神経から放出する伝達物質が、受容体を介して及ぼす作用について学ぶ。キーワード：アドレナリン、ノルアドレナリン、α作用、β作用、アセチルコリン。	八木淳一	資料配布	講義(AL)

2023年度　2年　講義予定表

【統合生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
11/1	水	2	自律神経（3）	「自律神経系の中枢」自律神経系の反射性調節と上位中枢（視床下部）からの修飾作用の機序を学ぶ。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
11/2	木	3	脳の高次機能（1）	錐体路と随意運動。筋緊張に影響する神経機序：γ系の役割、痙縮と固縮発現機序の理解。錐体路系と錐体外路系の随意運動における関連性を理解する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
11/6	月	2	脳の高次機能（2）	学習と記憶。作業記憶・短期記憶から長期記憶へ。順行性健忘と逆行性健忘。Squireの記憶の分類（陳述記憶と手続き記憶）を理解する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
11/7	火	2	脳の高次機能（3）	情動。扁桃体とその他の脳・脊髄領域の、情動反応における関連性を理解する。パペツ回路、James-Lange説などを解説し、情動の異常について説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
11/8	水	4	意識と睡眠	意識と睡眠、脳波とその発生機序などについて解説する。実習の脳波の内容について、この時間で説明を行う。	大木紫	資料配布	講義(AL)
11/13	月	2	循環（1）	心臓と血液循環のメカニズムを、イオンチャネル・細胞・器官のレベルで理解し、合わせて心電図の基礎を学ぶ。第１回は、「循環回路と心臓の機能解剖学の基礎」。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
11/14	火	1	循環（2）	「洞房結節と心室筋の電気活動」　洞房結節の周期的な活動電位（ペースメーカー電位）と心室筋収縮のトリガーとなる心室筋細胞の活動電位の発生機序をイオンチャネルのレベルで理解する。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
11/14	火	4	実習概説	実習項目についての概説	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	資料配布	講義
11/15	水	4	統合生理学と臨床神経学	統合生理学で学んだ内容と、臨床神経学（神経内科学）との関連を考察する。実際の疾患を例に挙げ、病態と診断、治療過程について生理学の観点から解説する。	魚谷恭太郎		講義
11/17	金	3	循環（3）	「心臓興奮伝導のメカニズムと心電図」　心臓の自動性を、ペースメーカー電位、興奮伝導、心筋の収縮という一連の流れから理解する。それを基に、心電図の記録法と成り立ちを学ぶ。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
11/20	月	2	循環（4）	「自律神経系による心機能の調節」　自律神経系によるペースメーカーの変時作用と心筋収縮の変力作用を学ぶ。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
11/21	火	2		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/21	火	3		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/21	火	4		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/21	火	5		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/22	水	2		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/22	水	3		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/22	水	4		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/22	水	5		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/24	金	3	循環（5）	「異常心電図」　典型的な不整脈と異常心電図の発生原因を電気生理学的論理から考察する。さらに、抗不整脈薬の基礎を学ぶ。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
11/27	月	2		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/27	月	3		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/27	月	4		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/27	月	5		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/28	火	2		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/28	火	3		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/28	火	4		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/28	火	5		A班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/29	水	2		A班：視野	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習
11/29	水	3		A班：視野	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習
11/29	水	4		A班：視野	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習
11/29	水	5		A班：視野	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習
11/30	木	2		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/30	木	3		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/30	木	4		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
11/30	木	5		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/1	金	3	循環（6）	「ポンプとしての心臓と循環系」　心臓のポンプ機能を、心周期・圧―容積曲線から理解する。また、血圧の調節機構とリンパの流れ等を学ぶ。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
12/4	月	2		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/4	月	3		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/4	月	4		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/4	月	5		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/5	火	2		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)

2023年度　2年　講義予定表

【統合生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
12/5	火	3		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/5	火	4		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/5	火	5		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/6	水	2		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/6	水	3		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/6	水	4		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/6	水	5		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習(AL)
12/7	木	2		B班：視野	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習
12/7	木	3		B班：視野	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習
12/7	木	4		B班：視野	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習
12/7	木	5		B班：視野	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之	実習書配布	実習
12/8	金	3	実習試験	実習試験（筆記）	大木紫、八木淳一、渋谷賢、鈴木伸弥、中島剛、大塚裕之		試験

年度	2023年度	学年	2年
学科目	病態生理学	科目ナンバリング	FME-2D05
単位	4単位	コマ数	60コマ
科目責任者	寺尾安生　教授（病態生理学教室）		
担当教員	教　授　寺尾安生（病態生理学教室） 講　師　三嶋竜弥（病態生理学教室） 助　教　中山高宏（病態生理学教室）、寺田さとみ（病態生理学教室）、渥美剛史（病態生理学教室）、小藤剛史（放射性同位元素部門） 非常勤講師　藤原智徳（病態生理学教室）、本間元康（病態生理学教室）		

A．教育の基本方針	生理学は生体の調節と統合機能を究明する学問である。生体は体内における種々の調節機構によりその内部環境を一定に維持しており（恒常性）、多くの疾患はこのような調節機構に異常が生じるために起こる。本講座では主に人体の個体維持機能を理解するとともに、上のような調節機構がどのように障害されることで疾患の病態が生じるかを習得する。本講座の学習内容は脳・神経・筋・循環器系を扱う統合生理学と相補う関係にあり、主に体液、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌・代謝系の生理学に関する知識の習得と理解を深めることを目標とする。自然科学の一分野として、系統的、論理的な生理学的思考方法を涵養するとともに、疾患の病態生理の基礎的な理解を深めることで、3年次以降の臨床医学の学習につなげていくことを目指す。
B．到達目標	科目の学習終了時に、以下のような能力を習得していることを目標とする。 １．人体の正常の構造と機能を理解するとともに、個体の生命維持に関わる基本的な機能について生理学的に知識を習得し理解すること。 ２．これらの機能を独立したものとしてではなく、相互に関連した統合的機能として理解すること。さらに最新の臨床医学の知見もとりいれた疾患の病態生理に関する基礎的な理解を深めること。 ３．様々な情報源から得られた情報に基づき、科学的思考と研究的な態度によって問題解決を図る能力を身につけること。また自律的で、適切な自己評価に基づいて学び続ける態度を身につけること。 ４．上記により安全な医療を行う上で必要な、生理学の基礎知識、理解を身につけること。
C．修得すべき能力	1. 血液・体液系、消化器系、腎臓、内分泌・代謝系、呼吸器系における人体の構造と正常生理について、その概略を理解し、説明できること。 2. 正常生理に基づいて上記の器官系における主要な疾患の病態を説明でき、実際の診療に応用できる基礎的な理解ができるようにすること。 3. 実習を通じて個体の生命維持に関わる機能についての基本的な実験の手法について理解し、実地に応用することができること。
D．学習内容	系統講義

	項目	概要	期	担当
総論　一般生理学	生理学概論、生体膜と物質輸送	生体の基本単位である細胞膜の構造とそれを介した物質輸送、細胞内小器官について概説する。	前	寺尾
各論　体液と血液	体液の区分と組成、血漿、血液凝固、線溶系、血液型、体液の緩衝系	体液と血液の区分、血漿と各血球について解説する。血液凝固と線溶系の機序、体液のpHや浸透圧の調節と異常、エネルギー代謝についても説明する。	前	寺尾
呼吸生理	呼吸運動による肺の換気、肺胞のガス交換、血液ガスの運搬、呼吸中枢の働きと神経的調節、低酸素症、呼吸による酸塩基平衡の調節	呼吸により組織に酸素が供給され、二酸化炭素が排出される。血中の二酸化炭素分圧を変化させて酸塩基平衡を調節するという役割もある。呼吸を換気、ガス交換及び血液のガス運搬の面から説明し、その調節機構を説明する。	前	寺田
消化と吸収の生理学	各消化器官における栄養素の消化と吸収。消化器官の機能調節機構	各臓器における消化と吸収を述べる。更に各消化器官が神経、ホルモンによりどのように調節されているかを説明する。	前	三嶋
内分泌と生殖	ホルモンとは何か ホルモンの分泌とその調節、各ホルモンの作用、ホルモンによる生体機能の調節、ホルモンと生殖機能	総論ではホルモンの一般的性質について講義する。次に各ホルモンの作用、分泌細胞、化学構造、生理作用、分泌調節、過不足症について説明する。	後	寺尾
腎臓と尿生成	腎臓の構造と尿細管の機能、腎臓における濾過・再吸収・分泌機能の機序、腎臓における体液の調節、排尿機序	腎臓の機能、尿生成について濾過・再吸収・分泌機能の観点から説明する。また排尿の過程、内分泌器官としての腎臓について述べて、恒常性維持における腎臓の重要性を説明する。	後	三嶋

E．実習・課外授業	［Ｉ］実習 １．実習の基本方針

生理学は実験科学である。講義あるいは教科書等で学んだ知識を自らが行う実験により体得する。実験を通して観察力や洞察力を養い、レポートを書くことにより実験結果を理論的に解析することを学ぶ。また各人が被験者となることにより、他者（患者）との対応の仕方を経験する。実習は後期に実施する。

２．実習の項目

項目	概要	担当
血液（人）	血球観察と計算、ヘマトクリット、出血時間、凝固反応	寺田
消化管	腸管のアミノ酸吸収能	中山
腎機能（人）	腎臓におけるクリアランスの測定	三嶋
呼吸（人）	スパイログラム	小藤 渥美
実習ディスカッション	後述	
実習ガイダンス	後述	
実習試験	後述	

３．実習ガイダンス
実習開始前に学生の組み分けと実習の予定、心構え、内容および実習試験について説明する。
４．実習ディスカッション
実習の項目について、担当者から内容についての質疑応答を行い、理解を深める。
５．実験レポート
各項目毎にレポート提出を義務付けている。内容は実習データとそれに対する考察をまとめる。レポートを提出しない場合は実習試験の受験資格を失う。
６．実習試験とその評価
実習終了後に筆記試験を行う。試験内容は実際に実習で行った実験操作、技術と原理、実験データの解析、理解に関するものである。
７．実習及び実習試験は必修とする。

［II］課外授業
希望者には教室で行っているセミナー、抄読会への参加、または休暇期間中の実験を主体とした課外教育を行う。

F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書の関連事項について目を通しておくと共に、これまでに修得した学習内容との関連について知識を整理しておくことが必要である（各1時間程度）。疑問点についても必ず整理し、必要に応じて授業で質問できるようにしておく。
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントおよび教科書の関連ページを熟読して復習すること。各1時間。
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 生理学の知識と論理的理解の評価を目的として試験を行う。 ２．試験の実施方法と期日 （１）前期試験（筆記） （２）実習試験（筆記） （３）後期試験（筆記） ３．成績の評価 ①（１）－（３）試験及び再試験を各100点として、実習試験が60点未満、通年の成績で60点未満のいずれかであれば不合格とし、不合格となった者には再試験を行う（前期試験・実習試験については再試験を原則として行わないが、必要に応じて適宜、再試験を行うことがある）。再試験に合格した者については通年の成績を60点とする。 ② 出欠　特別の事情がない場合、出席が講義時間数の３分の２未満の者は２．（１）－（３）の各試験の受験資格を失う。前期試験の受験資格は前期の出席率で、後期試験の受験資格は後期の出席率で判定する。実習試験の受験資格は実習100％出席、実習レポートの提出が前提となる。出席率は前期、後期の講義・実習を別々に判定する。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	ギャノング生理学（William Ganong著　岡田泰伸訳　丸善　２０２２　原書２６版）文中の図、表を参考にして講義を行うことがあるので必ず講義に所持すること。
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R) オックスフォード生理学（G. Pocock著　植村慶一監訳　丸善 ２０１６ 第４版） (R) 標準生理学 (小澤　瀞司／福田　康一郎編.医学書院　２０１９　第９版） ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【病態生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/4	火	2	血液と体液①	生理学総論１．恒常性、細胞外液、細胞内液等の体液区分の細胞生理的意義、量・比率と測定法、各区分間での水分移動について説明する。	寺尾安生	３～５	講義
4/5	水	2	血液と体液②	生理学総論２．各体液区分の組成の差異、それに関わる各区分間での物質輸送の形式（拡散、濾過、浸透、担体輸送等）について概説する。	寺尾安生	６～９	講義
4/6	木	2	消化吸収①	糖質、蛋白質の特性について解説を行う。摂取後の消化について代表的な消化酵素をあげ、その吸収の機序について解説する。	三嶋竜弥	543、559～567	講義
4/12	水	2	消化吸収②	脂質の特性について解説を行い、消化器官での消化・吸収について説明する。また、電解質、ビタミン類の吸収についても解説する。	三嶋竜弥	543、567～578	講義
4/19	水	2	血液と体液③	血漿の成分、アルブミンやグロブリン等の血漿タンパク質の分類、生理学的意義、量比、金属イオンや脂質輸送蛋白質について説明する。	寺尾安生	６５２～６５４	講義
4/26	水	2	血液と体液④	赤血球の諸性状、異常脆弱性、成人及び胎児ヘモグロビンの機能の差異、酸素解離曲線、貧血、ヘモグロビンの異常症、ABO及びRh型血液型について説明する。	寺尾安生	６５７～６６７	講義
5/2	火	2	消化吸収③	消化器官の機能１：消化器官の機能の概略について説明する。口腔、食道、胃の解剖学的特徴および消化器官としての機能を解説する。	三嶋竜弥	535～542、579～590	講義
5/2	火	3	消化吸収④	消化器官の機能２：胃の機能制御機構について解説する。膵液成分および、その分泌制御について解説する。小腸の解剖学的特徴と機能を解説する。	三嶋竜弥	538～552	講義
5/9	火	4	消化吸収⑤	消化器官の機能３：肝機能の概略を説明し、胆汁成分やその分泌制御について解説する。小テストあるいは小レポートを行う。	三嶋竜弥	551～557、567～570、593～603	講義(AL)
5/17	水	2	血液と体液⑤	白血球の諸性状・分類、それらの基本的な機能について説明し、それに基づいて免疫系の概要について解説する。	寺尾安生	６５７～６５９	講義
5/18	木	1	呼吸①	呼吸器の構造：呼吸をするために必要な人体のしくみについて、それらの構造と呼吸における機能とを関連させて説明する。	寺田さとみ	722-728, 733-734	講義
5/24	水	2	血液と体液⑥	止血と血液凝固：止血の機序、血小板の機能と異常、血液凝固因子の作用、内因性・外因性血液凝固経路とカルシウムの役割、止血の異常、線溶系に係る因子群とその作用、血液凝固阻止剤等について説明する。	寺尾安生	６６８～６７３	講義
6/7	水	2	血液と体液⑦	体液pHの調節系（炭酸重炭酸系の緩衝作用とHenderson-Hasselbalchの式の意義、その他の体液系の緩衝系）について説明する。	寺尾安生	７５０－７５３	講義
6/12	月	1	呼吸②	呼吸のメカニクス：吸息・呼息に伴う肺容積や圧力の変化、肺気量、肺や胸壁のコンプライアンスについて説明する。	寺田さとみ	729-736	講義
6/14	水	2	呼吸③	肺内ガス交換：ガスの物理化学的な性質、肺胞と血液間のガス交換について説明する。	寺田さとみ	736-738	講義
6/21	水	2	呼吸④	血液ガスの運搬：ヘモグロビンの構造と機能、ヘモグロビンの酸素親和性に影響する因子、血液による二酸化炭素運搬について説明する。	寺田さとみ	745-753	講義
6/26	月	5	エネルギー代謝 内分泌①	エネルギー代謝、酸素消費と呼吸商、酸素当量を用いたエネルギー産生の測定法等について説明する。内分泌の総論についても一部講義を行う。	寺尾安生	１１，２６－３４	講義
6/27	火	2	呼吸⑤	換気と血流：肺循環、肺血流の調節、肺血流と換気の適合について説明する。	寺田さとみ	738-742	講義
6/28	水	2	呼吸⑥	呼吸の調節（1）：主に呼吸の自動的調節について、呼吸調節中枢・化学受容器・機械受容器などについて説明する。	寺田さとみ	763-773	講義
6/29	木	2	呼吸⑦	呼吸調節（2）運動・高所環境における呼吸の変化、睡眠時無呼吸やCheyne-Stokes呼吸などの異常呼吸について説明する。	寺田さとみ	773-777,755-757	講義
7/5	水	2	呼吸⑧	低酸素血症：低酸素血症を来す原因について考える。呼吸不全についても簡単に説明する。小テストあるいはグループワークを行う。	寺田さとみ	753-761	講義(AL)
7/6	木	2	腎機能①	ネフロンの構造と機能：腎臓の解剖学的特徴やネフロンの各部位の機能について解説し、尿生成機構の概論を行う。	三嶋竜弥	781～785	講義
7/10	月	2	内分泌②	甲状腺ホルモン：甲状腺ホルモンの合成とヨード代謝、甲状腺ホルモンの作用、分泌調節、分泌亢進症とクレチン病等の不足による疾患について説明する。	寺尾安生	４２３～４３９	講義
7/11	火	2	腎機能②	糸球体機能：糸球体で血漿を濾過し原尿を生成する機構およびそれに影響を与える要因について説明する。また、腎クリアランスの概念を説明する。	三嶋竜弥	785～790、815～819	講義
7/12	水	2	内分泌③	血糖調節（１）　インスリンの血糖・脂質代謝等への作用、分泌調節、インスリンの成長への作用とIGF、グルカゴンの作用・分泌調節等について説明する。	寺尾安生	５０７～５３２	講義
9/28	木	2	内分泌④	血糖調節（２）　正常の血糖調節のメカニズムに基づき、糖代謝と糖尿病の病態等について説明する。	寺尾安生	５０７～５３２	講義(AL)
10/11	水	5	内分泌⑤	副腎皮質：副腎皮質ホルモン(糖質コルチコイド・電解質コルチコイド）の合成過程とその調節、副腎皮質ホルモンの分泌亢進症、アジソン病等不足症の病態について説明する。	寺尾安生	３９３～４２２	講義
10/18	水	2	内分泌⑥	副腎皮質：副腎皮質ホルモン（副腎アンドロゲン）の合成過程と分泌調節、副腎過形成等の病態について、副腎髄質：カテコラミンの合成経路と作用、分解・分泌調節、交感神経受容体について説明する。	寺尾安生	３９３～４２２	講義
10/24	火	2	内分泌⑦	視床下部の諸機能：内分泌の上位ホルモンの産生、摂食行動の中枢と食欲調節ペプチド、飲水行動、体温調節、情動行動、生物時計など視床下部の機能について概説する。	寺尾安生	３５７～３７３	講義
11/2	木	2	腎機能③	腎臓での再吸収・分泌：ヘンレループでの水、Naの再吸収機構について解説するとともに、対向流増幅器としての機能を解説する。遠位尿細管での水、Naの再吸収機構について解説する。	三嶋竜弥	790～795	講義
11/8	水	2	腎機能④	尿生成の調節機能・排尿：集合管での水、Naの再吸収調節機構を解説する。尿細管内での原尿の浸透圧変化とその意味について説明する。	三嶋竜弥	796～801	講義
11/8	水	5	腎機能⑤	腎による体液の恒常性の制御：体液量、体液浸透圧の変化に対する腎の役割について解説する。	三嶋竜弥	801～803、809～824	講義
11/13	月	3	内分泌⑧	下垂体前葉：視床下部・下垂体門脈系による前葉ホルモンの分泌調節、各論として成長ホルモンの作用と分泌調節・過剰症、プロラクチンの作用と分泌調節について説明する。	寺尾安生	３７５～３９１	講義

2023年度　2年　講義予定表

【病態生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
11/13	月	4	腎機能⑥	腎による体液の恒常性の制御：体液pHの変化に対する腎の役割について解説する。小テストあるいは小レポートを行う。	三嶋竜弥	804～808、825～835	講義(AL)
11/13	月	5	実習ガイダンス		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		講義
11/14	火	2	内分泌⑨	下垂体後葉ホルモン：下垂体後葉ホルモンの産生と神経分泌の機序、バソプレッシン、オキシトシンの作用と関連する病態、神経内分泌反射等について説明する。	寺尾安生	３６１～３６４，８０９～８２４	講義
11/15	水	2	内分泌⑩	血中カルシウムイオン代謝とホルモンによる調節（骨とカルシウム代謝、PTHの作用と分泌調節、カルシトニンの作用、ビタミンDの作用とUV・PTH等による合成調節過程）およびこれらに関連する病態について説明する。	寺尾安生	４４１～４５８	講義
11/15	水	3	内分泌⑪	性腺機能（１）総論としての性染色体による性の決定、性分化の異常症、各論として精巣機能とテストステロンの作用、FSH・LHによる分泌調節について説明する。	寺尾安生	４５９～４６９、４９３～５０５	講義
11/20	月	5	内分泌⑫	性腺機能（２）卵巣機能と性周期：FSH・LHによる卵巣機能の調節と女性ホルモンの分泌、卵巣周期、子宮周期の調節について説明する。更に胎盤ホルモンの作用について概説する。	寺尾安生	４５９～４９１	講義(AL)
11/21	火	2		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/21	火	3		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/21	火	4		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/21	火	5		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/22	水	2		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/22	水	3		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/22	水	4		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/22	水	5		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/27	月	2		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/27	月	3		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/27	月	4		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/27	月	5		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/28	火	2		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/28	火	3		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/28	火	4		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/28	火	5		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/29	水	2		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/29	水	3		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/29	水	4		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/29	水	5		B班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/30	木	2		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/30	木	3		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/30	木	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/30	木	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/4	月	2		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習

2023年度　2年　講義予定表

【病態生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
12/4	月	3		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/4	月	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/4	月	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/5	火	2		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/5	火	3		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/5	火	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/5	火	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/6	水	2		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/6	水	3		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/6	水	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/6	水	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/7	木	2		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/7	木	3		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/7	木	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/7	木	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
12/8	金	1	実習試験		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		試験

年度	2023年度	学年	2年
学科目	基礎感染症学	科目ナンバリング	FME-2E04
単位	4単位	コマ数	61コマ
科目責任者	三戸部治郎　教授		
担当教員	教　　授　　三戸部治郎（感染症学教室）、大﨑敬子　（感染症学教室） 名誉教授　　神谷　茂　（感染症学教室） 客員教授　　宮﨑義継　（国立感染症研究所） 兼担准教授　藏田　訓　（保健学部） 講　　師　　須藤直樹　（感染症学教室） 学内講師　　北条　史　（実験動物施設） 非常勤講師　岡　健太郎（感染症学教室）、鈴木里和（国立感染症研究所）、渡士幸一（国立感染症研究所）		

A．教育の基本方針	基礎感染症学の講義ではヒトの疾病に関連する細菌、ウイルス、真菌およびプリオンについて基本的性状を学び、それぞれの病原体によって引き起こされる感染症の特徴を理解する。更に生体防御と各々の病原体が引き起こす感染症の発症機序を学ぶことで感染症の予防、診断および治療に必要な基礎知識を得る。 次年度以降の臨床科目では各科目に関連した疾患として感染症を学ぶ。その前段階として、本講義では病原体を種類別、また、感染症を系統毎に知識を得ることにより今後の学習の基盤とする。さらに、講義で学んだ内容を実習で体験することにより理解を深め、知識を会得する。
B．到達目標	病原体の基本性状について理解し、感染症の病態、治療、予防に必要な知識を得る。実習では、内容を十分に理解した上で正確に実験を実施し、得られた結果を的確に解析して正しく評価することが求められる。また、病原性のある細菌およびウイルスを用いて実験を行うことで、それらの基本性状に対する理解を深めることに加え、自他への感染を防御し、環境への拡散を防止するための手技を習得する。さらに、生体防御反応についての基本的解析手法を体得する。
C．修得すべき能力	1. 細菌、ウイルスおよび真菌の基本的な性状を理解して説明できる。 2. 細菌、ウイルスおよび真菌感染症の特徴を理解して病態、診断、治療および予防に関する概要を説明できる。 3. 各々の病原体の特徴と、それが引き起こす感染症の病態、診断、治療を概説できる。 4. 感染防止対策に則り、病原体を安全にかつ正しく取り扱うことができる。

D．学習内容

1．系統講義　年間コマ数（36）

	項　目	概　　要	期	コマ	担当
総論	細菌学	病原体の基礎的知識、細菌の分類、一般性状、構造、生理、滅菌と消毒、化学療法、細菌遺伝学、感染と発症、宿主寄生体関係、予防、疫学	前	8	三戸部、大﨑、須藤、岡、鈴木
	ウイルス学	ウイルス学の歴史、ウイルスの分類、一般性状、構造、増殖、ウイルス遺伝学、持続感染、予防、疫学	後	1	三戸部
各論	細菌学	グラム陽性菌、陰性菌、リケッチア、クラミジアの性状とその感染症、真菌、日和見感染、院内感染	後	14	三戸部、大﨑、須藤、藏田、鈴木、北条、宮﨑
	ウイルス学	ＤＮＡ型、ＲＮＡ型ウイルスの性状とその感染症、肝炎ウイルス、腫瘍ウイルス、ＡＩＤＳ、プリオン	後	11	三戸部、大﨑、須藤、神谷、渡士
特論			後	2	鈴木、渡士

E．実習・課外授業

1．実習

（1）実習の基本方針

「感染症学実習」では病原微生物を扱う関係上、環境汚染と感染防止を念頭に消毒・滅菌について講義で習得した知識を更に深く体得し、感染と防御の生体的メカニズムを理解することを目的とする。

（2）実習の項目　年間コマ数（25）

項　目	概　　要	担　当
細菌学	細菌検査材料の採取、保存、輸送 環境由来およびヒト常在菌の検出 消毒薬の効果 抗生物質感受性試験 感染症起因菌の検索 ―腸管感染症、尿路感染症、化膿性疾患	教室員全員
ウイルス学	ウイルスによる細胞変性効果の観察 ウイルス感染価の測定	〃

生体防御	抗原抗体反応―酵素抗体法 抗体検査 抗体産生細胞の検出	〃
アクティブラーニング	実習結果についての総合討論	〃

（3）実習講義またはガイダンス
微生物を用いた実習の特徴、実習室内での注意を説明した後、各項目について解説（映像併用）を毎回行う。

（4）レポートの提出の有無、内容
実習項目について指定期限内のレポートの提出を求める。レポート、実習態度、総合討論での発言は実習点として評価する。

（5）総合討論
実習期間内に実施した内容の発表と質疑応答を行う。

（6）実習点
レポート、実習態度、総合討論での発言は実習点として評価する。

2.課外教育
教室で行っているセミナーまたは夏期（冬期）などの課外教育希望者のある場合に行う。

F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書などの該当する項目に目を通しておくこと。
G．復習学習の内容	講義プリントや教科書の関連ページを熟読して復習すること。
H．成績評価の方法・基準	1．試験の方針 病原体の特性、感染症発症の機序および特徴を理解し、それらに関連した疾病についての知識を習得し、次年度以降の科目を学ぶに耐え得る学力を有すると判定されることにより合格とする。 2．試験の実施方法と期日 後期定期試験：筆記（記述方式、多肢選択方式） 後期試験（基礎感染症学）の点数と実習点の合計が6割未満の者に再試験を実施する。再試験の形式は多肢選択方式とする。 3．定期試験受験資格に関する出席の取り扱い 受験資格：本学部学修規定に準じ、前期、後期の講義をそれぞれ2/3以上出席した者に付与する。 4．本科目合格の基準と成績の評価法 （1）判定の基準 後期試験（基礎感染症学）の点数と実習点の合計が6割以上、または再試験が6割以上であることを基準に、上級学年での学修に適応できると判断された場合に合格とする。 （2）成績の評価法 定期試験および実習態度、総合討論およびレポートの内容を元に総合的に評価する。レポートは原則として全項目の実習を行った上で期限内に提出した者からのみ受け付ける。再試験受験者の最終成績は、学修規定第8条により決定される。

I．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	細菌学・ウイルス学用教科書：神谷茂，錫谷達夫編「標準微生物学」　医学書院　2021年　第14版
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 病気がみえる。Vol.6 免疫・膠原病・感染症　第2版　メディックメディア　2018年 (A) 荒川宜親、神谷茂、柳雄介編　「病原微生物学―基礎と臨床―」東京化学同人、2014年、第1版 (A) 神谷茂、河野茂監訳　「微生物学―基礎から臨床へのアプローチ―」メディカル・サイエンス・インターナショナル 2012年 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 免疫学用教科書：エッセンシャル免疫学 笹月健彦 監訳 （第3版）メディカル・サイエンス・インターナショナル 2016年 (A) 神谷茂、高橋秀実、林英生、俣野哲朗監訳　「ブラック微生物学」　丸善　2014年　第3版 (A) 笹月健彦/吉開泰信　「免疫生物学原書」、南江堂、2019年、第9版 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【基礎感染症学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/4	火	1	細菌学総論① （構造と機能）	感染症学の歴史、細菌、真菌、ウイルス、寄生虫についての基礎的な講義を行う。細菌の基本形態および微細構造物について学ぶ。細菌の分類や鑑別に重要なグラム染色の原理と方法について学ぶ。	三戸部治郎	資料配布、 p18-21、 p78-89	講義
6/20	火	5	細菌学総論② （構造と機能）	細菌の構造と機能について、鞭毛、線毛、芽胞について学ぶ。細菌の分裂と増殖に関わる条件、培地と増殖因子、増殖曲線、菌数測定の方法等について学ぶ。異化代謝（呼吸と発酵）と同化代謝についてを学ぶ。	北条史	資料配布、 p22-41、 p630-637	講義
6/22	木	2	細菌学総論③ （細菌遺伝学）	真核細胞との違いを中心とした細菌の核様体、ゲノム、遺伝子の構造とその特徴、ゲノム外遺伝子であるプラスミドとファージの種類と性状について学び遺伝子の水平伝達を理解する。	須藤直樹	資料配布、 p42-62	講義
6/23	金	1	細菌学総論④　（化学療法①）	化学療法および抗菌薬の歴史、選択毒性の概念に加え、薬剤の殺菌・静菌作用や相乗効果、拮抗作用について学ぶ。また、感染症治療に用いる薬剤を選択するための最小発育阻止濃度（MIC）測定の原理について学ぶ。細菌細胞壁の合成を阻害する抗菌薬として、β－ラクタム系抗菌薬（ペニシリン、セフェム、モノバクタム、カルバペネム）の作用と特徴について学ぶ。	大﨑敬子	資料配布、 p99-100、p102-106	講義
6/27	火	4	細菌学総論⑤　（化学療法②）	細菌細胞壁の合成を阻害する抗菌薬のうち、サイクロセリン、ホスホマイシン、バンコマイシン、バシトラシンの特徴について学ぶ。タンパク質合成阻害薬（アミノ配糖体系、マクロライド系、テトラサイクリン系、クロラムフェニコール、他）、核酸合成阻害薬（キノロン系、リファンピシン、合剤）およびメトロニダゾールの作用と特徴について学ぶ。	大﨑敬子	資料配布、 p106-112	講義
6/28	水	3	細菌学総論⑥　（化学療法③）	代謝阻害薬、細胞質膜障害薬及び抗結核薬、その他の抗菌薬の作用と特徴について学ぶ。抗菌化学療法のまとめ学習を行う。代表的な薬剤耐性菌と薬剤耐性機構について学ぶ。	鈴木里和	資料配布、 p112-114、p116-121	講義
7/3	月	1	細菌学総論⑦　（化学療法④）	抗菌化学療法のまとめ学習を行う。感染症の予防についての知識を習得し、滅菌と消毒の概念および実際の方法について学ぶ。	大﨑敬子	資料配布、ｐ114-116 ｐ599-602、p615-623	講義
7/4	火	3	細菌学総論⑧	正常細菌叢の生体への作用およびプロバイオティクスの医学への応用について学ぶ。	岡健太郎	資料配布、 p90－95	講義
9/4	月	1	細菌学各論① （グラム陽性球菌）	グラム陽性球菌であるブドウ球菌群、特に黄色ブドウ球菌の病原因子であるコアグラーゼ、腸管毒素、溶血毒など、またブドウ球菌が起因する感染症、さらには院内感染や耐性菌の出現について学ぶ。	須藤直樹	資料配布、 p126-136	講義
9/6	水	2	細菌学各論② （グラム陽性球菌）	レンサ球菌（化膿レンサ球菌、B群レンサ球菌、肺炎球菌など）の細菌学的特徴や病原性について、およびこれら細菌の感染症について学ぶ。	北条史	資料配布、 p136-145	講義
9/8	金	3	細菌学各論③（有芽胞菌・グラム陽性無芽胞桿菌）	有芽胞菌の特徴とバシラス属細菌およびクロストリジウム属細菌等について学ぶ。セレウス菌、破傷風菌、ボツリヌス菌及びディフィシル菌の病原性と感染症等について学ぶ。グラム陽性無芽胞桿菌であるリステリア属菌等について学ぶ。	大﨑敬子	資料配布、 p146-165	講義
9/15	金	1	細菌学各論④ （グラム陰性桿菌）	特定の病原因子を保有する大腸菌は腸管感染症の起因菌として知られている。本講義では、腸管出血性大腸菌をはじめとする病原性大腸菌群の細菌学的特徴と病原性について学ぶ。	三戸部治郎	資料配布、 p168-172	講義
9/15	金	3	細菌学各論⑤ （グラム陰性桿菌）	赤痢、ペスト、腸チフス、サルモネラ食中毒などの原因となる細菌の病原性について学ぶ。また日和見感染症の原因菌として、クレブシエラ、プロテウス、セラチアの細菌学的特徴について学ぶ。	三戸部治郎	資料配布、 p172-182	講義
9/28	木	1	細菌学各論⑥ （グラム陰性桿菌）	腸管及び腸管外感染症の原因となるビブリオ属細菌（コレラ菌、腸炎ビブリオ、ビブリオ・バルニフィカス）、エロモナス属細菌および、小児髄膜炎の起因菌となるインフルエンザ菌（Hib）の病原性について学ぶ。	三戸部治郎	資料配布、 p183-192	講義
10/5	木	1	細菌学各論⑦（グラム陰性好気性桿菌・グラム陰性無芽胞偏性嫌気性桿菌）	主なグラム陰性好気性桿菌（緑膿菌、百日咳菌、レジオネラなど）の特徴と感染症の診断、治療について学ぶ。加えてグラム陰性の嫌気性細菌の特徴について学ぶ。	北条史	資料配布、 p193-209、p214-223	講義
10/6	金	3	細菌学各論⑧ （らせん菌）	スピロヘータ目細菌のうち梅毒トレポネーマとボレリア属細菌を学ぶ。レプトスピラ目細菌とブラキスピラ目細菌を学ぶ。カンピロバクター属細菌とその関連疾患、ヘリコバクター・ピロリの性状とのその関連疾患、その他のヘリコバクター属細菌について学ぶ。	大﨑敬子	資料配布、 p227-240	講義
10/12	木	1	細菌学各論⑨ （グラム陰性球菌および球桿菌）	好気性グラム陰性球菌である淋菌、髄膜炎菌、およびモラクセラ属菌と嫌気性グラム陰性球菌であるベイヨネラ属等の細菌についてその培養、生化学的性状、病原性等を学ぶ。また、グラム陰性球桿菌であるアシネトバクター属菌の特徴について学ぶ。	三戸部治郎	資料配布 p210-213	講義
10/13	金	3	細菌学各論⑩（アクチノバクテリア門）	マイコバクテリア科（抗酸菌）について学ぶ。結核、非定型抗酸菌感染症、ハンセン病について学ぶ。コリネバクテリウム属細菌とジフテリアについて学ぶ。	大﨑敬子	資料配布、 p241-263	講義
10/19	木	2	細菌学各論⑪ （口腔内細菌）	口腔内細菌が引き起こす感染症、特に口腔内２大感染症であるう蝕および歯周病について、さらにはこれら疾患および口腔内細菌がおよぼす全身への影響について学ぶ。	須藤直樹	資料配布、 p264-271	講義
10/24	火	3	細菌学各論⑫ （マイコプラズマ等）	最小の細菌に分類され、原発性異型肺炎や泌尿器感染症を引き起こすマイコプラズマ属細菌の特徴、病原性および診断法について学ぶ。また放線菌の一種であるアクチノミセス属菌およびノカルジア属菌の性状と病原性について学ぶ。	蔵田訓	資料配布、 p272-277、 p259-263	講義
10/26	木	2	感染症特論①	正しく細菌と戦うための抗菌薬総論：現在日本では100種類以上の抗菌薬が承認されているが、依然として新規抗菌薬の開発が求められている。なぜこれほどまでに多様な抗菌薬が開発され必要とされてきたのか、抗菌薬の作用機序・耐性機序を分類整理しながら解説する。	鈴木里和	資料配布	講義
10/27	金	3	細菌学各論⑬（リケッチア、クラミジア等）	偏性細胞内寄生性細菌であるリケッチア及びクラミジア（クラミドフィラ）の性状と病原性について学ぶ。	北条史	資料配布、p278-293	講義
10/31	火	2	ウイルス学総論	ウイルスの定義、基本的な性状について理解する。感染による細胞への影響を学ぶ。抗ウイルス薬の作用機序と問題点を理解する。	三戸部治郎	資料配布、 p341-384	講義

2023年度　2年　講義予定表

【基礎感染症学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
11/1	水	1	細菌学各論⑭（真菌）	真菌の性状、特に細菌との違いについて学ぶ。抗真菌薬について学ぶ。酵母、菌糸および胞子からなる真菌の構造を理解する。アスペルギルス、クリプトコッカス、カンジダ、白癬菌などの真菌が引き起こす感染症の症状、診断、治療について学ぶ。	宮﨑義継	資料配布、p310-336	講義
11/8	水	3	ウイルス学各論①（ポックス・アデノウイルス）	ポックスウイルスの性状、構造を理解する。痘瘡および伝染性軟属腫の臨床症状や治療について学ぶ。アデノウイルスの性状、構造を理解する。アデノウイルス感染症としてプール熱、流行性角結膜炎などを学ぶ。	須藤直樹	資料配布、p394-397、 p410-414	講義
11/10	金	3	感染症特論②	実験室でのウイルス感染実験を用いた抗ウイルス薬探索研究を学ぶ。感染症創薬研究の実際を知り、治療薬開発の行程や手法、治療薬に求められる性状とその特徴を学ぶ。	渡士幸一	資料配布	講義
11/14	火	3	ウイルス学各論②（ヘルペスウイルス①）	ヘルペスウイルスの構造、性状、分類を学ぶ。単純ヘルペスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルスの潜伏感染と活性化について学ぶ。これらの感染症の臨床症状、診断、治療などについて理解する。HHV-6 とHHV-7感染症について学ぶ。	大﨑敬子	資料配布、p397-408	講義
11/15	水	1	ウイルス学各論③（ヘルペスウイルス②、パピローマウイルス）	サイトメガロウイルス、エプスタイン・バー（EBV）、HHV-8とその感染症について、症状、診断、治療などを学ぶ。ヒトパピローマウイルスおよびその感染症と予防などを学ぶ。	大﨑敬子	資料配布、p407-410、p414-417	講義
11/15	水	5	ウイルス学各論④（パルボ・ピコルナウイルス）	伝染性紅斑を引き起こすパルボウイルスの性状と病原性を理解する。ピコルナウイルスのうち、エンテロウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス感染症について学ぶ。ポリオーマウイルスおよびその関連疾患について学ぶ。	須藤直樹	資料配布、p418-422, 425-430	講義
11/20	月	3	ウイルス学各論⑩（肝炎ウイルス）	肝炎ウイルスの分類、性状、構造を理解する。A型肝炎ウイルスによる流行性肝炎の臨床像について学ぶ。B型およびC型肝炎ウイルスによる感染症の診断および治療について学ぶ。	渡士幸一	資料配布、p449-454、p530-535	講義
11/20	月	4	ウイルス学各論⑦（オルソミキソウイルス）	インフルエンザウイルスの形態、遺伝子構造、増殖機構、抗原変異、遺伝子再集合について理解する。インフルエンザの疫学、臨床症状、診断、治療および予防について学ぶ。	神谷茂	資料配布、p464-474	講義
11/22	水	1	ウイルス学各論⑥（トガ・フラビウイルス）	風疹および先天性風疹症候群の臨床所見、診断、治療および予防について学ぶ。日本脳炎、黄熱およびデング熱の臨床所見、診断、治療および予防について学ぶ。コロナウイルスおよびSARSについて学ぶ。	三戸部治郎	資料配布、p442-448 p454-461	講義
11/30	木	1	ウイルス学各論⑧（パラミキソウイルス等）	麻疹ウイルスの性状および麻疹の臨床像、診断、治療、予防について学ぶ。SSPEウイルスの構造を理解して、その感染症の臨床像を知る。ラブドウイルス、フィロウイルスの性状について理解する。	須藤直樹	資料配布、p474-498	講義
12/1	金	1	ウイルス学各論⑤（レオ・カリシウイルス）	ロタウイルスの性状、構造を理解する。同ウイルス感染症として乳幼児下痢症の臨床像、診断、治療について学ぶ。ノロウイルス感染症の疫学、診断、治療などを理解する。	須藤直樹	資料配布、p431-437、 p499-506	講義
12/6	水	1	ウイルス学各論⑨（レトロウイルス）	レトロウイルスであるヒト免疫不全ウイルス（HIV）の性状、構造を理解する。AIDSの臨床像を知るとともに、AIDS治療薬の作用メカニズムおよび治療法について学ぶ。	三戸部治郎	資料配布、p507-530	講義
12/7	木	1	ウイルス学各論⑪（プリオン）	プリオンの性状、構造を理解する。プリオン病としてクールー、クロイツフェルト・ヤコブ病の臨床像を学ぶ。スクレピー、ウシ海綿状脳症（BSE）の症状を理解する。	三戸部治郎	資料配布、p536-540	講義
12/11	月	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/11	月	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/11	月	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/11	月	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/11	月	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/12	火	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/12	火	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/12	火	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/12	火	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/12	火	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/13	水	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/13	水	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/13	水	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/13	水	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/13	水	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/14	木	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/14	木	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習

2023年度　2年　講義予定表

【基礎感染症学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
12/14	木	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/14	木	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/14	木	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習
12/15	金	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学（グループ・ディスカッション）	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習(AL)
12/15	金	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学（グループ・ディスカッション）	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習(AL)
12/15	金	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学（グループ・ディスカッション）	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習(AL)
12/15	金	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学（グループ・ディスカッション）	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習(AL)
12/15	金	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学（グループ・ディスカッション）	三戸部治郎、大﨑敬子、須藤直樹、北条　史	資料配布	実習(AL)

年度	2023年度	学年	2年
学科目	細胞生物学	科目ナンバリング	FME-2D02
単位	2単位	コマ数	30コマ
科目責任者	今泉美佳　教授（細胞生化学教室）		
担当教員	教　授　今泉美佳（細胞生化学教室） 准教授　青柳共太（細胞生化学教室） 講師　松崎京子（細胞生化学教室） 非常勤講師　山口英樹（細胞生化学教室）、宮澤恵二（細胞生化学教室）、大塚稔久（細胞生化学教室）		

A．教育の基本方針	分子細胞生物学は、生化学、分子生物学、生物物理学、遺伝学、微生物学等を束ねる統合分野であり、細胞を扱った実験科学である。すなわち、細胞が合成する数多くの様々なタンパク質の機能と脂質の機能、それらの相関関係、及び、細胞内における物質輸送、更に細胞とその周囲環境との相互作用を理解することが、出発点でもあり到達目標でもある。これらの知識を統合することにより、細胞内の複雑なシグナル伝達複合体や、細胞間相互作用のメカニズムが理解できるようになり、医学を含めてその応用分野は限りなく広い。この分野における最近のテクノロジーの発展は著しく、情報の本体は絶えず変化しており、学習すべき内容が飛躍的に拡大してきている。そのため、限られた時間内の学習でその全貌を把握することは不可能に近い。従って学習者自らがその中に興味のもてる命題を見出し、それを解明しようとする精神運動の発動が大変重要である。そのためには、学生の自己学習、継続学習能力の獲得を可能にする教育を行うことが基本方針である。
B．到達目標	細胞レベルで個々の生化学的事象を統合的に把握することにより、疾患の病態生理の理解を深める。 Ｍ１で習得した生物学、分子生物学、生化学の基礎知識をもとに、個々の生化学的事象を細胞レベルでの統合的な理解へと発展させる。この作業によって医師を目指す学生が、疾患の病態生理を理解するために必要な細胞の構造・機能を分子レベルから理解する。
C．修得すべき能力	1.　細胞膜の構造と機能について説明できる。 2.　輸送体とチャネルによる細胞膜輸送について説明できる。 3.　細胞内区画とタンパク質の選別機構について説明できる。 4.　細胞内における小胞の移動について説明できる。 5.　細胞の情報伝達の仕組み（シグナル伝達分子、細胞表面受容体、細胞内シグナル伝達経路）について説明できる。 6.　細胞骨格と細胞運動について説明できる。 7.　細胞周期と細胞分裂・増殖について説明できる。 8.　プログラム細胞死の仕組みについて説明できる。 9.　細胞外マトリックスと細胞間コミュニケーションについて説明できる。 10.　がんの細胞生物学について概説できる。
D．学習内容	講義は、教科書（細胞の分子生物学）を使って講義予定表に沿って行い、前期に終了するものとする。

1.系統講義	概要	期	コマ	担当
〃	細胞膜の構造と機能、輸送体とチャネルによる細胞膜輸送、 細胞内区画とタンパク質の選別、 細胞における小胞の移動、 細胞の情報伝達、 細胞骨格、 細胞周期、プログラム細胞死、 細胞結合と細胞外マトリックス、 がん	前	27	今泉 青柳 松崎 宮澤
2.特別講義	癌浸潤転移と細胞骨格	前	1	山口
〃	シナプスにおける神経細胞間情報伝達	前	1	大塚
〃	癌悪性化の細胞生物学	前	1	宮澤

3.学生参加型講義（アクティブ・ラーニング）の実施法
細胞生物学的な知識と解析手法の理解度を確認するための演習を1コマ行う。
また、特別講義においてリアクションペーパーの提出を通じて行う。

E．実習・課外授業	１．実　　習　Ｍ１後期に行う分子生物学実習に組み込むものとする。 ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」と「講義内容」を読み、教科書「細胞の分子生物学（第6版）」（Newton Press）の相当する部分に目を通しておくこと（各１時間程度）。
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリント、及び教科書の関連ページを熟読して、サブノートを作製するなどを行い、復習すること（各１時間程度）

H．成績評価の方法・基準	１．試験方針 系統講義の内容で、講義の基礎となるもの、論理的な思考法、将来医師・医学者になる者にとって必要かつ基礎事項を出題する。 ２．試験の期日と実施方法 前期終了時に定期試験を行い、不合格者に対しては学年末に定期試験の再試験を行う。 ３．評価方法 定期試験の成績をもとに総合的評価をする。 ４．判定基準 定期試験が100点満点のうち、60点以上の時、合格とする。 ５．定期試験受験資格 医学部学修規定第６条（４）に準ずる。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	THE CELL 細胞の分子生物学（Albertsら著）第6版　Newton Press
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(R)分子細胞生物学　東京化学同人 (R)ヴォート基礎生化学　東京化学同人 (R) Essential細胞生物学　南江堂 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【細胞生物学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	月	3	イントロダクション　及び 膜の構造－１	ガイダンス（講義内容・進級判定基準など）分子生物学・分子細胞生物学と医学との関連について実例を挙げながら解説する。 細胞の膜の構造は脂質分子からなる二重の薄膜が基本となっている。脂質二重層の特徴的な性質である両親媒性、流動性、非対称について解説する。	今泉美佳	565-576	講義
4/3	月	4	膜の構造－２	生体膜の基本構造は脂質二重層だが、膜に特異的な機能の多くは膜タンパクが担っている。膜タンパクの構造と脂質二重層との結合様式について解説する。また、生体膜脂質から合成される生理活性物質について概説する。	今泉美佳	576-594	講義
4/6	木	1	膜輸送－１	細胞膜には様々な膜輸送タンパクが含まれていて、それぞれ特定の溶質を膜を通して輸送する。膜輸送タンパクは運搬体タンパクとチャネルタンパクの二つに分類される。本講義では運搬体タンパクによる輸送（能動輸送、受動輸送）と機能ついて解説する。	今泉美佳	597-611	講義
4/12	水	1	膜輸送－２	膜輸送タンパクのうちチャネルタンパク、特にイオンチャネルによる選択的なイオン輸送と機能について神経細胞を例に挙げて説明する。	今泉美佳	611-638	講義
4/14	金	3	細胞内区画とタンパク質の選別－１	細胞内小器官のタンパク質は細胞質内にあるリボソームで合成され、それぞれが機能する小器官まで運ばれる。この輸送はタンパク質のアミノ酸配列の中にある選別シグナルがシグナル配列やシグナルパッチとして働いて、タンパク質を誘導し、特異的な経路を通って行われる。その概観、輸送系について解説し、引き続き、分子の核内輸送・核外輸送、ミトコンドリアへのタンパク輸送機構について解説する。	今泉美佳	641-669	講義
4/19	水	3	細胞内区画とタンパク質の選別－２	タンパク合成の大部分は小胞体の細胞質ゾルに面した表面で行われる。分泌タンパクのすべてと小胞体自身、ゴルジ体、リソソーム、エンドソーム、細胞膜に輸送されるタンパク質はすべて、まず細胞質から小胞体に取り込まれる。タンパク質が小胞体に取り込まれる機構、小胞体でのタンパク質の折りたたみと品質管理について解説する。	今泉美佳	669-691	講義
4/24	月	1	細胞内における小胞の移動－１	小胞体からゴルジ体、ゴルジ体から別の区画への輸送は小胞輸送とよばれる機構で行われる。小胞は区画の積み荷を集めて出芽することによって生じ、次の区画の膜と融合することで積み荷を配送する。小胞輸送の基本となる出芽と融合の分子機構について解説する。	今泉美佳	695-710	講義
4/27	木	1	細胞内における小胞の移動－２	小胞体からゴルジ体を経由する小胞輸送とトランスゴルジ網からリソソームへの小胞輸送について解説する。	今泉美佳	710-730	講義
4/28	金	3	細胞内における小胞の移動－３	トランスゴルジ網から細胞外部への輸送（エキソサイトーシス）と細胞膜から細胞内への輸送（エンドサイトーシス）について解説する。	今泉美佳	730-750	講義
5/1	月	1	細胞のシグナル伝達－１	細胞における情報伝達の基本、およびGタンパク共役型細胞表面受容体（GPCR）と小分子細胞内仲介物質によるシグナル伝達について解説する。	今泉美佳	813-836	講義
5/9	火	3	細胞のシグナル伝達－２	ある種のGタンパクはホスホリパーゼCの活性化によりイノシトールリン脂質のシグナル伝達経路を活性化する。このイノシトールリン脂質経路を介したシグナル伝達について解説する。また、細胞質カルシウムイオン上昇に応答して活性化されるキナーゼである、Ca2+／カルモジュリン依存タンパクキナーゼ、タンパクキナーゼCを介したシグナル伝達について解説する。	今泉美佳	836-849	講義
5/15	月	1	細胞のシグナル伝達－３	受容体チロシンキナーゼの活性化およびを受容体チロシンキナーゼを介したシグナル伝達（Ras-MAPキナーゼ経路）について解説する。	今泉美佳	850-858	講義
5/19	金	1	細胞のシグナル伝達－４	受容体チロシンキナーゼを介したシグナル伝達（PI3キナーゼ-Aktシグナル経路）について解説する。講義の最後にGPCR、受容体チロシンキナーゼ、あるいはその両方によって活性化される細胞内シグナル伝達経路のまとめを行う。	今泉美佳	859-862	講義
5/23	火	1	細胞骨格－１	細胞骨格は微小管、アクチンフィラメント、中間径フィラメントの３種類のタンパク繊維を元に構築されている。これら細胞骨格繊維の特徴と機能、その起源について解説する。またアクチンフィラメントの調節に関わる様々な補助タンパク質の機能について学ぶ。	松崎京子	889-914	講義
5/26	金	1	細胞骨格－２	ATP加水分解のエネルギーを使って、微小管あるいはアクチンフィラメントに沿って動くモータータンパク質（ミオシン、キネシン、ダイニン）について解説する。また微小管の構造と動態、その調節に関わる補助タンパク質についてまとめる。	松崎京子	915-944	講義
6/2	金	1	細胞骨格－３	中間径フィラメントの構造と機能について解説する。また細胞移動における、アクチンフィラメントを中心とした細胞骨格の役割と、補助タンパク質やモータータンパク質の協調した働きについて学ぶ。	松崎京子	944-962	講義
6/2	金	3	特別講義－１	癌浸潤転移と細胞骨格。講義終了後、リアクションペーパーの提出をもってALとする。	山口英樹	配布プリント参照	講義(AL)
6/5	月	1	細胞のシグナル伝達－５	サイトカインなどにより活性化されるJak-Stat経路とTGFβ-Smad経路、および、発生過程において重要な役割を果たすNotchについて免疫やがんとの関連を示しながら解説を行う。	青柳共太	863-867	講義
6/9	金	1	細胞のシグナル伝達－６	発生過程などにおいて重要な役割を果たすWnt、Hedgehog、NFκBを介したシグナル伝達経路について解説を行う。発生やがん、免疫との関連を示しながらそれぞれのシグナル伝達経路に関わる主要な分子について解説する。	青柳共太	867-880	講義
6/16	金	1	特別講義－２	シナプスにおける神経細胞間情報伝達。講義終了後、リアクションペーパーの提出をもってALとする。	大塚稔久	配布プリント参照	講義(AL)
6/19	月	3	細胞周期－１	細胞周期を調節するサイクリンやCdkの制御機構を解説した後、S期の制御機構について解説を行う。	青柳共太	963-977	講義
6/22	木	1	細胞周期－２	細胞周期の中で最もダイナミックな過程であるM期について、染色体および細胞骨格の挙動に着目して解説する。	青柳共太	978-996	講義
6/26	月	1	細胞周期－３	M期の最後におこる細胞質分裂について解説した後、各種のフィードバック機構による細胞周期の制御機構について解説する。	青柳共太	996-1018	講義
6/26	月	2	細胞死	多細胞生物では不要となった細胞はプログラム細胞死つまりアポトーシスにより破壊される。アポトーシスのしくみについて解説する。	今泉美佳	1021-1032	講義
6/29	木	1	細胞結合と細胞外マトリックス－１	生体を構成する上で重要な閉塞結合・固定結合・連絡結合について解説を行う。さらに各細胞接着に関与する分子とその分子機構について解説を行う。	青柳共太	1035-1057	講義

2023年度　2年　講義予定表

【細胞生物学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
6/30	金	1	がん	がんの分子生物学：１）腫瘍の形態と分類 ２）化学的因子、物理的因子とウイルス発癌 ３）癌遺伝子と癌抑制遺伝子 ４）遺伝性腫瘍の原因遺伝子 ５）腫瘍発生のメカニズム	宮澤恵二	1091-1141	講義
7/5	水	1	特別講義－３	癌悪性化の細胞生物学。講義終了後、リアクションペーパーの提出をもってALとする。	宮澤恵二	配布プリント参照	講義(AL)
7/6	木	1	細胞結合と細胞外マトリックス－２	細胞外基質を構成する分子について解説を行い、各構成分子の役割について解説を行う。	青柳共太	1057-1074	講義
7/7	金	1	細胞結合と細胞外マトリックス－３	細胞と細胞外基質をつなぐインテグリンについて解説した後、インテグリンを介した細胞機能の制御機構について解説を行う	青柳共太	1074-1081	講義
7/7	金	3	演習	細胞生物学的な知識と解析手法の理解度をCBTの方式に準拠した小テストにより確認する。その後、各問題の解説を行うことで半年間学んだ細胞生物学の復習を行い、ALとする。	今泉美佳、青柳共太	配布プリント参照	講義(AL)

年度	2023年度	学年	2年
学科目	熱帯病・寄生虫学	科目ナンバリング	FME-2E05
単位	2単位	コマ数	30コマ
科目責任者	三戸部治郎　教授		
担当教員	准教授　　竹尾暁（感染症学教室・寄生虫学部門） 講　師　　新倉保（感染症学教室・寄生虫学部門） 学内講師　　北条史（実験動物施設） 非常勤講師　春木宏介（獨協医科大学埼玉医療センター）、中村（内山）ふくみ（東京都立墨東病院）、案浦健（国立感染症研究所）、坂西梓里（麻布大学） 学外講師　　森田達志（日本獣医生命科学大学）		

A．教育の基本方針	輸入感染症を含めた熱帯病、寄生虫病の現状を把握し、その感染経路、形態および生理など基礎的知識を理解するとともに病態、診断、治療、予防についての臨床的知識を身につけることを基本方針とする。
B．到達目標	人体寄生虫の分類・形態・生活史を学ぶことにより、宿主（ヒト）-寄生虫相互作用の観点から寄生虫疾患の病態生理を理解し、さらにその診断法・予防法を導き出す能力を身につけると共に、治療法を理解する。今後、輸入寄生虫疾患の増大が危ぶまれる我が国の状況を理解し、さらに熱帯病・寄生虫症がもたらす健康問題や疾病の予防について地球規模の視野にたって理解できる能力を養うことを到達目標とする。
C．修得すべき能力	1．原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を説明できる。 2．寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。 3．寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。 4．日和見感染症と寄生虫症の重症化を説明できる。 5．各臓器・器官の主な寄生虫症を説明できる。 6．人畜共通寄生虫症について説明できる。 7．寄生虫症の診断、治療と予防の概要を説明できる。 8．病害動物による直接的害と間接的害を説明できる。

D．学習内容

総論として熱帯病及び寄生虫病の基礎知識と現状について、各論としてそれぞれの寄生虫疾患の感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法などについて学ぶ。また、感染源としての病害動物について理解する。さらに、重要熱帯病に関しては、その疫学と対策、新薬開発の現状について知る。

1．系統講義　年間コマ数（18）

項　目	概　　要	期	コマ	担当
人体寄生原虫学	熱帯病・寄生虫学総論。 人体寄生原虫学総論。 各論（原虫類の形態、感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など）。	前	5	新倉
人体寄生蠕虫学	人体寄生蠕虫学総論。 各論（線虫類・吸虫類・条虫類の形態、感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など）。	前	8	新倉 竹尾
臨床寄生虫学	渡航医学の現状	前	1	春木
	日本における寄生虫感染症の現状 （アクティブ・ラーニング形式）	前	2	中村
衛生動物学	病害動物の形態、臨床症状、検査・診断、治療、　予防法など。	前	2	森田

アクティブ・ラーニングの実施法：寄生虫分野に詳しい感染症専門医が実際に診断した症例を通じて、学生と対話形式の授業を行う。

E．実習・課外授業

1．実習の基本方針
主たる寄生虫や感染源の構造・形態、寄生部位などの基本的事項を理解するとともに、主な検査・診断法について体得する。

2．実習の項目　年間コマ数（12）

項目*	概　　要	期	担当
原虫類	消化管寄生原虫の観察	前	教室員全員
	血液および組織寄生原虫の観察	前	〃
線虫類	魚類からの線虫の採取・観察 寄生線虫の虫体・虫卵の観察	前	〃

吸虫・条虫類	感染動物からの条虫の採取・観察 吸虫・条虫の虫体・虫卵の観察	前	〃

（*生鮮材料調達の都合上、実習の順序が前後する場合がある）

実習で提示された症状の鑑別疾患、検査法、診断について学生間でディスカッションしながら自主的に進める。用意された検査材料を用いて標本を作製・観察し、ディスカッションで導き出された診断の根拠となる情報を揃える。診断の過程をグループごとに発表し、質疑応答する。

３．課外教育
希望者には、論文抄読会などの課外教育を行う。

F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書により関連事項についての情報を得た上で、これに目を通しておくこと（各回1時間程度）。
G．復習学習の内容	教科書の関連ページや講義で配布されたプリントを熟読して復習すること（1時間程度）。実習各回の前に関連講義内容を復習することが、C.に掲げる能力の最終的な修得に、特に有効である。
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 講義および実習で学んだ基本的事項を正しく理解したか総合的に評価し、本科目の最終成績を決定する。 ２．定期試験と再試験 定期試験：本科目は前期のみで履修が完了し、筆記試験を前期定期試験期間に行う。記述方式と多肢選択方式を併用する。全ての講義及び実習内容から出題する。試験後に、模範解答・配点を開示する。 再試験：筆記試験を学年末に行う。定期試験を含む総合評価が60点未満の者を対象とする。出題方式と範囲は定期試験に準ずる。 ３．実習レポート 実習（3コマ×4回）の各回終了時に、観察結果とデータをまとめたレポートの提出を義務付ける。実習中に許可なく退出した者のレポートや、期限後の提出レポートは、受理されない。レポートは適宜コメントを付され、返却される。 ４．講義・実習の出席の取り扱いと定期試験受験資格 学修規定第6条(4)に準じて受験資格を講義出席により判定する。実習はそれ自体が必修である。正当な理由により欠席する場合は、個別に判断する。 ５．本科目合格の基準と成績の評価法 （１）判定の基準 定期試験の点数が６割以上、または再試験の点数が６割以上であることを基準に、上級学年での学修に適応できると判断された場合に合格とする。 （２）成績の評価法 定期試験および実習態度、総合討論およびレポートの内容を元に総合的に評価する。 再試験受験者の最終成績は、学修規定第8条により決定される。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	吉田幸雄・有園直樹著　図説人体寄生虫学（第10版）南山堂　2021年（最新10版を入手する。本書中の図表を筆記試験に引用することがある。）
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)「寄生虫症薬物治療の手引き」熱帯病治療薬研究班編集（シラバス作成時点、最新2020年改訂 10.2版） わが国における熱帯病・寄生虫症の最適な診断・治療法がまとめられている資料である。熱帯病治療薬研究班のホームページ (https://www.nettai.org/)よりPDF版を自由にダウンロードできるので、活用を強く勧める。また、熱帯病治療薬研究班のホームページからは、本手引きの他にも、「マラリア 検査・治療・予防の手引き」「トキソプラズマ症の手引」など、有用な随時更新資料を入手可能なので、活用を勧める。 (R) 神谷 茂　監修　標準微生物学（第14版）医学書院 2021年 M2基礎感染症学の指定教科書。第VII編 寄生虫学 を上記教科書「人体寄生虫学」と併読することを勧める。特にマラリア、トキソプラズマ、糞線虫などの項については、教科書と同等以上の活用を勧める。 ※(R)：Remedial　…　教科書の理解を助けるような補助的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 上村 清 他 著　寄生虫学テキスト（第４版）文光堂 2019年 (R) 吉田 幸雄 他 著　医動物学（第8版）南山堂 2023年，ISBN:978-4-525-17328-9. (R) Zeibig 編, Clinical Parasitology - A Practical Approach（2nd ed）Elsevier 2012年, ISBN:978-1-4160-6044-4. (R) Nabarro L. 他 著, Peters' Atlas of Tropical Medicine and Parasitology（7th ed）Elsevier 2019年, ISBN:978-0-7020-4061-0. ※(R)：Remedial　…　教科書の理解を助けるような補助的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2023年度　2年　講義予定表

【熱帯病・寄生虫学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/4	火	4	総論 原虫性疾患（1）	総論で寄生虫の分類と生活環、寄生虫疾患の検査・診断の概要を学ぶ。原虫学総論で原虫の分類とその特徴を理解する。各論では、アメーバ赤痢、アメーバ性角膜炎について、起因原虫の形態と生活環、症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	新倉保	8-9、24-31、36-37	講義
4/5	水	3	原虫性疾患（2）	アメーバ性髄膜脳炎、アフリカ睡眠病やシャーガス病、リーシュマニア症について、起因原虫の形態と生活環、症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	新倉保	34-35、38-45	講義
4/12	水	3	原虫性疾患（3）	ランブル鞭毛虫（ジアルジア）、膣トリコモナス、クリプトスポリジウム、トキソプラズマなどの形態や生活環を理解する。また、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	新倉保	46-61	講義
4/19	水	5	原虫性疾患（4）	マラリアについて、起因原虫であるマラリア原虫の形態と生活環、症状、検査・診断を学ぶ。5種のヒトマラリアのうち、死の転帰をとる熱帯熱マラリアと他のマラリアとの違いを理解する。	新倉保	62-73	講義
4/26	水	3	原虫性疾患（5）	マラリア原虫の治療薬とその作用機序について学ぶ。また、マラリアワクチンの現状について学ぶ。	新倉保	62-73	講義
5/10	水	1	衛生動物学（1）	日常診療において遭遇しやすいダニ類（特にマダニ類）や昆虫類による直接的害と間接的害について理解し、その対処法を学ぶ。	森田達志	209-210、218-251	講義
5/10	水	2	衛生動物学（2）	引き続き、ダニ類や昆虫類による害について学ぶ。また、ダニ類や昆虫類が媒介する感染症について学ぶ。	森田達志	209-210、218-251	講義
5/12	金	3	臨床寄生虫学 渡航医学の現状	グローバルヘルスの観点から寄生虫疾患の重要性を理解し、特に顧みられない熱帯病とそれに対する対策について学ぶ。	春木宏介	教科書全般	講義
5/17	水	1	蠕虫性疾患 線虫症（1）	線虫類の特徴を理解する。各論では、土壌伝搬線虫（ヒト回虫、ズビニ鉤虫・アメリカ鉤虫、ヒト鞭虫、糞線虫）とヒト蟯虫の形態や生活環を理解する。また、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	竹尾暁	87-97、106-121、126-127、144-145	講義
5/24	水	3	蠕虫性疾患 線虫症（2）	ヒトに幼虫移行症を起こす線虫のうち、アニサキス、旋尾線虫、顎口虫、旋毛虫の形態や生活環を理解し、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	新倉保	98-105、128-133、146-147	講義
5/29	月	1	蠕虫性疾患 線虫症（3）	広東住血線虫、糸状虫（バンクロフト糸状虫、マレー糸状虫、回旋糸状虫、ロア糸状虫、イヌ糸状虫）の形態や生活環を理解し、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	竹尾暁	122-125、134-143	講義
6/1	木	1	蠕虫性疾患 吸虫症（1）	吸虫類の特徴を理解する。各論では、肝吸虫症、横川吸虫症、肺吸虫症について、起因吸虫の形態と生活環、症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	新倉保	88、149-167	講義
6/6	火	1	蠕虫性疾患 吸虫症（2）	肝蛭と住血吸虫の形態や生活環を理解する。また、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	新倉保	172-183	講義
6/13	火	1	蠕虫性疾患 条虫症（1）	条虫類の特徴を理解する。各論では、日本海裂頭条虫、広節裂頭条虫、クジラ複殖門条虫の形態や生活環を理解する。また、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	新倉保	88、185-193, 207	講義
6/14	水	3	蠕虫性疾患 条虫症（2）	無鉤条虫と有鉤条虫、小形条虫、縮小条虫の形態や生活環を理解する。また、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	新倉保	196-199、204-205、207	講義
6/19	月	4	蠕虫性疾患 条虫症（3）	マンソン孤虫症（マンソン裂頭条虫幼虫症）とエキノコックス症（単包虫症と多包虫症）について、起因条虫の形態と生活環、症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	新倉保	194-195、200-203、207	講義
6/21	水	3	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（1）原虫類	新倉保、竹尾暁、坂西梓里、北条史	実習書	実習(AL)
6/21	水	4	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（1）原虫類	新倉保、竹尾暁、坂西梓里、北条史	実習書	実習
6/21	水	5	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（1）原虫類	新倉保、竹尾暁、坂西梓里、北条史	実習書	実習(AL)
6/22	木	3	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（2）原虫類	新倉保、竹尾暁、坂西梓里、北条史	実習書	実習(AL)
6/22	木	4	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（2）原虫類	新倉保、竹尾暁、坂西梓里、北条史	実習書	実習
6/22	木	5	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（2）原虫類	新倉保、竹尾暁、坂西梓里、北条史	実習書	実習(AL)
6/29	木	3	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（3）線虫類	新倉保、竹尾暁、案浦健、北条史	実習書	実習(AL)
6/29	木	4	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（3）線虫類	新倉保、竹尾暁、案浦健、北条史	実習書	実習
6/29	木	5	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（3）線虫類	新倉保、竹尾暁、案浦健、北条史	実習書	実習(AL)
7/6	木	3	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（4）吸虫・条虫類	新倉保、竹尾暁、案浦健、北条史	実習書	実習(AL)
7/6	木	4	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（4）吸虫・条虫類	新倉保、竹尾暁、案浦健、北条史	実習書	実習
7/6	木	5	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（4）吸虫・条虫類	新倉保、竹尾暁、案浦健、北条史	実習書	実習(AL)
7/11	火	3	臨床寄生虫学 日本における寄生虫感染症の現状（1）	寄生虫感染症は決して過去の病気ではなく、現在も国内感染例・輸入感染例がある。寄生虫分野に詳しい現役の感染症専門医が実際に診療した症例を通して、寄生虫病の臨床を学ぶ。講師と学生の対話形式による能動的な学習体系にて実施する。	中村（内山）ふくみ	教科書全般	講義(AL)
7/11	火	4	臨床寄生虫学 日本における寄生虫感染症の現状（2）	引き続き、実際に診療した症例が示される。講師と学生の対話形式で議論を展開して、これまで学んだ知識を臨床現場で活かす力を養う。	中村（内山）ふくみ	教科書全般	講義(AL)